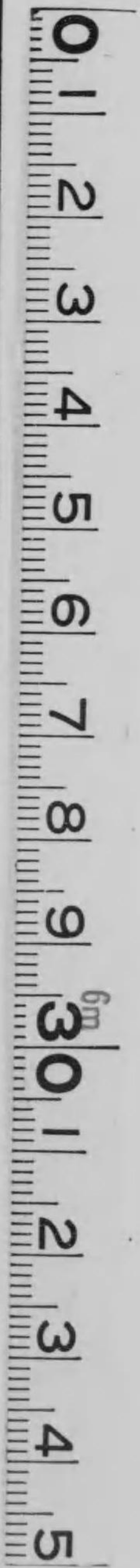


70
207



始



會社早判り

大正十年度

70-307



會社早わかり

大正十年度

大正
9. 12. 28
内交

凡 例

一、『會社早判り』は毎年一回新たに編纂するものにして、本書は其の第六次編纂にかゝり、一切の材料は、大正九年一月より十二月迄に蒐集したるものなり。

一、本書は、既設及び新設の諸會社に就て、其の事業又は財産上の消長が、各方面利の害に關聯する所大なるべきものを採擇し、之れを採録したるものなり。

一、諸會社の順位は、東京株式取引所の定期建株に名を列するものを先にし、次に現物市場に於て、其の株式賣買の頻繁に行はるゝ諸會社を以てし、以下事業別によりて、新舊諸會社を排列せり。

大正九年十二月

會社早判り目次

日本郵船	一	帝國製糖	一九	新潟鐵工所	一九
東洋汽船	二	明治製糖	二〇	北海道炭礦	二〇
大阪商船	三	臺南製糖	二二	入山採炭	二二
東京海運	四	臺東製糖	二三	九州炭礦	二三
日本海運	五	南滿洲製糖	二三	大日本炭礦	二四
富士瓦斯紡績	六	久原鑛業	二四	磐城炭礦	二五
鐘淵紡績	七	寶田石油	二六	東京製網	二五
日清紡績	八	日本石油	二七	日本皮革	二七
東洋紡績	九	橫濱取引所	二六	明治皮革	二八
大日本紡績	一〇	東京米商取引所	二六	日本鋼管	二九
相模紡績	一一	大阪堂島米穀	二七	日東製鋼	二九
大日本製糖	一二	大阪株式取引所	二七	東京鋼材	三〇
鹽水港製糖	一三	名古屋株式	二七	東京製鐵	三〇
臺灣製糖	一四	東京株式取引所	二七	東京キヤリコ	三一
東洋製糖	一五	南滿洲鐵道	二八	東京毛織	三一
新高製糖	一六	橫濱船渠	二八	東京絹毛	三二
		石川島造船所	二九	東洋モスリン	三二
		浦賀船渠	二九	上毛モスリン	三三

東京モスリシ	一九	南海鐵道	七六	橫濱正金銀行	九六
大日本人肥	二〇	常總鐵道	七九	日本興業銀行	九七
日本窒素肥料	二二	小倉鐵道	八〇	東京信託	九七
電氣化學工業	二三	富士身延鐵道	八一	東京火災保險	九八
日本パイント	二四	播州鐵道	八二	橫濱火災海上	九八
日本化學肥料	二五	中朝鮮中央鐵道	八三	共同火災保險	九九
日本化學工業	二六	小田原電鐵	八四	東京建物	一〇〇
關東酸曹	二七	京濱電鐵	八五	東洋拓殖	一〇一
ラサ島燐礦	二八	橫濱電鐵	八六	秋田木材	一〇三
橫濱魚油	二九	京阪電鐵	八七	南洋貿易	一〇四
星製藥	三〇	阪神電鐵	八八	東京瓦斯	一〇五
品川白煉瓦	三一	阪神急行	八九	名古屋瓦斯	一〇六
愛知セメント	三二	名古屋電鐵	九〇	北海道瓦斯	一〇七
日本セメント	三三	伊那電軌	九一	廣島瓦斯電軌	一〇八
淺野セメント	三四	王子電軌	九二	東京電燈	一〇八
東武鐵道	三五	京成電軌	九三	名古屋電燈	一〇九
博多灣鐵道	三六	東京灣汽船	九四	橫濱電氣	一一〇
青梅鐵道	三七	内國通運	九五	九州電燈鐵道	一一三

宇治川電氣	一一三	日本活動寫真	一一三	東亞製粉	一一三
京城電氣	一一四	富士製紙	一一三	橫濱倉庫	一一四
利根發電	一一五	王子製紙	一一五	日本銀行	一一五
朝鮮瓦斯電氣	一一六	日本紙器	一一六	勸業銀行	一一五
鬼怒川水力	一一七	樺太工業	一一七	北海拓殖銀行	一一五
猪苗代水力	一一八	帝國製麻	一一八	臺灣銀行	一一六
桂川電力	一一九	日本製麻	一一九	朝鮮銀行	一一六
富士水電	一二〇	大日本麥酒	一二〇	朝鮮拓殖銀行	一一七
九州水力電氣	一二一	加富登麥酒	一二一	東京府農工銀行	一一六
揖斐川電化	一二三	麒麟麥酒	一二三	第一銀行	一一六
帝國電燈	一二四	帝國麥酒	一二四	第三銀行	一一九
東信電氣	一二五	日東製氷	一二五	十五銀行	一二〇
郡山電氣	一二六	東洋捕鯨	一二六	第百銀行	一二〇
富士電氣	一二七	日魯漁業	一二七	帝國商業銀行	一二一
古河電氣工業	一二八	輸出食品	一二八	明治商業銀行	一二一
函館水電	一二九	日本漁業	一二九	豐國銀行	一二二
東京電氣	一三〇	日本製粉	一三〇	東海銀行	一二三
東京瓦斯電氣	一三一	日清製粉	一三一	明治生命保險	一二三

帝國生命	一六四	大日本紡織	一七三	橫濱製綱	一八二
萬歲生命	一六四	小田原紡織	一七三	東海鉛管	一八二
日清生命	一六五	東京麻糸紡織	一七四	マストラ鐵工	一八三
東洋生命	一六五	東京紡織	一七四	川北電氣企業	一八三
日本生命	一六六	滿蒙毛織	一七五	月島機械	一八四
仁壽生命	一六六	朝鮮紡織	一七五	亞鉛電解	一八四
明治火災保險	一六六	足利紡織	一七六	大日本電球	一八五
帝國火災	一六七	旭紡織	一七六	日本電線	一八五
千代田火災	一六七	内外紡績	一七六	東京硫酸	一八六
日本火災	一六八	日華紡織	一七七	北海曹達	一八六
帝國海上運送	一六八	羊毛整製	一七七	日本坩堝	一八七
東洋海上	一六九	日木麻絲	一七八	帝國石油	一八七
日米信託	一六九	臺灣製麻	一七八	大日本石油鑛業	一八八
帝國證券信託	一七〇	東京製線	一七九	日寶石油	一八八
日章信託	一七一	東海鋼業	一七九	日本煉炭	一八九
日本證券	一七一	大島製鋼所	一八〇	若松炭礦	一八九
上海取引所	一七二	芝浦製作所	一八一	茨城無煙炭礦	一九〇
大連株式商品	一七三	富士製鋼	一八一	茨城採炭	一九〇

磐城採炭	一九一	支那興業	二〇〇	早川電力	二〇九
東邦炭礦	一九一	中華企業	二〇一	帝國冷蔵	二一〇
磐城セメント	一九二	日露實業	二〇一	東京市街自動車	二一〇
日本煉瓦	一九二	滿洲興業	二〇二	國際活映	二一一
王子煉瓦	一九三	馬來護謨公司	二〇二	日本林業	二一一
東洋耐火煉瓦	一九三	ホルネオ護謨	二〇三	明治漁業	二一一
日本コンクリート	一九四	シヨホール護謨	二〇三	櫻田機械	二一二
日本アスファルト	一九五	南洋護謨	二〇四	王川電鐵	二一二
東洋道路工業	一九六	東京護謨工業	二〇四	京玉電氣軌道	二二三
日清汽船	一九六	東京精米信託	二〇五	金剛山電鐵	二三四
南洋郵船	一九七	漁洲製粉	二〇五		
朝鮮郵船	一九七	高砂麥酒	二〇六		
國際汽船	一九八	北海道製糖	二〇六		
函館船渠	一九八	南洋製糖	二〇七		
朝鮮興業	一九九	日本甜菜製糖	二〇七		
東亞興業	一九九	内外製糖	二〇八		
スマトラ興業	二〇〇	新竹製糖	二〇八		
		日本コナミルク	二〇九		

會社早判り

日本郵船株式會社

東京市麴町區有樂町

電話(自一四四番
丸の内)至一四九番

●設立 明治十八年十月
●資本金 100,000,000圓
●株數 舊株 880,000株
●株額面 5圓拂込濟
●新株 1,200,000株
●株 1株 250錢拂込

●諸積立金 一八、八三、二八〇圓
●後期繰越 二、八八、三〇〇圓
●重役 社長近藤廉平、專務伊藤米治郎、永富雄吉、藤島範平、島村淺夫、中島滋太郎、取締永田仁助、湯河元臣、水川復太、石井徹

●決算期 三月、九月但配當金ハ四月末十月末現在株主ニ交付ス
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料一通二十錢

株式相場	八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
●配當率(上)	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.50	2.80	5.00	6.00	10.00	30.00	
●配當率(下)	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	2.00	7.00	3.00	5.00	4.00		
●舊株	最高 259.90	252.30	257.00	259.00	280.00	180.00	159.00	158.50	149.90	146.00	143.00	147.00
	最低 240.00	231.50	244.00	248.00	255.00	141.50	125.00	131.60	137.00	128.90	129.00	
●新株	最高 145.60	144.90	135.80	134.80	94.50	77.00	73.00	65.40	62.00	59.80	62.00	
	最低 133.00	125.00	126.60	92.00	72.00	65.00	52.00	52.80	52.00	52.00		

當社は戦時中二回の増資を爲し、平和克復後更に戦時危険補償並に船價特別償却金及び平野丸保線

賠償殘金等の整理を行ひ、株主其他へ二千二百三十三萬五千圓を分配したるも、尙一億數千萬圓の積立金を有し、其の所有船價の如きも噸當り平均五十圓内外に切下げある爲め、海運界の不況に遭過しても打撃を受くること尠く、九年三月末の決算に千六百九十九萬六千餘圓の純益金を計上し、年四割配當を行ひたるが、其の後海運界の不況は益々甚しきを加へたる爲め、九月末決算にては年三割配當に減すべく餘儀なくせられたるも、來期以降は五十萬噸計畫に屬する新造船の就航により相當の利益を贏ち得らるべき望みあるを以て、ヨシ海運界の不況にして尙永續するとも、配當は二割前後を以て最少限度と爲し得らるべしとの事である。

東洋汽船株式會社

東京市麴町區永樂町一

電話(自一五〇番
丸の内一至一五三番

●設 立	明治二十九年七月
●諸積立金	一四、三三、三六圓
●社債金	八、五〇〇、〇〇〇圓
●後期繰越	一三、〇六五圓
●重役	社長淺野總一郎、取締役 大川平三郎、大倉喜八郎、 白石元次郎、伊東祐忠、淺 野真三、安田善次郎、原鎗
●決算期	六月、十二月
●書替料	一株券五錢、十株 券十錢、分割又は新券交 付料三十錢
●資本金	三、五〇〇、〇〇〇圓
●株	●舊株 二六〇、〇〇〇株 ●株額面 五圓拂込濟 ●新株 三九〇、〇〇〇株
●配當率(上)	四三年 四四年 大正元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
●配當率(下)	一〇・五〇 一〇・五〇 一〇・五〇 一〇・五〇 一〇・五〇 一〇・五〇 一〇・五〇 一〇・五〇 一〇・五〇 一〇・五〇

株式相場

●株式相場	八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
●舊株	最高 九二〇 八九九〇 八七五〇 八四〇〇 五八〇〇 四八五〇 三九〇〇 三九〇〇 四七五〇
●最低	八七二〇 八二〇〇 六八〇〇 五五五〇 四三〇〇 三六〇〇 三三〇〇 三六〇〇 三六〇〇
●新株	最高 五五〇〇 五八九〇 五五〇〇 五三〇〇 三三〇〇 二八〇〇 一七五〇 一七五〇 二四〇〇
●最低	五三〇〇 四九〇〇 四九〇〇 三六〇〇 二八〇〇 一五〇〇 一四〇〇 一五〇〇 一六〇〇

當社は海運界不況の影響を受くること甚だしく、九年上半年期の如き純益金のみを以てせば一割配當さへ困難にして、配當平均準備金六十五萬圓を繰入れ、前期に比し五分減の一割五分配當を行ひたるが、下半期の成績は一層不良なるが如く、既に配當は一割又は其の以下なるべしと傳へられるのみならず、今後海運界の不況依然たるあらば、或は往年の如き窮境に陥るなきを保すべからずとて極端に前途を悲觀されつゝあるも、會社側にては野田遞相の懇懇にかゝる汽船合同計畫に一縷の望みを囑し、消極的に前途を樂觀し居る模様である。

大阪商船株式會社

大阪市北區富島町六十四番屋敷
出張所東京市日本橋區南茅場町七

電話(一五三番
浪花(五三番

●設 立	明治十七年五月
●諸積立金	六、七、八、五三圓
●社債金	三、五〇〇、〇〇〇圓
●後期繰越	一、四三、三三圓
●重役	社長堀啓次郎、副社長 山岡順太郎、理事加福力太 郎、木村清、深尾隆太郎、 村田省藏、太田丙子郎、取
●決算期	六月、十二月
●書替料	一通五錢、分割又 ハ新券交付料一通二十錢
●資本金	一〇、〇〇〇、〇〇〇圓
●株	●舊株 一、〇〇〇、〇〇〇株 ●株額面 五圓拂込濟 ●新株 一、〇〇〇、〇〇〇株

●決算期 二月、八月
●書替料 一通二十錢、新券

交付料 五十錢

●配當率(上) 六年 二〇〇〇
●配當率(下) 七年 二〇〇〇
●株式相場 八年十二月 二〇〇〇
●株式相場 九年一月 二〇〇〇
●株式相場 九年二月 二〇〇〇
●株式相場 九年三月 二〇〇〇
●株式相場 九年四月 二〇〇〇
●株式相場 九年五月 二〇〇〇
●株式相場 九年六月 二〇〇〇
●株式相場 九年七月 二〇〇〇
●株式相場 九年八月 二〇〇〇
●株式相場 九年九月 二〇〇〇
●株式相場 九年十月 二〇〇〇
●株式相場 九年十一月 二〇〇〇

●株式相場 八年十二月 二〇〇〇
●株式相場 九年一月 二〇〇〇
●株式相場 九年二月 二〇〇〇
●株式相場 九年三月 二〇〇〇
●株式相場 九年四月 二〇〇〇
●株式相場 九年五月 二〇〇〇
●株式相場 九年六月 二〇〇〇
●株式相場 九年七月 二〇〇〇
●株式相場 九年八月 二〇〇〇
●株式相場 九年九月 二〇〇〇
●株式相場 九年十月 二〇〇〇
●株式相場 九年十一月 二〇〇〇

當社は福海、福洋、福勢及び伏木丸の四隻、重量噸一萬六千四百六十六噸の船舶を有すれども、全部他に貸船し、之れによりて得たる備船料を唯一の收入とするものにて、九年九月末締切の決算にては十餘萬圓の利益勘定となりたれども、其の大部分を船價償却に充當して、無配當を發表したのであるが、其の後備船界は益々不振閑散に陥り、繫船のみ増加するの模様であるから、備船料を以て唯一の收入とする當社は、少くとも一、二期間は無配當を繼續する外あるまいと思はれる。

富士瓦斯紡績株式會社

●設立 明治三十九年
●資本金 四、〇〇〇、〇〇〇圓
●株數 舊株 三六、〇〇〇株
●株數 新株 四六、〇〇〇株
●株額面 吾圓拂込済 二、五〇〇圓
●諸積立金 一五〇、三七一、九九圓
●社債 三、〇〇〇、〇〇〇圓
●後期繰越 一、八六二、〇九圓
●重役 社長和 豊治、常務持 田巽、宮本清三郎、取締役 崎榮助、森村開作、日比谷 新次郎、濱口吉右衛門監査
●決算期 五月、十一月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通二十錢
東京府南葛飾郡大島町 電話(自八三番) 至八六番
事務所 東京市日本橋區箱崎町 濱町
藤井謙照、伊藤要藏、湯山 壽介

●設立 明治十五年五月
●資本金 一七、四七、六〇圓
●株數 内拂込 二五、七六、九〇圓
●株數 舊株 一八四、四五株
●諸積立金 三、二五、一三圓
●社債金 三、〇〇〇、〇〇〇圓
●後期繰越 六、六四、三六圓
●重役 會長日比谷平左衛門、專務武藤山治、取締役正純

鐘淵紡績株式會社

●配當率(上) 四年 一〇〇
●配當率(下) 五年 一〇〇
●株式相場 八年十二月 二七八六
●株式相場 九年一月 二七九七
●株式相場 九年二月 二八七〇
●株式相場 九年三月 三、四四〇
●株式相場 九年四月 一、六一〇
●株式相場 九年五月 一、四一五
●株式相場 九年六月 一、七四〇
●株式相場 九年七月 一、九五〇
●株式相場 九年八月 一、〇七〇
●株式相場 九年九月 一、〇五五
●株式相場 九年十月 九、五九〇
●株式相場 九年十一月 一、〇〇〇

當社は九年 月の臨時總會にて一千八百萬圓の資本金を三千八百萬圓に増加する事とし、其第一回拂込に充つるため、上半期の決算にて普通年五割の外八割の特別配當を爲し、更に中華紡績會社を合併して、總資本額を四千百萬圓に増加したのである、ケレども財界激變後の綿糸界は慘憺たる悲境に陥り、先約品の總解合を爲したる上、四割操短を實行し居る状態なるが爲め、下半年に於ける利益の減退は免れ難き所にして、此の結果は配當率の低下となつて現はるべきを豫想せられるのみならず、次期以降とも増資に伴ふ擴張計畫の完成を見る迄は、比較的低率配當を續行するの外なきもの、如くである。

東京府南葛飾郡隅田村 電話本所(二一) 二〇九番
支店 神戸市東尻池

三郎、庄司乙吉、岩尾徳太郎、神野金之助、熊谷辰太郎、書替料 一通五錢、分割又
 郎、大塚和吉、木村知四郎、瀨尾喜兵衛、阿部彦太郎、新券交付料 一通五十
 蒲田政四郎、監査九鬼紋七 決算期 五月、十一月 錢

●配當率(上) 一年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●配當率(上)	一・六〇	一・三〇	三・五〇	六・〇〇	六・〇〇	六・〇〇	三・〇〇
●配當率(下)	一・六〇	一・六〇	二・五〇	四・〇〇	六・〇〇	六・〇〇	三・〇〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●株式相場	最高 三・七〇〇	三・六九〇	三・四二〇	三・五九〇	一九二〇	一六七〇〇	一四四〇〇	一三六〇〇	一九〇〇〇	一四〇〇〇	一三三〇〇
●舊株	最低 三・八〇〇	三・六九〇	三・三二〇	二・七九〇	一九九〇	一七五〇〇	一四四〇〇	一三三〇〇	八三二〇	九七八〇	九一九〇
●新株	最高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
●新株	最低	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

當社は九年五月資本金二千五百萬圓を倍額の五千萬圓に増加し、其の新株五十萬株の内四十五萬株は舊株に割當て、四萬株は濱松紡績會社の株主に交付して包括的に同社の財産を譲受け、残り一萬株は功勞株とし、又濱松紡績の株主に交付せる以外の新株拂込は、同月末の上半期決算にて別途積立金より振替たるものにて、其の後當社は二十八工場、精紡錘數五十五萬二千七百四錘、撚糸錘系四萬四千四百四十八錘、織機臺數一萬三千八百八十九臺、絹糸錘數三千錘を有するに至りたれども、綿糸布界不振の爲め、聯合會の決議に基き四割操短を實行し居る有様にて、従前の如き巨額の利益を擧ぐる能はざるにより、下半期は配當率を引下げて、年三割を爲し、來期以降も成るべく三割配當を續行することに決定した、尙當社の對支發展計畫は、内外經濟界の不振狀況に鑑み、其の遂行を急がざる方針を取り居れるも、經濟界恢復の曉には大々的發展計畫を遂行すべき準備が既に整つて居るさうである。

大日本紡績株式會社 大阪市東區備後町三丁目

●設立 明治二十二年六月 後期繰越 四、二五、三三圓

●資本金 五、〇〇〇、〇〇〇圓 重役 社長菊地恭三、取締役 穴利一郎、田代重右衛門、福本元之助、田村謹壽、金澤仁作、殿村平右衛門、岩田惣三郎、松村謙成、松本宗十郎、佐份利隆、有賀松彦、小寺源吾、監査山口立

●株數 舊株 七八〇、〇〇〇株 一本額面 三圓拂込済 新株 一三、〇〇〇株 三圓拂込済

●諸積立金 二、八五〇、〇〇〇圓

●配當率(上) 四年 元 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●配當率(上)	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇
●配當率(下)	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●株式相場	最高 一九〇〇〇	一八〇〇〇	一八九九〇	—	—	—	—	—	—	—	—
●舊株	最低 一七五〇	一七五〇	一七四〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
●新株	最高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
●新株	最低	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

●決算期 五月、十一月 書替料 一通五錢、分割又 新券交付料 一通二十錢

當社は八年十二月の總會にて資本金三千五十萬圓を五千萬圓に増加するに決し、其の増加資本金千九百五十萬圓に對する新株七十八萬株の拂込金は、別途積立金より振替拂込済みと爲したるものにて、爾後支那に發展すべく、青島、上海及び天津に二三萬錘宛の工場を新設するの計畫の處、突如として財界の激變に遭遇し、此等計畫の遂行に支障を來したるのみならず、營業の上にも甚大の打

撃を受けたる模様にて、當分配當は二割乃至三割見當に止めて、前途に對する發展策を講ずるの方針なりと傳へられて居る。

相模紡績株式會社

東京市京橋區桶町

●設立 大正六年
 ●資本金 10,000,000圓
 ●株 數 舊株 6,000株
 一株額面 吾圓拂込濟
 新株 一四,000株
 ●諸積立金 二,五〇錢拂込
 ●後期繰越 二五,七五圓
 ●重役 社長安部幸之助、專務 幸田成常、常務牧山熊二郎、取締渡邊甚吉、吉村鐵之助
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢、新券交付料 一通三十錢

●配當率(上) 大正六年 七年 八年 九年
 ●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
 ●舊株 最高 九六〇 一,一〇〇 一,二七〇 一,四九〇 一,〇〇〇 六九五 五九〇 四〇〇 三六〇 三六〇 三六〇
 最低 八五〇 八八〇 一,〇三〇 一,〇〇〇 七五〇 四七〇 三三〇 三五〇 三三〇 二五〇 二四八〇 三三〇
 當社は九年上半年期の決算に六十萬千餘圓の利益金を計上して、年一割五分配當を行ひたれども、此利益金中には新株公募益金約十五萬圓を含みたるものにて、之れを控除したる營業利益は四十五萬千餘圓(利益率二割二分弱)であつた、然るに下半年期に入りては第一期計畫に屬する紡績三萬千五百六十鐘の外、第二期計畫に係る三萬二千鐘の内二千四百鐘の運轉可能となりたれども、一方には

紡績聯合會の決議に基き操短を實行して居る結果、運轉鐘數は却て上半期よりも減少して居る上に手持原棉の高値仕入なるが爲め利益を見るの餘地極めて尠なく、旁々、二期は原料價格整理の爲め思ひ却つて配當率を引下ぐるか、然らずんば無配當を爲すの外なきもの、如くである、尙ほ當社は十月一日を以て資本金一千萬圓内拂込二百五十萬圓の東北紡績會社を合併する事に決定し居たれども、東北紡の資産に缺陷あることが問題となり、東北紡側にも合併契約を解除したる上解散すべしと主張するものありて、合併問題は全然行儀みの姿である。

大日本製糖株式會社

東京府南葛飾郡砂村 電話(三〇八番)
東京市日本橋區蠣壳町 濱町(三六番)

●設立 明治二十九年一月
 ●資本金 三,五〇,〇〇〇圓
 ●株 數 舊株 二四〇,〇〇〇株
 一株額面 吾圓拂込濟
 新株 一七〇,〇〇〇株
 ●諸積立金 三七,五〇錢拂込
 ●後期繰越 一〇,一六,六三圓
 ●重役 社長藤山雷太、常務高 山長幸、伊澤良立、取締澤 全雄、鈴木重臣、伊吹震、
 ●書替料 一通十錢分割又ハ 新券交付料 一通二十錢
 ●決算期 四月、十月、但配 當ハ六月、十二月交付ス
 ●配當率(上) 四年 五年 六年 七年 八年 九年
 ●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
 ●舊株 最高 一七〇〇 一九〇〇 一八三〇 一八五〇 一三〇〇 一三九〇 一八〇〇 一八七〇 一〇七五 一〇三〇 八三〇 九三〇
 最低 一六〇〇 一七〇〇 一七三〇 一四〇〇 一三三〇 一三〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 八五〇 一〇〇〇 九五〇 七九〇

新株 最高 八四〇 一〇六〇 一三九〇 一三〇〇 一三三〇 一〇六〇 八九五〇 九二〇〇 七九〇 七二〇 六三〇 七〇〇
 最低 七〇〇 八六〇 一〇一〇 八〇〇 九七〇 八四〇 六三〇 七四〇 六八〇 六六〇 四九〇 六二〇

備考 新株ハ三月迄十二圓五十錢拂込、四月ヨリ三十七圓五十錢拂込トシテノ相場ナリ。

當社は九年四月末締切の決算にて八百二十五萬九千餘圓の純益金を收め、年七割配當を行ひたれども、其の後糖價の暴落により利益を減殺せらるゝに至りたるを、新株の拂込を徴收したる關係上、十月末締切の決算にては配當率を三割乃至四割見當と爲すべき意圖の如くなるが、シカシ當社が豫て朝鮮平壤に於て建設中の能力五百噸の甜菜糖工場は竣成を告げ、九年度の新糖期より操業を開始する事となり爲め、來期以降はコレによつて相當の利益を齎し得らるべき見込みである。

鹽水港製糖拓殖株式會社

臺灣鹽水港廳太子宮堡新營庄五
 出張所東京市日本橋區吳服町 電話 二〇三番
 本社 二〇四番

●設立 明治四十年三月二日 ●諸積立金 七、二〇、六六圓
 ●資本金 五、〇〇、〇〇〇圓 ●社債金 五〇〇、〇〇〇圓
 内拂込二四、六七、五〇〇圓 ●後期繰越 一七、九四圓
 ●株 數 舊株 三五、〇〇〇株 ●重役 社長 榎哲、常務 藤崎三
 一株額面 五圓拂込濟 ●九月末 郎助 數田輝太郎、取締役 高
 新株 二七五、〇〇〇株 橋是賢、岡田祐二、橋本貞
 二、〇〇錢拂込 夫、監査 佐々木幹三郎、原

●配當率 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
 二・〇〇 二・〇〇 二・〇〇 一・〇〇 一・四〇 一・七〇 二・五〇 上二・五〇 二・〇〇 三・〇〇 五・〇〇
 下二・〇〇 二・〇〇 一〇・〇〇

●決算期 三月、九月
 ●書替料 一通五錢、分割又
 ●新券交付料 一通三十錢

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●舊株	最高 一九一〇	二五〇〇	二四九〇	二八〇〇	二八六〇	二七五〇	二四〇〇	九九〇	九九〇	八三〇	九四〇
	最低 一七〇〇	一〇〇〇	一三〇〇	一八〇〇	一三三〇	一七五〇	八七〇	一一〇	八六〇	八二〇	七九〇
●新株	最高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	最低	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 △ハ新株落ナリ。

當社は九年二月の臨時總會にて資本金一千三百七十五萬圓を増加して總額二千五百萬圓と爲すに決定し、其新株二十七萬五千株の内二十二萬五千株は舊株に割當て、二萬株は額面以上の價格を以て公募し、殘二萬株は功勞株として、舊株割當株に對する第一回拂込金に充つるため、三月末決算に於て普通年五割の外臨時特別配當として年五割を附加したのである、然るに其の後糖價の激落したる爲め、九月末締切の半期利益金は三月末のそれに比し約八百萬圓減の二百二十三萬餘圓に下り、年五割配當を爲したるに過ぎざれども、當社は此の外瓜哇糖轉賣利益を次期繰越と爲したる形跡あれば、次期は二割前後の配當を期待して差支へなきもの、如くである。

臺灣製糖株式會社

臺灣臺南廳大竹里打狗
 出張所 東京市日本橋區本石町 電話本局 二九一六番
 一九一七番

●設立 明治三十三年 ●株 數 舊株 五九、〇〇〇株
 ●資本金 三、〇〇、〇〇〇圓 ●諸積立金 一〇、八二、四七圓
 内拂込三、一〇〇、〇〇〇圓 ●新株 六三、〇〇〇株 ●社債 五、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越

一〇、九四、九七圓

●重役 會長藤田四郎、專務山本悌二郎、常務武智直道、常務益田太郎、取締丸田治

四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

太耶、平山寅次郎、草鹿砥祐吉、監査村井吉兵衛、賀田金三郎、ロベルト、ウオルカー、アルウキン、ジュ

●決算期 三月、九月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿圓

●配當率

一・一〇 一・一〇 一・一〇 一・一〇 一・一〇 一・一〇 一・一〇 一・一〇 一・一〇 一・一〇

●株式相場

八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
最高 一七九〇 一七九〇 一八五〇 一八五〇 一五〇〇 一五七〇 一五九〇△一〇〇〇 八八〇〇 八七〇〇 八七〇〇
最低 一五二〇 一八五〇 一六七〇〇 一五〇〇〇 一五〇〇〇 一五〇〇〇 九五〇〇 九三〇〇 八〇一〇 七五七〇 七〇〇〇 七三〇〇

備考 △ハ新株落ナリ。

當社は九年三月末の決算にて一千五百三十三萬餘圓の純益を擧げ、普通特別合せて年五割の外、創立二十年記念として年五割の配當を爲し、同時に事業の發展擴張を試むべく、從來の資本金二千九百八十萬圓を一躍六千三百萬圓に増資したのである。然るに九月末決算の純益金は糖價暴落の爲め激減して、六百七十九萬餘圓を計上したるに過ぎなかつたけれども、増資新株の拂込を徴収する必要上株主の立場をも考慮して、普通特別合せて年五割の配當を爲し、コレが爲め約百萬圓の繰越金を喰込んだのであるが、次期以降の成績は糖價の高低如何による事勿論なれども、拂込資本金の膨脹せる點より見て、配當は二割内外に減せられるであらうと推測される。因に當社が前年來九州及び臺灣溪州に建設中なりし製糖工場は既に竣成を告げ、九年度産糖期より操業を開始する豫定である。

東洋製糖株式會社

臺灣嘉義廳嘉義市燈町區有樂町

電話丸ノ内(五二六番 五二七番)

●設立 明治四十年二月

●資本金 三〇、〇〇〇、〇〇〇圓

●株數 舊株 二五、〇〇〇株
一株額面 五〇圓拂込済
新株 四元、〇〇〇株

●諸積立金 七、五〇〇、〇〇〇圓

●配當率 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
最高 一八三〇 二二九〇 二六六〇 二八〇〇 一三四〇 二六〇〇 一〇五〇 九六〇〇 八四〇〇 八五〇 七三〇 八二〇
最低 二五二〇 一九五〇 一九五〇 一九五〇 二二二〇 九三〇 七六〇 七九〇 六六〇 六二〇 七二〇

●舊株

當社は九年六月末の決算にて千百三十六萬三千餘圓の利益を擧げ、普通特別合せて年七割の配當を爲し、同時に一千二百五十五萬圓の資本金を三千四百萬圓に増加したのである、而して此の増資は先年買収したる大正製糖の産糖區域内、並に沖繩群島の産糖區域内に各能力五百噸の製糖工場を建設するため、其の資金調達の上實行したるものにして、兩工場共十一年春頃迄に竣成せしめる豫定である、ケレドモ其の竣成前は矢張舊工場の設備を利用するに過ぎないのであるから、十年度

●社債金

六、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越

一〇、〇〇、〇〇〇圓

●重役 社長下坂藤太郎、常務日向利兵衛、田村藤四郎、取締松方五郎、藤田謙一、石川昌次、宮本政次郎、松方乙彦、宮尾麟、人來重彦

●決算期 六月(年一回)

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通二十錢

●監査渡邊甚吉、大賀基作

備考 新株ハ七月ヨリ五十圓拂込トシテノ相場ナリ。

當社は九年三月末締切の決算にて七百八十三萬八千餘圓の利益を擧げ、年十割の配當を爲したれども、其の後糖價の暴落したる爲め、九月末決算の利益金は二百四十七萬七千餘圓に激減して、漸く年三割配當を爲し得たるに過ないのである、然るに當社は此不成績にも頓着せず、資本金千五百萬圓を倍額の三千萬圓と爲すべく、其の新株は十二月末日現在株主に割當る事、並に總額六百萬圓を越えざる範圍に於て社債を發行するの計畫を立て、株主總會の承認を経るや否や社債六百萬圓を發行したるは、餘りに大膽なる遺方なりと非難する向もあるが、何れにせよ當社の前途には樂觀すべき何等の材料もないやうである。

明治製糖株式會社

臺灣臺南廳麻豆庄 東京市麴町區有樂町

電話 丸ノ内 一八五番

●設 立	明治三十九年三月
●資本金	三、五〇〇、〇〇〇圓
●株 數	內拂込 二九、〇〇〇、〇〇〇株 舊株 二九〇、〇〇〇株 新株 三〇〇、〇〇〇株
●積立金	七、五〇〇、〇〇〇圓
●後期繰越	六三三、六三三圓
●重役	社長相島半治、專務有島健助、千葉平次郎、藤野幹、取締役井佳久、植村澄
●決算期	三月、九月
●書替料	一通十錢、分割又ハ新券交付料一通三十錢
●配當率	四三年 1.10 四四年 1.10 元年 1.10 二年 1.10 三年 1.10 四年 1.10 五年 1.10 六年 1.10 七年 1.10 八年 1.10 九年 1.10

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●最高 一八七九〇 二〇七九〇 三三三〇〇 三三三〇〇 一七六〇〇 一七三〇〇 一四〇〇〇 一三三〇〇 九八〇〇 九三〇〇 八六〇〇 九三〇〇

●最低 一六七九〇 一九五〇〇 一八〇〇〇 一七六〇〇 一六〇〇〇 一三九〇〇 八七六〇 一九一〇 八三六〇 八〇六〇 七五〇 七九四〇

當社は九年三月末締切の決算に八百四十萬圓の利益金を計上し、創立十五年の記念配當を加へて年十割八分の配當を爲し、同時に舊來の資本金一千二百萬圓を一躍三千萬圓に増加し、更に七月に至り大和製糖會社を併合して總資本金を三千二百五十萬圓と爲し、益々新界に雄飛するの計畫を立てたれども、其の後糖價の激落したる爲め、九月末締切の中期利益金は三百六萬餘圓に減じ、約百萬圓の前期繰越金を喰込んで年六割配當を爲すの不成績に終つたのである、シカシ當社は現在三百萬圓の配當準備金の外、六十六萬餘圓の繰越金を有すれば、次期以降も年一割二分位の配當は裕に續行し得らるべきものと見受けられる。

臺南製糖株式會社

臺灣臺南廳 東京市日本橋區伊勢町一

電話 二六五番 本局 二八七番

●設 立	明治四十五年一月
●資本金	一七、〇〇〇、〇〇〇圓
●株 數	內拂込 二六、二五〇、〇〇〇圓 舊株 四〇、〇〇〇株 一株額面 五圓 拂込済 九三〇、〇〇〇株 新株 三〇、〇〇〇株
●諸積立金	一、三三三、三六六圓
●後期繰越	二六〇、〇一五圓
●重役	社長鈴木梅四郎、常務川上熊吉、麻生誠之、取締役河井芳太郎、岩崎清七、波江野吉太郎、鈴木伊十、大坪嘉太郎、中村邦次郎、陳
●決算期	六月(年一回)
●書替料	一通十錢、分割又ハ新券交付料 一通三十錢
●鴻鳴、坂井郁太郎、監査安部幸之助、高津久右衛門、里見四郎、岩崎利兵衛	

●配當率

株式相場	元	二	三	四	五	六	七	八	九			
●株式相場	八十二月	九一月	二二月	三三月	四四月	五五月	六六月	七七月	八八月	九九月	十十月	十一月
●舊株	最高 七八〇	八〇〇	八二〇	八四〇	八六〇	八八〇	九〇〇	九二〇	九四〇	九六〇	九八〇	一〇〇〇
	最低 六三〇	七〇〇	七二〇	七四〇	七六〇	七八〇	八〇〇	八二〇	八四〇	八六〇	八八〇	九〇〇
●新株	最高 五七〇	五九〇	六一〇	六三〇	六五〇	六七〇	六九〇	七一〇	七三〇	七五〇	七七〇	七九〇
	最低 四七〇	四九〇	五一〇	五三〇	五五〇	五七〇	五九〇	六一〇	六三〇	六五〇	六七〇	六九〇
●第二	最高 三九〇	四一〇	四三〇	四五〇	四七〇	四九〇	五一〇	五三〇	五五〇	五七〇	五九〇	六一〇
	最低 三〇〇	三二〇	三四〇	三六〇	三八〇	四〇〇	四二〇	四四〇	四六〇	四八〇	五〇〇	五二〇

當社は九年十月の臨時總會にて、姉妹會社たる資本金四百萬圓(四分の一拂込)の宮古製糖會社を合併する事に決定した、即ち當社は合併の爲めに新たに額面五十圓内十二圓五十錢拂込の株式六萬五千株を發行してコレを宮古製糖に交付し、宮古製糖の株式に對する配當金は九年七月一日より起算し支拂ふ事に決定したのであつて、合併後に於ける當社の資本金は二千二十五萬圓、株數四十萬五千株なる筈である、宮古製糖は沖繩縣宮古島に於て二百噸の製糖工場を建設する計畫であつたけれども、未だ事業に着手して居ないのであるから、差當り當社は合併によりて何等利する所はあらずまいと思はれる。

臺東製糖株式會社

出張所 臺東廳卑南 東京市麹町區八重洲町一
電話 九ノ内(二七四番)

●設立

大正元年

●後期繰越

一九二〇圓

●決算期

六月(年一回)

●資本金

三、五〇〇、〇〇〇圓

●重役 社長安場末喜、專務丸田治太郎、取締役吉野周太郎、渡邊勝三郎、若尾鐵之助、

●書替料 一通十錢、分割又新券交付料 一通三十錢

●株數

一株額面五圓拂込 七〇、〇〇〇株

●査内池三十郎、松原重榮

●諸積立金 100,000圓

●配當率

元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
—	—	—	—	—	—	—	—	—

●株式相場

最高	最低	八十二月	九一月	二二月	三三月	四四月	五五月	六六月	七七月	八八月	九九月	十十月	十一月
七二〇	四二〇	五八〇	五九〇	六〇〇	六一〇	六二〇	六三〇	六四〇	六五〇	六六〇	六七〇	六八〇	六九〇
四二〇	三二〇	四九〇	五〇〇	五一〇	五二〇	五三〇	五四〇	五五〇	五六〇	五七〇	五八〇	五九〇	六〇〇

備考 六月迄ハ四十五圓拂込、七月ヨリ五十圓拂込トシテノ相場ナリ。

當社は九年六月末締切の決算にて三十四萬一千餘圓の利益を擧げ、創業以來の最高記録を作りたれど、配當は拂込資本金の増加して居る爲めに前年度の年一割を續行したのであつた、然るに其の後更に拂込金を徴収して資本金全額拂込済みなれる一方、糖價は激落して殆ど生産原價に近づきつゝある状況なれば、次年度の成績は到底良好なる能はざるべく、配當も一割を續行する事は困難であらうと推測される。

南滿洲製糖株式會社

東京市日本橋區吳服町一〇 電話本局三七六二番

●設立 大正五年
 ●資本金 一〇,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 一〇〇,〇〇〇株
 ●株額面五圓內五圓拂込
 ●諸積立金 三九八,〇〇〇圓

●後期繰越 一五〇,一五〇圓
 ●重役 社長荒井泰治、常務白石重太郎、志倉光繼、取締役橋本貞夫、大橋新太郎、小西和、岡田祐二、監査吉村鐵之助、石本鑽太郎、濱田

●決算期 六月、十二月
 ●書替料 一通五錢、新券交付料 一通二十錢

正稻、慎哲、大淵三樹

●配當率(上) 六年 〇・〇〇 七年 一・〇三 八年 二・〇〇 九年 二・〇〇
 ●配當率(下) 〇・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇

●株式相場 八年十二月 九〇・〇〇 九月 九〇・〇〇 八月 九〇・〇〇 七月 九〇・〇〇 六月 九〇・〇〇 五月 九〇・〇〇 四月 九〇・〇〇 三月 九〇・〇〇 二月 九〇・〇〇 一月 九〇・〇〇

當社は九年上半年期の決算に七十萬五千餘圓の純益金を計上して、年二割配當を行ふたが、下半年期は糖價の暴落したる爲め、他社並に利益を減殺されて居るには相違なけれど、年二割配當を續行するは左程困難ならざるのみならず、明年度と雖も糖價の更に低落せざる限りは、相當の配當を續行し得らるべしとの事である。

久原鑛業株式會社

●設立 大正元年
 ●資本金 七五,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 舊株 六〇〇,〇〇〇株 新株 九〇〇,〇〇〇株
 ●諸積立金 三〇,八元、六元圓
 ●後期繰越 五、七元、六元圓

●出張所 大阪市北區中ノ島二ノ一四 電話(自九三番) 丸ノ内(至九六番)

●重役 社長久原房之助、専務竹内維彦、中山説太郎、取締役齋藤浩介、小池張造、監査員 查鴻池善右衛門、齋藤茂太、貝島太市

●決算期 五月、十一月

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通二十錢

●配當率(上) 元年 一・〇〇 二年 一・〇〇 三年 一・〇〇 四年 一・〇〇 五年 一・〇〇 六年 一・〇〇 七年 一・〇〇 八年 一・〇〇 九年 一・〇〇

●配當率(下) 元年 一・〇〇 二年 一・〇〇 三年 一・〇〇 四年 一・〇〇 五年 一・〇〇 六年 一・〇〇 七年 一・〇〇 八年 一・〇〇 九年 一・〇〇

●株式相場 八年十二月 九〇・〇〇 九月 九〇・〇〇 八月 九〇・〇〇 七月 九〇・〇〇 六月 九〇・〇〇 五月 九〇・〇〇 四月 九〇・〇〇 三月 九〇・〇〇 二月 九〇・〇〇 一月 九〇・〇〇

當社は近年銅界不況の打撃を受け、社運甚だしく振はざりし折柄、突如として財界の動搖に遭遇したる爲め、自衛上生産制限を實行するに共に、同業會社協議の上、産銅組合を組織して銅の販賣値段を定め、且つ内地の滯銅を輸出して、需給の均衡を保たしむべく努力しつゝあるも、何分銅界の不況は其の根底深く、容易に恢復すべき見込なきのみならず、現在の協定販賣値段にては、漸く生産費を償ふに過ぎざる勘定にて甚だ心細き次第であるが、シカシ當社は石油事業の前途に多大の望みを囑し、一時休止せる新潟縣下の油田に於て採掘を開始し、其他北樺太に於ける油田の實地調査中でもあるから、モシ其の結果にして良好なるに於ては、社運を挽回すること左程困難でもあるまいと推測される。

寶田石油株式會社

新潟縣長岡市 東京市麴町區八重洲町一ノ一 電話(自六七五番) 丸ノ内(至六七七番)

●設立 明治二十六年三月
●資本金 10,000,000圓

●諸積立金 8,398,323圓
●後期繰越 4,003,277圓

●決算期 三月、九月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料一通二十錢

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●配當率(上) 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000

●重役 社長橋本圭三郎、專務 福島甲子三、津下紋太郎、取締役渡邊藤吉、中野貫一、

●株 數 舊株 300,000株 一株額面 50圓拂込済 新株 100,000株

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●配當率(下) 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000

●株 數 舊株 300,000株 一株額面 50圓拂込済 新株 100,000株

●備考 新株ハ三月迄十二圓五十錢拂込、四月ヨリ三十圓拂込トシテノ相場ナリ。當社は九年九月末締切の決算にて六百二十四萬九千餘圓の利益を擧げ、年四割配當を續行した、其の後の事業狀況も大體に於て順調を持續し、殊に秋田縣道川、豐川、羽川油田は何れも成績良好であるのみならず、添川油田も近く成功すべき見込にて、日産二千七八百石を維持し得るは勿論、更に若干の増産を期待されて居る、其の上政府は國防上産業上石油政策樹立の必要を認め、採掘補助法を制定すべく準備中なりと傳へられ、又現に北樺太油田調査、南洋油田開發等に就いても相當の援助を與へつゝあるやに傳へられて居るから、免も角當社の前途は大なる興味を以て注目するの必要がある。

日本石油株式會社

東京市麴町區有樂町 電話九ノ内(自一一五〇番) 至一一五五番

●設立 明治二十一年四月
●資本金 40,000,000圓

●諸積立金 22,250,000圓
●後期繰越 3,370,000圓

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通二十錢

●株 數 舊株 400,000株 一株額面 50圓拂込済 新株 400,000株

●重役 社長内藤久寛、專務田中次郎、常務中野鐵平、取締役久須美秀三郎、松方乙彦

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●配當率(上) 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000

●配當率(下) 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000 1.000

●株 數 舊株 400,000株 一株額面 50圓拂込済 新株 400,000株

●當社は九年上半年期の決算に六百十七萬六千餘圓の利益金を計上して年三割五分配當を行ふたが、下

新株 最高
最低

備考 △ハ新株落ナリ。

當社は財界に大動搖を來せる九年上半年に於て七十萬餘圓の利益を收めて年三割六分の配當を行ふたが、下半年に入りては米穀市場及び綿糸市場共稍閑散に陥り、且つ相場も久しく保合を持続したる爲め、手数料収入の減退を來し、到底上半年同様の配當を爲す能はざるも、當社が豫て計畫中なりし第三部取引即ち豆粕、小麥取引市場は十月十五日を以て開始し、現に相當の賣買取引高を算しつゝあるのみならず、前途尙賣買取引高の増加すべき望みもあれば、米穀及び綿糸部の収入と相俟つて、相當の高率配當を爲すを得べく、旁當社の前途は樂觀して可なりである。

株式 大阪堂島米穀取引所

大阪市北區堂島濱通二丁目

●設立	明治九年九月	●諸積立金	三五圓拂込 九七九、〇〇〇圓	監査祇園清次郎、宮崎敬介 武内作平	
●資本金	六、〇〇〇、〇〇〇圓	●後期繰越	三五、〇〇〇圓	●決算期	五月、十一月
●株數	内拂込 四、七五〇、〇〇〇圓 舊株 七〇、〇〇〇株 一株額面 五〇圓拂込濟	●重役	理事 長高倉爲三、理事 上田彌兵衛、藤野正年、後崎照道、支配人 吉田武衛、	●書替料	一通十錢、分割又ハ新券交付 一通二十錢
●配當率	上 一・三〇 下 一・二〇	●新株	四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年 一・三〇 一・二〇 一・五〇 一・三〇 一・五〇 一・八〇 一・八〇 三・〇〇 三・〇〇 一・八〇 二・二〇 二・〇〇 二・六〇 三・〇〇		

●株式相場	八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月	●最高	七二〇〇
●最低	六二〇〇		

當社は九年上半年に於て五十三萬餘圓即ち拂込資本金に對して三割九分弱の利益を擧げ、年三割四分の配當を行ひたれども、下半年に入りて三百萬圓の資本金を六百萬圓に増加し、其の第一回拂込金を徴收したる爲め、市場に於ける手数料収入の格別上半年と大差なきにも拘らず、利益率は幾分低下し居る由にて、配當能力は二割内外と唱へられて居るが、其の拂込資本金の急激に増加せる點より觀る時は、將來とても配當は二割以上を期待し難きもの、如くである。

株式 大阪株式取引所

大阪市東區北濱二丁目

●設立	明治十一年六月	●諸積立金	一三、五錢拂込 一、三三、四九圓	●決算期	五月、十一月
●資本金	四〇、〇〇〇、〇〇〇圓	●後期繰越	三、二七圓	●書替料	一通十錢、分割又ハ新券交付料 一通二十錢
●株數	内拂込 三、五〇〇、〇〇〇株 舊株 三六〇、〇〇〇株 一株額面 五圓拂込濟	●重役	理事 長島德藏、常務理事 宮崎敬介、理事 增山忠次、監査 寺井榮三郎、坂本彌一		
●配當率	上 一・三〇 下 一・〇〇	●新株	四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年 一・八〇 一・八二 一・六六 一・六六 一・四〇 一・四〇 一・五〇 二・〇〇 二・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・五〇 一・五〇		

べき十萬株並に額面以上の價格を以て募集すきべ五十萬株は財界不況の爲め未募集の儘今日に及んだのである、尙ほ八年度の事業狀況は内外經濟界動搖の影響を受けて甚だしく振はず、鐵道運賃を初め石炭賣上代金其他の収入は何れも豫定額に達し居らざるのみか、此の儘推移するに於ては或は前年度に比し多少の減收に終るなきを保すべからざるも、配當は無論年一割を續行し得らるべしとの事である。

横濱船渠株式會社

出張所 横濱市入船町
東京市麴町區永樂町一ノ一

●設立 明治二十四年六月

●社債 五、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越 二五、八〇〇圓

●決算期 五月、十一月

●資本金 一〇、〇〇〇、〇〇〇圓

●重役 社長坂本一、專務宮永萬吉、常務淡中孝八郎、東條玉太郎、取締役須田利信、茂木惣兵衛、原邦造、監査

●書替料 一通十錢、分割又ハ新券交付料 一通三十錢

●株數 一、〇〇〇、〇〇〇株

●諸積立金 三、一〇六、一三五圓

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●最高 一〇〇〇〇 一三〇〇 一三〇〇〇 一六四九〇 九七〇〇 七九〇〇 六五〇〇 六四九〇 六二八〇 六三〇〇 六〇一〇 六三二〇

●最低 九二七〇 九四〇〇 一〇五九〇 一〇〇五〇 七二〇〇 六四〇〇 五二八〇 五七二〇 五七三〇 五九七〇 五九六〇

當社は一般造船界の不振を極めたる九年下半年に於て三隻二萬八千噸の新船を建造し、其他東洋汽船會社の紀洋丸火災復舊工事等を引受け、造船々渠事業共相當の繁忙を極め、副業たる倉庫事業の好況と相俟つて尠からざる利益を収めたが、引續き郵船會社の注文に係る一萬噸型四隻の建造中であるのみならず、其の竣成後は更に郵船會社注文の碎氷裝置船二千七百噸一隻一萬噸型一隻、並に海軍省注文の給油船八千噸型一隻を建造する筈にて、一般造船界が依然不振を繼續しても、當社は其の圏外に立つて相當の好成績を擧げ得らるべき豫想である。

株式會社 東京石川島造船所

東京市京橋區佃島

電話京橋(五六〇番)

●設立 明治二十三年一月

●諸積立金 二、七〇〇、三三三圓

●決算期 五月、十一月

●資本金 五、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越 五二、八三三圓

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通二十錢

●株數 舊株 四、八〇〇株

●重役 社長渡邊嘉一、取締役水釘吉、佐藤一雄、田中茂

●新株 五、二〇〇株

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●最高 一三〇〇 一三五〇 一六〇〇 一七九〇 一二七〇 八二〇〇 七〇九〇 六八〇〇 六三九〇 七三六〇 五九九〇 六三七〇

●最低 一〇、〇〇〇 一三、〇〇〇 一七、九〇〇 二〇、〇〇〇 一八、九〇〇 一六、九〇〇 一五、〇〇〇 一五、九〇〇 一五、二〇〇 一五、九〇〇

新株 最高 九八〇 一四四〇 一五八〇
最低 六九〇 九五〇 一〇三〇 一〇五〇

當社は九年上半年に於て百二十萬餘圓の利益を収め二割五分の配當を行ふたが、下半年に入りては海運界の不況甚だしきを加へたる爲め、造船注文は殆ど杜絶同様の状態となり、既注文船を建造するに過ぎざれども、來期以降は海軍省より巡洋艦の建造を引受くる事に内定し居りて、當分造船作業に差支へなきを得る見込であるのみならず、造船事業以外の鐵工事業も格別財界動搖の打撃を受けず、既に來期一杯の作業を支持し得るの製作を引受け居る爲め、來年上下兩期位は未だ成績の悪化するか如き事はあるまいと思はれる。

浦賀船渠株式會社

東京市麴町區永樂町一ノ一

電話(自二三六番 丸ノ内)至二三九番

- 設立 明治二十九年十月
- 資本金 一〇,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株數 舊株 一〇〇,〇〇〇株
新株 一〇〇,〇〇〇株
- 諸積立金 二・五〇錢拂込
●後期繰越 二・七二、六〇圓
- 重役 社長町田豐千代、專務 今岡純一郎、取締役松木幹一、西園寺龜次郎、監査林
- 配當率(上) 三年 四〇% 四年 五〇% 五年 一・五〇
(下) 三年 一〇% 四年 二〇% 五年 三〇% 六年 四〇% 七年 五〇% 八年 六〇% 九年 七〇%
- 決算期 六月、十二月
- 書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●舊株	最高 二六〇〇	一四一〇	一三〇〇	一〇九〇	一〇〇〇	七三〇	六〇〇	五八九〇	六七〇	六五二〇	六二〇〇	六三〇〇
最低 一七〇〇	二九六〇	二八〇〇	一〇〇一〇	八四一〇	五九五〇	四〇〇〇	五二〇〇	五五三〇	五五三〇	五五三〇	五五三〇	五五三〇
●新株	最高 五五五〇	七三九〇	七九〇	四五六〇	二六六〇	二六六〇	一九八〇	二五五〇	三三九〇	二〇九〇	二〇九〇	二〇九〇
最低 五二六〇	五九〇	六六〇	四六五〇	二六九〇	一九一〇	一〇七〇	一五〇〇	一三五〇	一六八〇	一六二〇	一八〇〇	一八〇〇

當社は九年上半年に於て合會計十一隻三萬五千餘噸の船舶を建造したれど、其の利益として決算に計上し得たるは百五萬五千餘圓にして、前期に比し稍見劣りたる爲め、配當は一割減の年二割に止めたのである、けれども當社は其の後各方面より合計十二隻七萬七百噸の新船注文を引受け、其の建造に依然繁忙を極めて居るのみならず、行くくは海軍擴張に伴ふ艦艇の建造をも引受くる筈であるから、四圍の形勢に大變化を來さざる限りは、年二割配當を續行する事は左程困難ではなからうと信ぜられる。

株式會社 新潟鐵工所

東京市丸の内

電話(自九九六番 丸ノ内)至九九八番

- 設立 明治三十三年六月六日
- 資本金 五,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株數 舊株 四〇,〇〇〇株
新株 六〇,〇〇〇株
- 諸積立金 二・五〇錢拂込
●後期繰越 四七、八八圓
- 重役 專務笹村吉郎、取締役 藤久寛、本間新作、鍵富三、監査久須美秀三郎、中
- 決算期 五月、十一月
- 書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上)

四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

●株式相場

八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
最高 七四〇〇	—	—	八五〇〇	六〇〇〇	四九〇〇	四九〇〇	—	四二〇〇	五〇〇〇	—	四八〇〇
最低 七四〇〇	—	—	六三〇〇	五五〇〇	四九〇〇	三九〇〇	—	四〇〇〇	四九〇〇	—	四八〇〇

●新株

最高 二四六〇	三三〇〇	三三九〇	—	三八〇〇	二五四〇	二〇〇〇	一九八〇	二〇〇〇	—	—	二二八〇
最低 二二〇〇	二四五〇	二六五〇	—	二九二〇	一九九〇	一八〇〇	一七五〇	一九八〇	—	—	一七〇〇

備考 新株ハ三月迄十二圓五十錢拂込、四月ヨリ二十五圓拂込トシテノ相場ナリ。

當社は月島工場にて發動機關、マシンツール等の器械類を製作する外、長岡、柏崎、土崎の四工場に於て石油鑿井機を製作して居る、近時石油採掘事業の益々盛大に赴くに從ひ、鑿井工具の註文著しく増加し、又發動機其他の器械類の賣行きも可なり良好にして、各工場共相當繁忙を極めて居る、尤も戦時中建造したる木造船二隻は賣却の機會なく、今尙手持となり居りて、海運界不況の爲め運賃稼すら爲し能はざるも、來期に入らば新設の蒲田ターセル機關製造工場の操業開始により、利益の増加すべき望みもあるから、配當は無論一割二分を續行し得らる、見込である。

北海道炭礦汽船株式會社

東京市日本橋區本革屋町五

電話(五〇三)番 本局

●設立 明治廿二年十一月

●資本金 七〇,〇〇〇,〇〇〇圓

●株數 普通株 四〇,〇〇〇株
一株額面五圓拂込濟

●優先株 一八〇,〇〇〇株

●新株 一株額面五圓拂込濟
八〇,〇〇〇株

●二〇〇錢拂込

●諸積立金 八、六九四、八六圓

●社債金 一六、〇〇〇,〇〇〇圓

●後期繰越 五五〇,三三圓

●重役 會長 園琢磨、專務 磯村 (六月末)

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上)

四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

●株式相場

八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
最高 一〇七九〇	一〇九六〇	一〇四〇〇	一〇九九〇	八六四〇	七三三〇	六六五〇	六四〇〇	五九六〇	五九〇〇	五八〇〇	六四六〇
最低 一〇一〇〇	九九九〇	九九九〇	八五九〇	七六六〇	六四〇〇	五二〇〇	五四〇〇	五五二〇	五五二〇	五三三〇	五三四〇

●優先

最高 一〇八〇〇	一〇九四〇	一〇三七〇	一〇九八〇	八三五〇	六八七〇	六六〇〇	六二八〇	五九六〇	五九六〇	五九六〇	六五五〇
最低 一〇〇七〇	九八八〇	一〇一〇〇	八五〇〇	七四〇〇	六四六〇	五三四〇	五五九〇	五七〇〇	五七〇〇	五五八〇	五九八〇

●新株

最高 一〇〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
最低 一〇〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

當社は九年一月石狩石炭を合併して礦區を整理すると共に、銳意採炭設備の擴張を圖り、尙清水澤驛附近に於て新規鑿坑を開鑿すべく準備中の處、偶ま財界に激變を來したるを以て、鑿坑開鑿一時之を中止する事と爲したれども、石狩石炭合併後に於ける礦區整理及び採炭設備擴張の結果として、今や半期間に百五十萬噸を採掘し得る事となりたれば、今後炭價の暴落せざる限り、一割五分位の配當を續行する事困難ならざるべきも、唯だ當社の礦區は時に瓦斯爆發等の災害により、多數の人命を傷ふの危険性を有する事が大なるの缺點である。

入山採炭株式會社

東京市京橋區南箱町十八

電話京橋(五四二番)

●設立 明治二十八年五月

●資本金 六〇,〇〇〇,〇〇〇圓

●株數 舊株 三〇,〇〇〇株

●株數 新株 一〇〇,〇〇〇株

●株數 一株額面五圓拂込済

●株數 井正芳、町田健、監査梅澤

●株數 本眞一、取締福川忠平、藤

●株數 重役 專務廣瀬春吉、常務吉

●株數 後期繰越 九六、八〇圓

●株數 諸積立金 三五圓拂込

●株數 決算期 五月、十一月

●株數 書替料 一通五錢、分割又

●株數 新券交付料 一通二十

●株數 錢

●株數 最高 六〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

●株數 最高 五〇〇〇

●株數 最低 五〇〇〇

當社は六年下半年期以來五割配當を續行し、九年上半期には更に一割増しの六割配當を行ひたれども同期の利益金は百三十九萬二千餘圓にして、其の内より六割配當として百五萬圓を支出したるものなりしかば、世間配當率の過大なるを難する向きもあつたが、果然下半年期は石炭の需要減と市價の低落により、利益金は頓に減退して、配當率を減するの不結果に終つたのである、尤も當社の權は前社長福川忠平氏一派より大倉男一派の手に移り、今後大倉男一派にて經營する筈なれば、従前は多少面目を異にするであらう。

九州炭礦汽船株式會社

東京市麴町區有樂町一ノ一

電話丸ノ内(四八番)

●設立 明治四十年十一月

●資本金 五、〇〇〇,〇〇〇圓

●株數 内拂込 三、五〇〇,〇〇〇圓

●株數 一株額面五圓内三圓拂込

●株數 重役 社長兼專務妻木栗造

●株數 取締 神谷傳兵衛、木村久壽

●株數 彌太、監査賀田金三郎、各

●株數 後期繰越 三三、二〇圓

●株數 諸積立金 六三、六八圓

●株數 決算期 四月、十月

●株數 書替料 一通五錢、分割又

●株數 新券交付料 一通廿錢

●株數 最高 一、二八〇

●株數 最低 九一〇

●株數 最高 九一〇

●株數 最低 九一〇

●株數 最高 九一〇

●株數 最低 九一〇

●株數 最高 九一〇

●株數 最低 九一〇

●株數 最高 九一〇

●株數 最低 九一〇

●株數 最高 九一〇

●株數 最低 九一〇

●株數 最高 九一〇

●株數 最低 九一〇

●株數 最高 九一〇

●株數 最低 九一〇

●株數 最高 九一〇

●株數 最低 九一〇

●株數 最高 九一〇

●株數 最低 九一〇

●株數 最高 九一〇

當社は九年四月末締切の決算に四十六萬七千餘圓の利益金を計上して年一割八分の配當を爲したれども、十月末決算の利益は三十萬四千餘圓に減少して、年一割二分配當をなす爲めに約六萬圓の前期繰越金を喰込んだのである、シカモ此の利益金の減少は炭價の低落したにも拘らず、經費を節約する事が出来ない結果であつた、即ち當社の採炭礦區が交通の不便なる地點にあつて、賃銀其他の採掘費を節約する時は、一定の採炭率を維持する事が出来ないものであつて、今後尙ほ炭價の低落するに於ては、他と大いに事情を異にする丈に、或は一割二分配當の維持も恐らく困難であらうと思はれるのである。

大日本炭礦株式會社

東京市麴町區永樂町一ノ一

電話 自八〇番 丸ノ内一至八二番

●設立 大正五年
●資本金 一〇,五〇〇,〇〇〇圓

●借入金 一,三五九,九〇〇圓
●後期繰越 二六〇,七五〇圓

●決算期 五月、十一月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●株數 舊株 八〇,〇〇〇株
●株額面 圓拂込済 一六,〇〇〇株
●新株 同上

●重役 社長古賀春一、常務 香綠、千澤平三郎、岡村潛藏、木村勝藏、取締松本孫右衛門、岡野悌二、島定治郎、桑田知明、増田侃、柏原左源太、高岡唯一郎、林

●諸積立金 三〇〇,八〇〇圓

●配當率 上 一〇〇〇 下 二〇〇〇

●株式相場 八年十二月 九〇〇 九年一月 九〇〇 二月 九〇〇 三月 九〇〇 四月 九〇〇 五月 九〇〇 六月 九〇〇 七月 九〇〇 八月 九〇〇 九月 九〇〇 十月 九〇〇 十一月 九〇〇 十二月 九〇〇

●株式相場 八年十二月 九〇〇 九年一月 九〇〇 二月 九〇〇 三月 九〇〇 四月 九〇〇 五月 九〇〇 六月 九〇〇 七月 九〇〇 八月 九〇〇 九月 九〇〇 十月 九〇〇 十一月 九〇〇 十二月 九〇〇

●新株 最高 四〇〇 最低 四〇〇

●舊株 最高 五八〇 最低 五八〇

當社は九年上半年に於て五十四萬六千餘圓の利益を収めたけれども、其の内十四萬圓を固定資産償却に、三十萬圓を特別償却に、二萬圓を法定積立に充て、残り八萬六千餘圓に前期繰越金十二萬九千餘圓を加へたる二十一萬六千餘圓を後期繰越と爲し、同時に社員の淘汰を行ひ、其他各方面に亘

つて緊縮方針を取つたのである、而して其の結果は半期間約三十萬圓の經費を節約し得る事となりたるのみならず、採炭設備も完整して半期間三十萬噸の採炭可能となつたのであるから、今後炭價の暴落しない限り、一割位の配當を爲す事は左程困難でもあるまいと信ぜらる。

磐城炭礦株式會社

東京市京橋區湊河岸二〇

電話 京橋 三五番 八元番

●設立 明治廿六年十二月
●資本金 九,〇〇〇,〇〇〇圓

●諸積立金 一,八三四,九〇〇圓
●後期繰越 四七五,七〇〇圓

●決算期 五月、十一月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通二十錢

●株數 舊株 二〇,〇〇〇株
●株額面 圓拂込済 六,〇〇〇株
●新株 同上

●重役 社長淺野總一郎、常務 渡邊六藏、倉田龜吉、取締 尾高幸五郎、渡邊勝三郎、

●配當率 上 一〇〇〇 下 二〇〇〇

●株式相場 八年十二月 九〇〇 九年一月 九〇〇 二月 九〇〇 三月 九〇〇 四月 九〇〇 五月 九〇〇 六月 九〇〇 七月 九〇〇 八月 九〇〇 九月 九〇〇 十月 九〇〇 十一月 九〇〇 十二月 九〇〇

●舊株 最高 一八〇〇 最低 一六八〇

●新株 最高 一八〇〇 最低 一六八〇

當社は九年七月資本金六百萬圓を九百萬圓に増加し、其新株六萬株は舊株二株に付一株宛割當て、

第一回拂込金一株十二圓五十錢合計七十五萬圓の内三十八萬圓は、別途積立金より振替拂込の形式を取つたのである、而して此増資は高阪礦業等の擴張工事を完成し、採炭高を増加するが爲めに實行したるものなれど、財界の不況よりして石炭の需要漸く減せんとするに當り、積立金を振替へて資本金を膨脹せしめたる點より見る時は、將來は兎も角、二期は利益率の低下を免れ難きもの、如くである。

東京製綱株式会社

東京市京橋區三十間堀町

電話京橋(四七番) 四〇八番

竹山純平

●設立 明治二十八年四月
●資本金 10,000,000圓

●株 數 舊株 110,000株
●株 數 新株 80,000株

●株 數 一株額面五圓拂込済
●株 數 新株 八〇,〇〇〇株
●株 數 二〇〇錢拂込

●諸積立金 三、八四、二三圓
●社債 三、〇〇〇,〇〇〇圓
●後期繰越 三〇七、九七圓
●重役 會長山田昌邦、常務赤松範一、戸村理順、取締役倉喜八郎、深山正、藤倉見達、監查渡部朔、山田進、

●決算期 五月、十一月
●書替料 一株券五錢、十株券十五錢、分割又ハ新券交付料一株券廿錢、十株券五十錢

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
●配當率(下) 一・六〇 一・六〇 一・六〇 一・六〇 一・四〇 一・四〇 一・五〇 一・六〇 二・六〇 三・〇〇 三・〇〇 二・五〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
●株式相場 最高 二四〇〇 二四〇〇 二五〇〇 二六〇〇 二六〇〇 二八〇〇 二八〇〇 二八〇〇 二八〇〇 二八〇〇 二八〇〇
●株式相場 最低 一八〇〇 一八〇〇 一八〇〇 一八〇〇 一八〇〇 一八〇〇 一八〇〇 一八〇〇 一八〇〇 一八〇〇 一八〇〇

●新株 最高 四四九〇 五五二〇 五九〇 七二〇 四六五〇 三〇〇〇 二九一〇 二四一〇 二四九〇 二四九〇 二八五〇 二〇九〇
●新株 最低 四二〇〇 四九〇 四三〇 五〇〇 三三〇〇 二四〇 一九〇 一八〇 一九〇 二〇〇 一七〇 一八〇

當社は九年上半年に於て八十五萬五千餘圓の利益を擧げたるも、其の拂込資本金に對する割合は二割四分にして、前期の三割配當を續行する能はざる爲め、積立金二萬圓並に繰越金十一萬圓を繰入れて、二割五分配當を行ふたが、下半年に入りては製品の不賣よりして一層利益金の減少を來し、又復た配當率を減する外なき状態であるのみならず、當社は戦時中二回の増資を敢行し、又二回に亘りて事業を縮小したる結果、徒らに資本金のみ過大なる弊もあれば、將來利益率は一割見當迄低下するなきを保し難い。

日本皮革株式会社

東京府南足立郡千住町

電話下谷(七八番) 三九九番

●設立 明治四十年四月
●資本金 10,000,000圓

●株 數 内拂込 四、〇七五、〇〇〇圓
●株 數 舊株 五、〇〇〇株
●株 數 一株額面五圓拂込済
●株 數 新株 一五〇,〇〇〇株

●諸積立金 二二〇、〇〇〇圓
●後期繰越 一八二、二五圓
●重役 會長大倉喜八郎、專務伊藤琢磨、取締役賀田金三郎、高島小金治、町田豐千代、

●決算期 三月、九月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
●配當率(下) 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇

●株式相場

最高	八十二月	九一月	二二月	三三月	四四月	五五月	六六月	七七月	八八月	九九月	十十月	十一月
最高	一五〇〇	一八一五	二八〇〇	八〇〇〇	七〇〇〇	六四〇〇	五九〇〇	五八〇〇	五九〇〇	六〇八〇	五九〇〇	五七〇〇
最低	一四七〇	一四五〇	一五六〇	七〇〇〇	五八〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五二〇〇	五二〇〇	五二〇〇	五二〇〇	五二〇〇
新株	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
新株	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
新株	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低

●設立 明治四十四年七月
●諸積立金 三三、五五〇圓
●後期繰越 九四、一三〇圓
●重役 社長浦邊襄夫、取締役 戸重太郎、内野五郎三、佐藤甚九郎、野中萬助、鈴木重成、福島松男、監査石塚彦輔、渡邊亨、安川隆治
●決算期 三月、九月
●書替料 一通五錢、新券交付料廿錢

明治製革株式會社

●株式相場

最高	十月	十一月
最高	五〇〇〇	七〇〇〇
最低	四八〇	五二五〇

●設立 明治四十四年五月
●諸積立金 一、九五、五五〇圓
●後期繰越 六〇〇、六四〇圓
●重役 會長白石元次郎、取締役 大橋新太郎、岸本吉右衛門、大川平三郎、大倉喜三郎、大田清藏、今泉嘉一郎、伊

株式相場

●設立 明治四十四年五月
●諸積立金 一、九五、五五〇圓
●後期繰越 六〇〇、六四〇圓
●重役 會長白石元次郎、取締役 大橋新太郎、岸本吉右衛門、大川平三郎、大倉喜三郎、大田清藏、今泉嘉一郎、伊

日本鋼管株式會社

●設立 明治四十四年五月
●諸積立金 一、九五、五五〇圓
●後期繰越 六〇〇、六四〇圓
●重役 會長白石元次郎、取締役 大橋新太郎、岸本吉右衛門、大川平三郎、大倉喜三郎、大田清藏、今泉嘉一郎、伊

●株式相場

最高	十月	十一月
最高	五〇〇〇	七〇〇〇
最低	四八〇	五二五〇

●設立 明治四十四年五月
●諸積立金 一、九五、五五〇圓
●後期繰越 六〇〇、六四〇圓
●重役 會長白石元次郎、取締役 大橋新太郎、岸本吉右衛門、大川平三郎、大倉喜三郎、大田清藏、今泉嘉一郎、伊

●設立 明治四十四年五月
●諸積立金 一、九五、五五〇圓
●後期繰越 六〇〇、六四〇圓
●重役 會長白石元次郎、取締役 大橋新太郎、岸本吉右衛門、大川平三郎、大倉喜三郎、大田清藏、今泉嘉一郎、伊

●設立 明治四十四年五月
●諸積立金 一、九五、五五〇圓
●後期繰越 六〇〇、六四〇圓
●重役 會長白石元次郎、取締役 大橋新太郎、岸本吉右衛門、大川平三郎、大倉喜三郎、大田清藏、今泉嘉一郎、伊

●設立 明治四十四年五月
●諸積立金 一、九五、五五〇圓
●後期繰越 六〇〇、六四〇圓
●重役 會長白石元次郎、取締役 大橋新太郎、岸本吉右衛門、大川平三郎、大倉喜三郎、大田清藏、今泉嘉一郎、伊

●設立 明治四十四年五月
●諸積立金 一、九五、五五〇圓
●後期繰越 六〇〇、六四〇圓
●重役 會長白石元次郎、取締役 大橋新太郎、岸本吉右衛門、大川平三郎、大倉喜三郎、大田清藏、今泉嘉一郎、伊

●設立 明治四十四年五月
●諸積立金 一、九五、五五〇圓
●後期繰越 六〇〇、六四〇圓
●重役 會長白石元次郎、取締役 大橋新太郎、岸本吉右衛門、大川平三郎、大倉喜三郎、大田清藏、今泉嘉一郎、伊

●配當率(上) 大正六年 七年 八年 九年
 100 100 100 100
 ●配當率(下) 100 100 100 100

●株式相場 八十二年 九一年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●最高	4000	3600	3800	3500	3200	2900	2600	2500	2400	2300	2200
●最低	3000	2500	2300	2100	1900	1800	1700	1600	1500	1400	1300
●新株	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高

當社は八年下半年末に於て大整理を行ひ、百五十六萬七千餘圓を後期繰越損失と爲したる結果、九
 年上半期には二十六萬三千餘圓の利益を擧たれども、其の全部を損失金の補填に充當し、差引百三
 十萬四千餘圓を後期繰越損金としたのである、けれども當社は既に資本金全額拂込済みである上に
 巨額の借入及支拂手形を有し、尙百三十萬餘圓の損金を後期繰越とした次第であるから、當分配當
 杯は思ひも寄らざる所で、一部重役は此際資本金を二百萬圓位に切下げたき口吻を洩らして居るさ
 うである。

東洋製鐵株式會社

東京市麴町區錢瓶町 電話(六七番) 丸ノ内(六六番)

- 設立 大正六年
- 資本金 40,000,000圓
- 株數 800,000株
- 諸積立金 一株額面50圓内 25,937圓
- 繰越缺損 三五,九三圓
- 重役 社長 郷誠之助、專務中 島久萬吉、常務 西野惠之助、取締役 大橋新太郎、和田豊治、倉地鐵吉、藤山雷太、麻生太吉、鮎川義介、監査 原富

●大郎、安田善三郎、有賀長文 ●書替料 一通五錢、新券交 付料廿錢

●決算期 五月、十一月

●配當率(上) 六年 七年 八年 九年
 100 100 100 100
 ●配當率(下) 100 100 100 100

●株式相場 八十二年 九一年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●最高	3000	2800	2700	2600	2500	2400	2300	2200	2100	2000	1900
●最低	2000	1800	1700	1600	1500	1400	1300	1200	1100	1000	900

備考 九月迄ハ三十七圓五十錢、十月ヨリ四十二圓五十錢十拂込トシテノ相場ナリ。

當社は八年五月百五十噸熔鐵爐の火入式行ふて以來、引續き銑鐵を生産して居れども、市價低落の
 爲めに利益を見るこゝが出来ず、九年上半年期の如きは總收入金十七萬二千圓に對し、總支出金二十
 六萬四千圓に上り、差引九萬二千圓の缺損を生じたのである、ケレども當社が百五十噸熔鐵爐の完
 成に引續き建設工事中の三百噸熔鐵爐は、十年二三月頃迄に完成の上作業を開始する豫定であつて
 其の曉には一日四百噸以上を出銑する事となるのみならず、銑鐵市況も漸く恢復の曙色を認められ
 るのであるから、當社の前途に對しては最早悲觀するに及ぶまいと信ぜられる。

東京キヤリコ製織株式會社

東京府南葛飾郡 吾嬬町龜戸 電話(二〇三番) 本所(二〇六番)

●設立 明治卅九年九月
 ●資本金 五,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 一〇〇,〇〇〇株
 ●株額面 吾圓拂込濟

●諸積立金 八四一,七五〇圓
 ●後期繰越 五,五八〇圓
 ●重役 專務堀越勘治、青木五兵衛、取締役白石兵衛、齋藤嘉吉、山崎勝三郎、杉村

●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率 上 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00
 下 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
 最高 一五〇〇〇 一六〇〇〇 一八五〇〇 二〇七〇〇 一三三〇〇 七六〇 七二〇 六三〇 六三〇 五九〇 五九〇
 最低 一四九〇 一四四〇 一五四〇 一四五六〇 八九〇 六三〇 四六〇 五七〇 五〇〇 四九〇 五五〇

當社は九年二月中株式末拂込金全部を徴収して、資本金五百萬圓拂込濟みと爲したる上、倍額程度の増資を執行すべく準備中の處、突然財界に大動搖を來したるを以て、増資計畫の發表を見合せ、却て事業緊縮方針を取るに至りたる結果、五月末締切の上半期利益金は九十四萬五千餘圓と、八年下半期に比し稍見劣りたれど、配當は依然年三割を執行したのであるが、下半期に入りては綿糸布事業は益々不況に陥り、高値仕入の原棉を多量に有する當社の打撃は尠ならず、所詮此一二期は極端に配當率を減するか、然らざれば積立金を以て補填するの外なきもの、如くにして、世間よりは甚だしく悲觀されて居る、ケレども此處一二期辛抱すれば、先行き一割位の配當は出来るであらうと推測される。

東京毛織株式會社

東京市麴町區八重洲町一丁目

電話 自三五番 丸ノ内一至三五番

●設立 明治卅九年一月

●資本金 三,〇〇〇,〇〇〇圓

●株數 四〇〇,〇〇〇株

●諸積立金 四,六四一,八八〇圓

●配當率 上 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00
下 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
最高 一八四〇〇 二二七〇〇 二〇七〇〇 二二九〇〇 一六二〇〇 二二〇〇 八九〇〇 九三九〇 八三六〇 八三五〇 七六二〇 八三〇〇
最低 一八三〇〇 一八二六〇 一九五〇 一七四〇 一四〇〇 七三〇〇 六〇五〇 七九一〇 七二〇〇 七四九〇 七〇〇〇 七六〇〇

●後期繰越 一,二四〇,三〇一圓

●重役 專務藤田謙一、常務日下吉平、塚口慶三郎、宇佐美薰次、取締役津田五郎、諸井恒平、井田亦吉、日比谷新次郎、監査大橋新太郎

●決算期 五月、十一月

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●門野重九郎

當社は九年四月資本金二千萬圓を倍額半の五千萬圓に増加すると共に、資本金一千萬圓の滿蒙毛織會社を合併するの計畫を立て、之れが承認を求むべく臨時總會召集の手續を爲したれども、突然財界に激變を來し、増資及び合併を遂行するには種々の不便を感じるに至りたる爲め、兎も角も増資及び合併共漸く見合せる事に決定し、引續き五月末締切の決算で年四割の配當を行ふたが、其の後毛織物界の形勢は著しく悪化し、市場滯品を一掃する爲め、生産を制限すべく餘儀なくされたのであつて、目先配當は二割見當迄遞減するなきを保すべからざる形勢である。

東京絹毛紡織株式會社

東京市京橋區日吉町

電話銀座(一八五番)
(一八五二番)

●設立 大正六年

●資本金 10,000,000圓

●株 數 舊株 60,000株
一株額面50圓拂込濟

●株 數 新株 100,000株

●諸積立金 二〇〇錢拂込
三五、八六圓

●後期繰越 二五、七〇七圓

●重役 社長高橋虎太、常務南壽、取締役荒井泰治、渡邊勝三郎、若尾璋八、小野哲郎

●決算期 五月、十一月

●書替料 一通五錢、新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 大正六年 七年 八年 九年
●配當率(下) 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
●最高 九七〇〇 一〇七九〇 一〇七九〇 一〇七九〇 九〇〇〇 六八〇〇 五五〇〇 四九〇〇 四九〇〇 三三〇〇 三三〇〇
●最低 九〇〇〇 八四一〇 一〇三三〇 九〇〇〇 六八五〇 五〇〇〇 三五〇〇 三三〇〇 三三〇〇 二二八〇 三三〇〇

當社は九年四月首腦工場たる沼津工場の第一期計畫を完成し、諸機械三百五十二臺を据付けて、一ヶ年間にトツア五十萬封度、紡毛糸三百五十萬封度、各種毛織物一百万碼の製出可能となつたけれども、内外經濟事情の激變よりして、製品の賣行きは始に杜絶同様の状態となり、折角完成したる沼津工場の全能力を揮つて生産する事も出来ず、収入狀況は従前よりも却て不化化するに至つたのである、而して現状より推せば、今後毛織物類の賣行きが恢復する迄は、株主を満足させる程の配當は到底出来ないものと云ふの外ないのである。

東洋モスリン株式會社

東京府南葛飾郡龜戶町

電話本所(四四番)
(四五番)

●設立 明治四十一年一月

●資本金 一五,〇〇〇,〇〇〇圓

●株 數 内拂込 八、二〇〇,〇〇〇圓
●株 數 舊株 八〇,〇〇〇株
●株 數 一株額面50圓拂込濟

●株 數 新株 二〇〇,〇〇〇株

●諸積立金 一、五七、〇七四圓

●後期繰越 一〇三、四二圓

●重役 會長神戸學一、專務田中海一、取締役若尾幾造、前川太兵衛、小池國三、渡邊

●決算期 五月、十一月

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
●配當率(下) 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
●最高 一九三〇 二〇九〇 二六三〇 二九八〇 一五〇〇 一〇〇〇 一〇四九〇 九六九〇 九四六〇 九七〇〇
●最低 一七〇〇 一九三〇 二〇一〇 二四八〇 一九〇〇 七六〇〇 七九〇 八五〇〇 七三〇〇 七六〇〇 八七〇〇

●新株 最高 一〇〇〇 最低 一〇〇〇

當社は九年上半年末の總會にて新會社合併による増資を決議し、此目的の下に資本金五百萬圓の東洋紡織會社を設立し、其の株式は六月一日現在當社株主ニ對し二株に付一株宛割當て、其の第一回拂込に充つる爲め普通年五割の外特別配當年五割を附加し、紡織會社成立と同時に當社に合併して總資本金千五百萬圓としたのであるが、其の後モスリン界は非常の不況に陥り爲めに斯業會社協議

の上四割方の操短を勵行して、製品の壓迫より来る市價の低落を防止する事となりたれども、當社は幸ひに前々期來手持原料及び製品に對し相當の價格切下げを行ひ來りたる爲め、モスリン界の不況に際しても左程の打撃を受けず、差當り九年下半年には二割配當を爲し得らるべければ、將來も此程度の配當を期待して大過なきもの、如くである。

上毛モスリン株式會社

出張所 群馬縣邑樂郡箱林町 電話(三六番)
東京市日本橋區住吉町一七 瀨町一三番
查齋藤與左衛門、橋田宗太郎、青木新九郎

●設立 明治三十五年四月

●諸積立金 二、九六、〇〇〇圓

●後期繰越 五、三三〇圓

●決算期 五月、十一月
●書替料 一通五錢、分割又
●新券交付料 一通廿錢

●資本 金 一〇、〇〇〇、〇〇〇圓

●重役 專務松尾久男、取締役本鐵次郎、若旅喜一郎、千金樂喜一郎、加賀美理一郎

●株 數 舊株 八、〇〇〇株
●株 數 新株 二〇、〇〇〇株

●株 數 舊株 八、〇〇〇株
●株 數 新株 二〇、〇〇〇株

●株 數 舊株 八、〇〇〇株
●株 數 新株 二〇、〇〇〇株

●配當率(上)

株式相場	最高	最低	新株	最高	最低
八年十二月	一六五〇	一三五〇	最高	一六五〇	一三五〇
九年一月	一八〇〇	一六〇〇	最低	一八〇〇	一六〇〇
九年二月	二二九〇	一八九〇	最高	二二九〇	一八九〇
九年三月	二四九〇	二〇〇〇	最低	二四九〇	二〇〇〇
九年四月	二九〇〇	二四〇〇	最高	二九〇〇	二四〇〇
九年五月	三三〇〇	二八〇〇	最低	三三〇〇	二八〇〇
九年六月	三九〇〇	三四〇〇	最高	三九〇〇	三四〇〇
九年七月	四三〇〇	三八〇〇	最低	四三〇〇	三八〇〇
九年八月	四七〇〇	四二〇〇	最高	四七〇〇	四二〇〇
九年九月	五一〇〇	四六〇〇	最低	五一〇〇	四六〇〇
九年十月	五五〇〇	五〇〇〇	最高	五五〇〇	五〇〇〇
九年十一月	五九〇〇	五四〇〇	最低	五九〇〇	五四〇〇

●配當率(下)

株式相場	最高	最低	新株	最高	最低
八年十二月	一六五〇	一三五〇	最高	一六五〇	一三五〇
九年一月	一八〇〇	一六〇〇	最低	一八〇〇	一六〇〇
九年二月	二二九〇	一八九〇	最高	二二九〇	一八九〇
九年三月	二四九〇	二〇〇〇	最低	二四九〇	二〇〇〇
九年四月	二九〇〇	二四〇〇	最高	二九〇〇	二四〇〇
九年五月	三三〇〇	二八〇〇	最低	三三〇〇	二八〇〇
九年六月	三九〇〇	三四〇〇	最高	三九〇〇	三四〇〇
九年七月	四三〇〇	三八〇〇	最低	四三〇〇	三八〇〇
九年八月	四七〇〇	四二〇〇	最高	四七〇〇	四二〇〇
九年九月	五一〇〇	四六〇〇	最低	五一〇〇	四六〇〇
九年十月	五五〇〇	五〇〇〇	最高	五五〇〇	五〇〇〇
九年十一月	五九〇〇	五四〇〇	最低	五九〇〇	五四〇〇

當社は九年上半年に於て二百十萬餘圓の利益を擧げ、年四割五分の配當を行ふたが、下半年はモスリン市價の暴落したる爲め、同業會社の決議に基き四割操短を爲し、市價低落と生産減とに由つて著しく利益を減ぜらるゝに至りたれど、當社は日本毛糸紡績會社の大株主として、少くとも半期三十萬圓前後の利益配當を受ける立場にある爲め、直接の營業利益が減るにも拘らず、下半年は二割位の配當を爲すべしと聲言されて居るが、將來までも此程度の配當は續行さるべきものと見て差支なからう。

東京モスリン紡織株式會社

東京府南葛飾郡 吾妻村大字請地 電話本所(五三番) 秀俊

●設立 明治廿九年二月

●諸積立金 三、三三、八〇〇圓

●後期繰越 五、六三〇圓

●決算期 五月、十一月
●書替料 一通五錢、分割又
●新券交付料 一通廿錢

●資本 金 一〇、〇〇〇、〇〇〇圓

●重役 專務青木五兵衛、取締役杉村甚三郎、山崎勝三郎、西村與兵衛、藤野茂八、登坂秀興、松本武雄、監査金子良吉、富澤多三郎、河村

●株 數 舊株 八、〇〇〇株
●株 數 新株 二〇、〇〇〇株

●株 數 舊株 八、〇〇〇株
●株 數 新株 二〇、〇〇〇株

●株 數 舊株 八、〇〇〇株
●株 數 新株 二〇、〇〇〇株

●配當率(上)

株式相場	最高	最低	新株	最高	最低
八年十二月	一七三〇	一六三〇	最高	一七三〇	一六三〇
九年一月	一八三〇	一七三〇	最低	一八三〇	一七三〇
九年二月	二一七〇	二〇七〇	最高	二一七〇	二〇七〇
九年三月	二二九〇	二一九〇	最低	二二九〇	二一九〇
九年四月	二四九〇	二三九〇	最高	二四九〇	二三九〇
九年五月	二九〇〇	二八〇〇	最低	二九〇〇	二八〇〇
九年六月	三三〇〇	三二〇〇	最高	三三〇〇	三二〇〇
九年七月	三九〇〇	三八〇〇	最低	三九〇〇	三八〇〇
九年八月	四三〇〇	四二〇〇	最高	四三〇〇	四二〇〇
九年九月	四七〇〇	四六〇〇	最低	四七〇〇	四六〇〇
九年十月	五一〇〇	五〇〇〇	最高	五一〇〇	五〇〇〇
九年十一月	五五〇〇	五四〇〇	最低	五五〇〇	五四〇〇

●配當率(下)

株式相場	最高	最低	新株	最高	最低
八年十二月	一七三〇	一六三〇	最高	一七三〇	一六三〇
九年一月	一八三〇	一七三〇	最低	一八三〇	一七三〇
九年二月	二一七〇	二〇七〇	最高	二一七〇	二〇七〇
九年三月	二二九〇	二一九〇	最低	二二九〇	二一九〇
九年四月	二四九〇	二三九〇	最高	二四九〇	二三九〇
九年五月	二九〇〇	二八〇〇	最低	二九〇〇	二八〇〇
九年六月	三三〇〇	三二〇〇	最高	三三〇〇	三二〇〇
九年七月	三九〇〇	三八〇〇	最低	三九〇〇	三八〇〇
九年八月	四三〇〇	四二〇〇	最高	四三〇〇	四二〇〇
九年九月	四七〇〇	四六〇〇	最低	四七〇〇	四六〇〇
九年十月	五一〇〇	五〇〇〇	最高	五一〇〇	五〇〇〇
九年十一月	五五〇〇	五四〇〇	最低	五五〇〇	五四〇〇

新株	最高	九二〇	一〇八五	一二五〇	一四八〇	八七五	四三〇〇	四二〇〇	四二〇〇	四二七〇	四〇二〇	三九〇〇	三九〇〇
	最低	八五〇	八七〇	九七〇	八八〇	六三〇	三三〇〇	二二〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇

備考 新株ハ六月迄十二圓五十錢、七月ヨリ二十五圓拂込トシテノ相場ナリ。

當社は九年上半年の決算に百七十三萬八千餘圓の利益金を計上し、年四割配當を行ひたれども、其の後モスリン市價の暴落に對する應急策として、各社協議の上四割操短を行ふ事となり、爲めに利益金の減退を餘儀なくされたるに拘らず、種々の都合上九月一日を以て新株に付十二圓五十錢宛合計百五十萬圓の拂込を徴収したる爲め、下半年の利益率は一層遞下するに至つたのであるが、シカシ今後はモスリン事業の外網糸紡績業により利益の増加すべき確信を有するこの事であるから、配當は少くとも年二割位を維持されるものと信ぜらる。

大日本人造肥料株式會社

東京市日本橋區北新堀町一七

電話濱町五七番
五八番

●設	立	明治廿年二月
●資本	金	三〇,〇〇〇,〇〇〇圓
●株	數	内拂込一四,三〇〇,〇〇〇圓 舊株 二六六,〇〇〇株 一株額面五圓拂込済 新株 三四,〇〇〇株 未拂込
●諸積立金		二,五五七,七五圓
●社債借金		一,五三二,〇〇〇圓
●後期繰越		九六,三三圓
●重役	會長	安樂兼道、事務堀
	内明	三郎、取締阿部市三郎
	益田	太郎、田中元三郎、村
	井貞	之助、西川虎之助、室
●田義文、松村徳松、苜米地		
●義三、監査松岡修造、江藤		
●甚三郎、吉岡新五郎		
●決算期		六月、十二月
●書替料		一通五錢、分割又
●新券交付料		一通廿錢

●配當率	上	四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	
	下	〇・八〇	一・〇〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇	〇・八〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	二・〇〇	
●株式相場		八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
	最高	一五〇	一六〇	一七〇	一六八〇	八四九〇	六三五〇	五三〇〇	五三八〇	五四三〇	四六〇〇	五二五〇	
	最低	一〇〇〇	一八〇〇	一四〇〇	一〇六二〇	七五〇〇	四八〇〇	三七五〇	四八五〇	四七二〇	四三〇〇	四三〇〇	

當社は九年三月資本金一千四百三十萬圓を三千萬圓に増加する事に決定したれども、其の後財界の形勢一變して、新株拂込を氣遣はるゝに至れる爲め、五月末臨時總會を開きて増資實行期を重役に一任するに共に、各工場擴張をも暫く見合せの事に決定し、六月末締切の決算にて二百二十六萬千餘圓の利益を擧げ年二割配當を行ふたが、爾來肥料の賣行は漸次減退して、滞荷は益々増加する上に原料燐礦石の引取りや工賃等の支出は減じない爲めに、運轉資金の涸渇甚だしく、ツヒに同業者協議の上生産を制限するに共に、過燐酸肥料一噸二圓二十錢以下の賣止めを發表したれど、同業者中には密かに投賣を爲すものありて、過燐酸肥料相場は生産費以下の一圓五六錢迄落込み、大量生産設備を有する當社の打撃は實に言語の外である、幸ひに今後肥料相場の昂騰に轉するあらば格別、然らざれば往年の如き窮境に陥るなきを保すべからずである。

日本窒素肥料株式會社

出張所 大阪市西區土佐堀三丁目
東京京橋區山下町

●設	立	明治廿九年一月
●資本	金	三,〇〇〇,〇〇〇圓
●株	數	一株額面五圓拂込済 新株 二四〇,〇〇〇株
●諸積立金		一三〇,〇〇〇圓
●社債借金		二,〇三六,二五圓

●後期繰越

●重役 専務野口遵、常務市川誠次、取締役渡邊義郎、石貢、榎並直三郎、監査各務

●決算期 五月、十一月
●書替料 一通五錢、分割又

ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率	上	四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
	下	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
●株式相場	最高	1.9600	2.2000	2.8000	2.4000	2.4000	2.4000	2.4000	2.4000	2.4000	2.4000	2.4000
	最低	1.9000	2.2500	2.8000	2.4000	2.4000	2.4000	2.4000	2.4000	2.4000	2.4000	2.4000

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●舊株 最高 1.9600 2.2000 2.8000 2.4000 2.4000 2.4000 2.4000 2.4000 2.4000 2.4000 2.4000 2.4000

●新株 最低 1.9000 2.2500 2.8000 2.4000 2.4000 2.4000 2.4000 2.4000 2.4000 2.4000 2.4000 2.4000

當社は九年上半年期の決算に五百五十一萬六千餘圓の利益金を計上して、年十割四分弱の配當を爲し同時に一千萬圓の資本金を二千二百萬圓に増加したのである、然るに其の後財界の不況よりして、當社の主要製品たる硫酸の暴落したる爲め、先約品の引渡は不能に陥り、總解合を執行して豫期の利益を収める事が出来なかつたばかりでなく、一時四百四五十圓を唱へた硫酸が二百圓掘迄暴落して、一向反撥すべき氣勢もないから、今後の配當は恐らく二割位迄引下げられるだらうと取沙汰されて居る。

電氣化學工業株式會社

●設立 大正三年
●資本金 三、五〇〇、〇〇〇圓
●株數 舊株 100,000株 新株 150,000株

東京市日本橋區 本革屋町四
電話本局 五〇六番 一株額面五圓拂込済
一株額面五圓拂込済

●諸積立金 一、〇八、三六圓
●後期繰越 一、〇七、七六圓
●重役 會長馬越恭平、專務藤山常一、常務縣左吉、取締役大橋新太郎、植村澄三郎、牧田環、藤原銀次郎、監査間島與喜、中上川次郎吉

●決算期 五月、十一月
●書替料 一通五錢、分割又
●新券交付料 一通廿錢

●配當率	上	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
	下	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
●株式相場	最高	1.0110	1.1000	1.0110	1.1500	0.7500	0.6700	0.5900
	最低	0.9000	0.9500	0.8100	0.7000	0.5000	0.4400	0.3800
●舊株	最高	1.0110	1.1000	1.0110	1.1500	0.7500	0.6700	0.5900
	最低	0.9000	0.9500	0.8100	0.7000	0.5000	0.4400	0.3800
●新株	最高	1.0110	1.1000	1.0110	1.1500	0.7500	0.6700	0.5900
	最低	0.9000	0.9500	0.8100	0.7000	0.5000	0.4400	0.3800

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●舊株 最高 1.0110 1.1000 1.0110 1.1500 0.7500 0.6700 0.5900 0.5100 0.4300 0.3500 0.2700 0.1900

●新株 最高 1.0110 1.1000 1.0110 1.1500 0.7500 0.6700 0.5900 0.5100 0.4300 0.3500 0.2700 0.1900

備考 △ハ新株落ナリ。

當社は九年二月資本金五百萬圓を一千二百五十萬圓に増加したるものにて、同年五月末締切の上半期決算に百八十七萬七千餘圓の利益金を計上し、恒例の年二割配當を爲したれども、此の利益金の内約百萬圓は硫酸及び石灰窒素製造の特許料及び使用料として取得したるものにて、實際の製品利益は八十餘萬圓に過ぎなかつたのである、然るに其の後財界激變の影響にて硫酸の賣行が減退するに共に市價も大暴落を演じて、甚だしく利益を減殺されるやうになつたから、今後の硫酸の需要が恢復して市價も相當の利益を見る程度迄昂騰すれば免も角、然らざる限は割當は一割二分位シカ出來ないだらうと思はれる。

日本ペイント製造株式會社

東京府荏原郡品川町 電話 三三番
南品川宿六〇〇 高輪 三三番

- 設立 明治三十一年一月
- 資本金 五,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株 數 舊株 三〇,〇〇〇株
一株額面 五圓拂込濟
新株 七〇,〇〇〇株
- 諸積立金 三〇圓拂込
九一,六〇〇圓
- 後期繰越 一〇〇,〇七三圓
- 重役 會長 田坂初太郎、專務 小畑源之助、茂木重次郎、朝田惣七、監査 田中新七、坂田友吉
- 決算期 四月、十月
- 書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率	上	四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
	下	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
●株式相場	最高	八十二月	九一年	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十二月
	最低	七三〇	六〇〇	七二〇	七五〇	七三〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇
●舊株	最高	六二〇	七〇〇	七二〇	七三〇	七三〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇
	最低	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇
●新株	最高	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇
	最低	四二〇	四六〇	四六〇	四六〇	四六〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇

當社は休戦以來製品の需要減退と市價低落により、甚だしく利益を減殺せられ、社運日々傾きつゝありたる所、九年四月末締切の決算にて二十四萬八千餘圓の損失となりしかば、別途積立金と前期繰越金とを以て之れを補填し乍ら、株主に對しては無配當の果斷に出づる能はず、矢張り別途積立金と前期繰越金とにより年八分の配當を爲し、心あるものをして其の大膽なるに驚かしめたが

果然其の後の事業成績は面白からずして、十月末決算にては無配當を發表した。

日本化學肥料株式會社

(舊稱日本舍密製造)大阪市東區京橋三丁目
東京支店 深川區佐賀町一ノ一八

- 設立 明治廿二年七月
- 資本金 一三,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株 數 舊株 二〇,〇〇〇株
一株額面 五圓拂込濟
新株 二四,〇〇〇株
- 諸積立金 二,〇〇〇,〇〇〇圓
- 後期繰越 一四,七九〇圓
- 重役 社長 矢野慶太郎、專務 齋藤藤四郎、取締役 竹原友三郎、山岡俊、安部信治、菅禮之助、安部孝太郎、伊藤九兵衛、鈴木元、吉田浩三、高田藤太郎
- 決算期 五月、十月
- 書替料 一通廿錢、新券交付料 一通卅錢

●配當率	上	四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
	下	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・九〇	一・〇〇	二・〇〇	七・〇〇	八・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇
●株式相場	最高	八十二月	九一年	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十二月
	最低	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇
●新株	最高	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇
	最低	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇

當社は元日本舍密肥料株式會社と稱したるものにて、九年二月資本金五百萬圓の大坂化學肥料會社を合併し、四月に至り更に資本金三百萬圓の株式會社日本人造肥料會社を合併して、總資本額を一、千三百萬圓を爲し、七月一日を以て日本化學肥料株式會社と改稱したのである、而して當社は大阪、名古屋、東京、横濱、小野田に工場を有し、各種肥料の製造を爲し、可なり手廣く取引をして居るけ

れども、財界激變以來肥料の需要が減退したる上に、市價の低落したる爲め世間並に利益を減殺せられ、常分一割位の配當シカ爲す能はざる形勢である。

日本化學工業株式會社

●設立 明治四十二年六月
●諸積立金 二、三三、六〇〇圓
●後期繰越 二、六〇七圓
●重役 會長大倉喜八郎、常務加瀬忠次郎、棚橋寅五郎、取締役門野重九郎、根津嘉一郎、吉川龜次郎、八田宗吉、橋本圭三郎、小倉留吉、本

●決算期 五月、十一月
●書替料 一通十錢、分割又ハ新券交付料 一通卅錢

出張所 東京府南葛飾郡龜戸町 電話(三三三番)
東京市京橋區錦屋町 京橋(三三三番)
田三二、監査友田嘉兵衛、木村庫之助、鈴木宗兵衛、山本留次

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●配當率(上)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
●株式相場	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
●舊株	最高 七八九〇	八八九〇	九九〇〇	二五〇〇	七三〇〇	五五〇〇	四四〇〇	四七〇〇	四〇八〇	—	—
	最低 七五四〇	七九〇〇	七八〇〇	七八五〇	六八二〇	四六〇〇	四二〇〇	四一五〇	三八〇〇	—	—
●第二新株	最高 三九九〇	四九九〇	六〇〇〇	九〇〇〇	四四〇〇	三三〇〇	三三〇〇	二七九〇	二七〇〇	—	—
	最低 三五四〇	三八〇〇	四三〇〇	四五五〇	二九六〇	二四〇〇	二四〇〇	二三八〇	二四四〇	—	—

備考 新株ハ四月迄二十圓、五月ヨリ三拾圓拂込トシテノ相場ナリ。

當社は九年上半年に於て三十一萬三千餘圓の利益を収めたけれども、之れを八年下半年に比すれば三萬七千圓の減少に當り、一割五分配當を續行するには稍窮屈を免れないので、二分減の一割三分配當を行ふた、利益金の減少したのは、當社の主要製品たる鹽酸加里の賣行が、輸入品の投資に壓せられたる事情によるものであつた、惟ふに今後獨逸其他歐洲諸國の秩序が恢復すれば、當社の鹽酸加里製造事業は益々其の壓迫を受けるであらうけれど、目先き配當の一割を割るやうな事だけは斷じてあるまいと信ぜられる。

關東酸曹株式會社

●設立 明治廿九年拾月
●諸積立金 三、七〇五錢拂込
●後期繰越 三、二一、八七圓
●重役 社長田中榮八郎、取締役小西喜兵衛、福原有信、森友徳兵衛、監査松村精一、

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通拾錢、分割又ハ新券交付料 一通卅錢

東京府北豐島郡王子町 電話(五六番)
小石川(五七番) 和田瑞、藤田好三郎

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●配當率(上)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
●株式相場	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
●新株	最高 七四九〇	一〇九〇〇	一七〇〇〇	二〇四九〇	一〇三〇〇	六二五〇	六七九〇	六二〇〇	六四七〇	—	—
	最低 六六〇〇	七九四〇	九八一〇	一〇七〇〇	六四七〇	四七〇〇	五二〇〇	五二〇〇	四八七〇	—	—

備考 新株ハ五月迄ハ二十五圓、六月ヨリ三十七圓五十錢拂込トテテノ相場ナリ。

當社は九年上半年に於て百四萬五千餘圓の利益を収めて、八年下半年に比し一割増しの三割七分配當を行ふた、蓋し當社は一般事業界の好況に乗じて或程度の増資を爲すべく目論見中の處、突然財界の形勢一變したる爲め、増資に代へて一割方の増配を行ふたのである、然るに其の後製品の需要減退よりして市價は生産費以下に落ち込み、操業を短縮して市價の挽回を圖り居る状態で此儘推移するに於ては一割以上の配當は六ヶ數かるべしとの説が行はれて居る程である。

ラサ島燐礦株式會社

東京市麴町區有樂町一ノ一

●設立 大正二年

●資本金 一五、〇〇〇、〇〇〇圓

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 一〇〇、〇〇〇株

●株數 舊株 一八〇、〇〇〇株

●諸積立金 一、六四、七〇〇圓

●後期繰越 二七五、五九圓

●重役 社長恒藤規隆、常務松本隆治、取締役伊丹彌太郎、九鬼紋七、深川喜次郎、井田榮造、吉村素義、近藤正義、谷井綱三郎、監査大井

卜新、須田辰次郎、堀谷左治郎、

●決算期 三月、九月

●書替料 一通五錢、新券交付料 一通廿錢

●株式相場 八年十二月 三〇〇

●最高 二九八〇

●最低 一八二〇

●九年一月 二〇〇

●九年二月 二〇〇

●九年三月 二〇〇

●九年四月 二〇〇

●九年五月 二〇〇

●九年六月 二〇〇

●九年七月 二〇〇

●九年八月 二〇〇

●九年九月 二〇〇

●九年十月 二〇〇

●九年十一月 二〇〇

●九年十二月 二〇〇

●九年一月 二〇〇

●九年二月 二〇〇

●九年三月 二〇〇

●九年四月 二〇〇

●九年五月 二〇〇

●九年六月 二〇〇

●九年七月 二〇〇

●九年八月 二〇〇

●九年九月 二〇〇

●九年十月 二〇〇

●九年十一月 二〇〇

●九年十二月 二〇〇

●九年一月 二〇〇

●九年二月 二〇〇

●九年三月 二〇〇

●九年四月 二〇〇

●九年五月 二〇〇

●九年六月 二〇〇

●九年七月 二〇〇

●九年八月 二〇〇

●九年九月 二〇〇

●九年十月 二〇〇

●九年十一月 二〇〇

●九年十二月 二〇〇

●九年一月 二〇〇

●九年二月 二〇〇

●九年三月 二〇〇

●九年四月 二〇〇

備考 △ハ新株落ナリ。

當社は九年五月姉妹會社たる大阪晒粉會社と合併して資本金を九百萬圓と爲し、更に六百萬圓を増資して總資本金を一千五百萬圓と爲すべく、九月末決算の純益金百八萬五千餘圓に、特別積立金より百二十八萬七千五百圓を繰入れて年五割配當を爲し、其の内の三割を新株第一回拂込に振替へたのである、而して此増資は過燐酸肥料原料たる硫化鐵の採掘設備を完成する爲めに決行したるものにて、其の完成後は自社所要の硫酸原料を自給し、尙餘りあれば他社へ供給する計畫であるけれども、肥料界の不振時に於て諸設備を完成すればきて、直ちに之れに相當するの利益を擧ぐる事は恐らく困難であらうと推測される。

横濱魚油株式會社

横濱市岡野町二九

●設立 明治廿六年一月

●資本金 七、六〇〇、〇〇〇圓

●株數 内拂込 四、七五〇、〇〇〇圓

●株數 舊株 七六、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 七六、〇〇〇株

●株數 舊株 七六、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 七六、〇〇〇株

●株數 舊株 七六、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 七六、〇〇〇株

●株數 舊株 七六、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 七六、〇〇〇株

●株數 舊株 七六、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 七六、〇〇〇株

●株數 舊株 七六、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 七六、〇〇〇株

●株數 舊株 七六、〇〇〇株

●株數 一株額面 五圓拂込濟

●株數 新株 七六、〇〇〇株

●諸積立金 六五、四〇〇圓

●後期繰越 二四、五五圓

●重役 社長渡邊福三郎、副社長岡野利兵衛、上野清助、常務前田又平、前田順七、取締役吉永仁藏、渡邊利二郎、監査山岡竹藏、田口庄平、

大谷幸之助、曾根田重保

●決算期 四月、十月

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●株式相場 四年十二月 一、二〇〇

●最高 一、二〇〇

●最低 一、二〇〇

●五年一月 一、二〇〇

●五年二月 一、二〇〇

●五年三月 一、二〇〇

●五年四月 一、二〇〇

●五年五月 一、二〇〇

●五年六月 一、二〇〇

●五年七月 一、二〇〇

●五年八月 一、二〇〇

●五年九月 一、二〇〇

●五年十月 一、二〇〇

●五年十一月 一、二〇〇

●五年十二月 一、二〇〇

●五年一月 一、二〇〇

●五年二月 一、二〇〇

●五年三月 一、二〇〇

●配當率 上 一、二〇〇

●配當率 下 一、二〇〇

●配當率 上 一、二〇〇

●配當率 下 一、二〇〇

●配當率 上 一、二〇〇

●配當率 下 一、二〇〇

●配當率 上 一、二〇〇

●配當率 下 一、二〇〇

●配當率 上 一、二〇〇

●配當率 下 一、二〇〇

●配當率 上 一、二〇〇

●配當率 下 一、二〇〇

●配當率 上 一、二〇〇

●配當率 下 一、二〇〇

●配當率 上 一、二〇〇

●配當率 下 一、二〇〇

●株式相場

新株	最高	八千十二月	七千一月	七千二月	七千三月	七千四月	七千五月	七千六月	七千七月	七千八月	七千九月	七千十月	七千十一月
最低	六千	六千	六千	六千	六千	六千	六千	六千	六千	六千	六千	六千	六千

當社は九年四月末締切の決算にて五萬八千餘圓の利益を擧げたが、コレ丈けにては無配當と爲すの外なき所より、別途積立金より七萬圓を繰入れ、尙前期繰越金八萬圓を加へて、年八分の配當を行ふたのである、然るに其の後製品市況は更に悪化して、先約品の受渡しが愈々困難となり、一般需の減退と相俟つて益々利益を減せらるゝに至りたるのみならず、所有帆船四隻の如きは海運界不況の爲め貸稼さへ爲す能はざる状態で、コレが必然的結果として無配當を發表するの外なかるべしと傳へられて居る。

星製藥株式會社

東京市京橋區南傳馬町三丁目

●設立 明治十四年十一月

●資本金 10,000,000圓

●株數 100,000株

●諸積立金 六五〇,〇〇〇圓

●後期繰越 二五,七二圓

●重役 社長星一、取締役荒井泰治、石本鑽太郎、監查星野

●配當率(上) 三年 四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●配當率(下) 三年 四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場

最高	八千十二月	九千一月	九千二月	九千三月	九千四月	九千五月	九千六月	九千七月	九千八月	九千九月	九千十月	九千十一月
最低	七千	七千	七千	七千	七千	七千	七千	七千	七千	七千	七千	七千

當社は明治四十四年五十萬圓の資本金を以て設立されて以來、新會社合併の形式によりて數回の増資を爲し、以て今日の大を致したるものにて、大正七年以降三割配當を續行し、九年上半年の如きは一千萬圓増資後第一回の決算であつたに拘らず、拂込資本に對して五割八分強に當る七十二萬四千餘圓の利益を收めたが、シカモ當社は尙事業擴張に最善の努力を爲しつゝあるを以て、前途は頗る有望である。

品川白煉瓦株式會社

東京府北品川三〇一

電話高輪(七六番) 七七番

●設立 明治廿六年六月

●資本金 三,五〇〇,〇〇〇圓

●株數 舊株 四三,六四〇株
一株額面 五圓 拂込済
新株 二七,三六〇株

●諸積立金 二五圓 拂込

●後期繰越 八九,九三圓

●重役 專務 山内政良、取締 藤村義苗、西村直、豊島駒吉、松井定一郎、監查 漆昌廣

●決算期 三月、九月

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 三年 四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●配當率(下) 三年 四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●新株	最高	七四〇	八〇〇	八三〇	八五〇	六五〇	五〇〇	三九〇	四二〇	四〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
●舊株	最低	六七〇	七三〇	七五〇	六八〇	五八〇	四二〇	三三〇	三〇〇	四一〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇

當社は休戦以來耐火煉瓦の需要が減退した爲めに、決算毎に利益金の減少を餘儀なくされ、九年九月末決算の利益金の如きは二萬餘圓に過ぎずして、コレに前期繰越金三萬餘圓の外、配當準備金より五萬圓を繰入れて、辛うじて年六分配當を爲すの不結果に終つたのである、シカモ財界の前途尙悪化するなきを保すべからざるのみならず、耐火煉瓦の最大需要者たる製鐵事業の不振甚だしきものあるに徴する時は、當社の如きも今後經營の困難は避くべからざるもの、如くである。

愛知セメント株式會社

名古屋市南區熱田東町一八四

●設立 明治廿三年五月

●資本金 三〇〇,〇〇〇圓

●株 數 舊株 一、六〇〇,〇〇〇株 新株 三六,〇〇〇株

●配當率 上 〇・七〇 下 〇・七〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●新株	最高	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇
●舊株	最低	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇

●諸積立金 新株 一・三〇錢拂込 三〇,〇〇〇圓 後期繰越 三,二五〇圓

●後期繰越 重役 取締役部小十郎、大岩 勇夫、岡谷清次郎、竹内兼

●決算期 三月、九月

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●吉、矢橋亮吉、監査片岡靜 輔、渡邊義郎、磯貝浩

當社は九年三月末の決算にて十二萬七千餘圓の利益を擧げ年一割の配當を行ひたれども、其の後セメント市價の低落したる爲め、九月末決算の利益は五萬三千餘圓に激減し、コレに前期繰越金九千餘圓の外配當準備金二萬圓を繰入れ、漸く年五分の配當を行ふこと云ふ始末にて、人をして愈々前途を氣遣はしめたが、シカシ當社重役は茲に鑑みる所あつてか、淺野セメントとの間に合併の交渉を爲し居る模様であるから、モシ此交渉にして成立するに於ては、當社の株主も稍意を安んずる事が出來やうと思はれる。

日本セメント株式會社

東京市神田區小川町七 電話神田二八二番

●設立 明治廿一年三月

●資本金 二,五〇〇,〇〇〇圓

●株 數 舊株 一、三〇〇,〇〇〇株 新株 一、二〇〇,〇〇〇株

●配當率 上 〇・七〇 下 〇・七〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●新株	最高	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇
●舊株	最低	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇

●諸積立金 三九〇,〇〇〇圓

●後期繰越 一六,三八〇圓

●決算期 三月、九月

●書替料 一株五錢、十株券廿五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●重役 專務苗村又右衛門、取 締伊藤定七、中島伊平、支 配伊達加久藏、監査松下善 太郎、吉原丑之助、坂井秀 敏、重本文次郎

● 配當率	上		下		● 株式相場											
	最高	最低	最高	最低	八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
● 舊株	最高	最低	最高	最低	11600	11600	11600	11600	11600	11600	11600	11600	11600	11600	11600	11600
● 新株	最高	最低	最高	最低	12900	12900	12900	12900	12900	12900	12900	12900	12900	12900	12900	12900

● 備考 △ハ新株落ナリ。
 當社は八年十二月の臨時總會にて資本金九百萬圓を二千萬圓と爲す事に決定し、其の新株二十二萬株の内十八萬株は九年四月一日現在株主に割當て、残り四萬株の中若干の功勞株を引去り、他はプレミアム付にて公募すべき豫定の處、其の後財界の形勢益々悪化して、株式公募の不可能となりたる爲め、増資實行は暫く見合せの事とし、姉妹會社たる東上鐵道を合併して、總資本金を一千万圓としたのであるが、東上鐵道合併後の營業線は百二十六哩六分に達し、乗客は各線共に増加する一方にて、將來一割二分の配當は確實に維持し得られる見込である。

博多灣鐵道汽船株式會社

福岡縣粕屋郡西戸崎村

● 設立	明治三十三年六月	● 株數	舊株 四、五〇〇株 一株額面 五〇圓拂込濟	● 諸積立金	三三〇圓拂込 三、五〇〇圓
● 資本金	三、〇七五、〇〇〇圓	● 新株	二、〇〇〇株	● 後期繰越	九、五二〇圓
● 内拂込	二、五五、〇〇〇圓				

● 重役 專務太田清藏、取締役 原有信、山口恒太郎、丹野茂正、監査山中立木、蘆高

● 決算期 三月、九月
 ● 書替料 一通五錢 分割又

ハ新券交付料 一通廿錢

● 配當率	上		下		● 株式相場											
	最高	最低	最高	最低	八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
● 舊株	最高	最低	最高	最低	9100	10150	9100	10150	9100	10150	9100	10150	9100	10150	9100	10150
● 新株	最高	最低	最高	最低	8900	9400	8900	9400	8900	9400	8900	9400	8900	9400	8900	9400

當社は從來博多灣鐵道株式會社と稱したれど、九年三月の臨時總會にて博多灣鐵道汽船會社と改むる事に決定し、四月一日其の登記を爲し、爾來鐵道專業の外吳、徳山、鎮海灣等海軍炭の需要地向け、船舶運送業を兼營して居る、而して其の九月末締切の決算にて十萬四千餘圓の利益を擧げ、年一割の配當を行ふたが、將來とて此程度の配當を續行することは、蓋し困難ではあるまいと推測される。

青梅鐵道株式會社

東京府西多摩郡青梅町
 出張所東京市麴町區飯田河岸五號 電話番町二一七一番

● 設立	明治廿四年	● 株數	舊株 一五、〇〇〇株 一株額面 五〇圓拂込濟	● 諸積立金	二〇圓拂込 三六、七五〇圓
● 資本金	一、五〇〇、〇〇〇圓	● 新株	一五、〇〇〇株	● 後期繰越	三、一六五圓
● 内拂込	一、〇五〇、〇〇〇圓				九月迄

●重役 専務富永謙治、取締小澤太平、平岡久左衛門、田村半十郎、大島三橋、監査

●決算期 三月、九月

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率

上	四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
下	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇

●株式相場

最高	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇
最低	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇

●新株

最高	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇
最低	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇

當社は九年四月末締切の決算にて九萬一千餘圓の利益を擧げ、コレに前期繰越金二萬七千餘圓を加へたる十一萬九千餘圓の内より、法定準備金五千三百圓、別途準備金三千六百圓、興業費償却準備金八千圓を引去り、尙職員救済基金に一千五百圓、賞與及交際費に六千圓を充當し、株主配當は年一割二分として六萬二千二百五十圓を支出し、残り三萬三千餘圓を後期繰越としたのであるが、今後財界の更に悪化しない限りは一割二分配當を續行し得らるべしとの事である。

南海鐵道株式會社

●設立 明治廿九年

●資本金 三、〇〇〇、〇〇〇圓

●株 數 舊株 二八、八〇〇株

●株額面 五圓拂込濟 新株 一五、二〇〇株

●内拂込 一六、三〇〇、〇〇〇圓

●大阪市南區南波新地

●諸積立金 一、七四三、〇〇〇圓

●社債 一、五〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越 一、二七〇、〇〇〇圓

●重役 社長片岡直輝、専務佐々木勇太郎、取締大塚惟明、肥塚源次郎、本山彦一、田中新七、寺田甚與茂、永田仁助、渡邊千代三郎、垂井清右衛門、監査宮本吉右衛門、宅徳平、寺田元吉

●決算期 三月、九月

●書替料 一通十錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率

上	四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
下	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五

●株式相場

最高	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五
最低	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五

●新株

最高	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五
最低	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五

當社は九年九月末締切の決算にて百六十七萬六千餘圓の利益を收めて年一割三分配當を續行した、ケレドモ其の利益金額は三月末締切決算の百六十二萬四千餘圓よりは僅かに五萬二千圓シカ増加しないのであつたが、其後運輸事業は云ふに及ばず、電力事業も漸く一服の状態であるから、利益金の増加を望まれないばかりでなく、或は減少するなきを保すべからずである。

常總鐵道株式會社

茨城縣結城郡水海道町

●設立 明治四十五年
 ●資本金 一、二〇、〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 一、二七、五〇〇圓
 ●株數 舊株 三〇、〇〇〇株
 ●株數 一株額面 五圓拂込濟
 ●株數 優先株 五、〇〇〇株
 ●配當率(上) 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
 ●配當率(下) 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●諸積立金 毛・吾錢拂込 八四、五〇〇圓
 ●後期繰越 三〇、〇〇〇圓
 ●重役 社長山中彦兵衛、常務 武藤久兵衛、取締役 齋藤斐、山中直次郎、
 監查飯村丈三郎、飯田盛之助
 ●決算期 三月、九月
 ●書替料 一通十錢、分割又 八新券交付料 一通廿錢

當社は九年九月末締切の決算に五萬四千餘圓の利益金を計上して、例により優先株六分五厘、普通株六分の配當を行ふたけれども、其の後の事業状態は稍不瓦化したる觀ありて、普通株の六分配當を維持されるかドウか、疑問である。

小倉鐵道株式會社

●設立 明治四十四年六月廿六日
 ●資本金 三、五〇、〇〇〇圓
 ●株數 全額拂込濟 七〇、〇〇〇株
 ●株數 一株額面 五圓拂込濟
 ●諸積立金 一四、〇〇〇圓
 ●後期繰越 一、〇〇〇圓
 ●重役 專務伊知地壯熊、取締役 竹田政智、小野金六、友枝 梅次郎、藤内安房、監查崎 山克治、橋本正彰
 ●決算期 六月、十二月
 ●書替料 一通五錢、分割又 八新券交付料 一通十五錢

出張所 小倉市街富野 東京市麻布區筈町一七五 電話芝六五八五番

●配當率(上) 四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
 ●配當率(下) 四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

當社は石炭の運搬を主要事業と爲せるものにて、財界激變後は製鐵所其他に於ける需要減退と其の荷動き不活潑となり、又乗客及び普通貨物も漸減傾向となりたるに對し、支出は未だ著しく節約を爲す能はざる状態にあるが、此儘推移するに於ては、五分以上の配當を爲すことは困難であらうと推測される。

富士身延鐵道株式會社

●設立 明治四十年九月
 ●資本金 四、〇〇、〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 三、二〇、〇〇〇圓
 ●株數 一株額面 五圓內圓拂込 八〇、〇〇〇株
 ●諸積立金 三、五三圓
 ●配當率(上) 四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
 ●配當率(下) 四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●借入金 一、六〇、〇〇〇圓
 ●後期繰越 六、四三圓
 ●重役 社長小野金六、取締役 津嘉一郎、堀内半三郎、竹 村欣次郎、堀内良平、淺川 六三、增澤有、藤田謙一、
 監查松永安彦、小曾根喜一 郎、新海榮太郎
 ●決算期 五月、十一月
 ●書料替 一株券五錢、十株 券十錢

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
 ●最高 三三〇 三三〇 三六〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇
 ●最低 三二〇 三二〇 三二〇 三二〇 三二〇 三二〇 三二〇 三二〇 三二〇 三二〇 三二〇

備考 四月迄ハ三十五圓、五月ヨリ四十圓拂込トシテノ相場ナリ。

當社は九年五月下旬甲斐大島より身延に至る二哩半の延長線を開通すると同時に、從來富士大島間四回の運轉を富士身延間五回に、又富士大宮間三回の運轉を七回に増加したけれども、該延長線開通後は身延山參詣客が漸次増加して、輸送に應じ切れざる爲め、新たに機關車二臺と客車六臺の建造中であるから、將來一割位の配當を爲すことは易々たるものであらうと思はれる。

播州鐵道株式會社

兵庫縣加古郡加古川町

●設立 明治卅四年五月六日 ●諸積立金 一九三、九二〇圓

●資本金 五、〇〇〇、〇〇〇圓 ●社債 三〇〇、〇〇〇圓

●株 數 舊株 三、〇〇〇株 ●借入金 三、一八三、三三〇圓

●株 數 新株 六、〇〇〇株 ●後期繰越 七〇、〇三〇圓

●株 數 一、株額面 五〇圓拂込済 ●重役 專務伊藤英一、取締役

●株 數 新株 五〇圓拂込済 ●重役 部長吉、藤井忠兵衛、岸本

●株 數 長司、加島安治郎、監査末

●配當率 上 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●最高 最低

正繁太郎、岸本恒太郎

●決算期 三月、九月

●書替料 一通五錢、分割又

ハ新券交付料 一通廿錢

當社は資本金五百萬圓全額拂込済みの上に三十萬圓の社債と三百十八萬餘圓の借入金を有し、營業成績も餘り良好ではない、即ち九年九月末締切の決算に計上したる利益金は僅々十九萬千餘圓にして、其の内より十七萬五千圓を株主配當に振向け、建設費を償却するの餘裕がなかつたのであるから、前途は推して知るべしだ。

朝鮮中央鐵道株式會社

朝鮮慶尙北道大邱府幸町一 電話(一三三番)
東京市芝區櫻田備前町七 新橋(一三三番)

●設立 大正五年

●資本金 一三、〇〇〇、〇〇〇圓 ●諸積立金 二四、五〇〇圓

●株 數 内拂込 五、二五〇、〇〇〇圓 ●後期繰越 三三圓

●株 數 舊株 六、〇〇〇株 ●重役 會長小野金六、專務佐

●株 數 一、株額面 五〇圓拂込済 ●重役 藤潤象、武和三郎、取締中

●株 數 新株 一八〇、〇〇〇株 ●重役 野實、渡邊嘉一、監査山口

●配當率 上 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●最高 最低

●舊株 最低

●株 數

當社は九年上半年に於て五萬餘圓の利益に總督府の補給金を加へて八分の配當を行ふたが、其の後の擴張工事は格別の支障もなく進捗しつゝありて、佛國寺尉山間十七哩の延長、並に烏致院清州間十

四哩一分の新線工事も、十年五月頃完成の豫定であるから、同下半期中には一部の開通を見るであらうこの事である。

小田原電氣鐵道株式會社

神奈川縣足柄下郡小田原町

●設立 明治二十九年七月 ●社債金 三三、八〇〇圓 信世、杉原榮三郎

●資本金 三、三〇〇、〇〇〇圓 ●後期繰越 一元、三元圓 ●決算期 五月、十一月

●株 數 全額拂込済 ●重役 社長草野清四郎、專務 中根虎四郎、專務牛田貢、取締福原有信、清岡邦之助、森恪、監查神原富文、益田 ●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通卅錢

●諸積立金 一三、三〇〇圓 ●株 數 一株額面 五圓拂込済 ●重役 社長安田善三郎、常務 安田善兵衛、青木正太郎、取締守尾此助、大繩久雄、櫻井梅太郎、吉田源次郎、 ●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率 上 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年 下 五三 五三 五三 五三 五三 五三 五三 五三 五三 五三 五三

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 最高 六七〇 七〇〇 六八〇 五九〇 四九九 四五〇 五〇〇 五〇〇 五〇〇 四四〇 四〇〇 最低 五五〇 七〇〇 六七〇 五八〇 四九九 四五〇 五〇〇 五〇〇 五〇〇 四四〇 四〇〇

當社は九年上半年に於て十一萬一千餘圓の利益金に、政府補助金十萬二千圓を加へたる二十一萬餘圓を以て、年一割配當を行ふた、然るに鐵道省の熱海迂回線の一部たる國府津小田原線は九年中に開通の豫定にて、其の曉には當社の國府津小田原線は廢線同様なる譯であるが、是れに對して鐵道

京濱電氣鐵道株式會社

神奈川縣橋本郡川崎町 八ツ山事務所 電話高輪三〇二番

●設立 明治三十一年三月 ●諸積立金 三元、四七圓 中根虎四郎、小倉鎮之助、

●資本金 一五、〇〇〇、〇〇〇圓 ●社債金 一、八〇〇、〇〇〇圓 監查宮口竹雄

●株 數 内拂込 七、五五、〇〇〇圓 ●後期繰越 八七、二四圓 ●決算期 五月、十一月

●株 數 舊株 一〇三、〇〇〇株 ●重役 社長安田善三郎、常務 安田善兵衛、青木正太郎、取締守尾此助、大繩久雄、櫻井梅太郎、吉田源次郎、 ●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率 上 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年 下 四〇 四〇 四〇 四〇 四〇 四〇 四〇 四〇 四〇 四〇 四〇

●株式相場 八年十一月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 最高 △八〇〇 八八五 八〇〇 七九〇 六五〇 六一〇 五五〇 五三〇 五三〇 五二〇 五二〇 最低 六九〇 七六〇 七〇〇 六七〇 五八〇 五三〇 五三〇 五三〇 五三〇 五二〇 五二〇

●新株 最高 最低 備考 △ハ新株落ナリ。

當社は九年上半年に於て三十七萬八千餘圓の利益を擧げ年一割配當を爲したれども、其の後財界不況の影響にて電車及び電力事業共利益金は増加せざる模様であるが、シカシ一方には諸物價の低落により経費も幾分節約し得らるゝ上に、從來火力装置によりたる發電を止めて、桂川水力より二百基以上の隨時供給を受くる事を爲し、電力費に於ても相當節約を圖りつゝある爲め、今後財界の一層悪化しない限り、一割前後の配當を爲すことは、左程困難でもあるまいと思はれる。

横濱電気鐵道株式會社

横濱市戸部町三三〇

●設	立	明治三十五年四月	●諸積立金	三三・五錢拂込	政吉、堀谷左治郎、監査中	
●資本金	六、〇〇〇、〇〇〇圓		●社債金	四四・一圓圓	山佐市	
●株	●内拂込	四、九五〇、〇〇〇圓	●後期繰越	一五〇、〇〇〇圓	●決算期	五月、十一月
	●舊株	六、〇〇〇株	●重役	尾幾造、根津嘉一郎、金子	●書替料	一通五錢、分割又
	●新株	六、〇〇〇株	●常務	山本源太、取締若	●新券交付料	一通廿錢
●配當率	上	四三年	●株式相場	八年十二月	●最高	七・八〇
	下	四四年		九年一月	●最低	七・〇〇
		元年		二月		七・五〇
		二年		三月		六・九〇
		三年		四月		七・〇〇
		四年		五月		五・〇〇
		五年		六月		五・〇〇
		六年		七月		五・〇〇
		七年		八月		五・〇〇
		八年		九月		五・〇〇
		九年		十月		五・〇〇
				十一月		五・〇〇
				十二月		五・〇〇

●新株 最高 五〇〇〇 最低 四二五
●備考 新株ハ五月迄二十七圓五十錢、六月ヨリ三十二圓五十錢拂込トシテノ相場ナリ。
●當社は九年十一月臨時總會を開き、豫て横濱市長と當社代表者との間に締結せる横濱市へ當社鐵道を讓渡すべき假契約承認の件を附議し、異議なく株主の承認する所となつた、而して其の讓渡價格は六百二十萬圓にして、市公債七朱利付百圓券を九十圓の價格にて當社の株主に交付される事なるのである。

京阪電気鐵道株式會社

本社 大阪府北河内郡枚方町
營業所 大阪市北區東野田町

●設	立	明治三十九年七月九日	●諸積立金	六九七・〇七圓	●崎健吉、篠崎乙次郎、馬場	
●資本金	三六、〇〇〇、〇〇〇圓		●借入金	四、八二二、五〇〇圓	●齊吉、監査田中源太郎、村	
●株	●内拂込	二四、〇〇〇圓	●後期繰越	一五、五九圓	●井貞之助、秋岡義一	
	●舊株	二二〇、〇〇〇株	●重役	社長 岡崎邦輔、常務太	●決算期	三月、九月
	●新株	一一〇、〇〇〇株	●田光熙、取締渡邊嘉一、濱		●書替料	一通五錢、分割又
●配當率	上	四三年			●新券交付料	一通廿錢
	下	四四年				
		元年				
		二年				
		三年				
		四年				
		五年				
		六年				
		七年				
		八年				
		九年				

こと甚だしく、爲めに當社の電鐵収入も期待されたる程増加しない模様である、シカシ當事者間に於ては、配當は成るべく一割を續行する事に内定して居るさうである。

王子電氣軌道株式會社

東京府北豊島郡巢鴨村

電話(九三番) 小石川(九四番)

●設立 明治四十三年四月

●諸積立金 三〇圓拂込 一元、八〇〇圓

●村周藏、宮本政次郎、監査 佐々田戀、山口憲、宇都宮 政市

●資本金 三、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越 五、八六圓

●決算期 五月、十一月

●株數 舊株 二〇、〇〇〇株

●重役 社長植村俊平、常務 葉良男、取締役高橋嘉七郎、 金光庸夫、井上篤太郎、田

●書替料 一通五錢、分割又 八新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●配當率(下) 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●舊株 最高 最低 新株 最高 最低

●備考 新株ハ八年十二月ハ二十圓、九年一月ヨリ三十圓拂込トシテノ相場ナリ。

●當社は九年上半年に於て二十四萬三千餘圓の利益を擧げ、三分増しの年一割三分配當を行ふた、其

の後の營業狀況も大體に於て順調を失はず、日々の電車運轉數は三十六臺に上り、電燈數六萬二千 電力供給五千馬力前後にして、或る地域の電燈電力に對しては、多少の値上げを決行した程である から、年一割三分配當は裕に續行し得られる見込である。

京成電氣軌道株式會社

東京市本所區向島押上二〇三

電話(六二番) 本所(二四六番)

●設立 明治四十二年六月

●諸積立金 一、三〇〇圓 一、六〇〇圓

●上原鹿造、飯村丈三郎、利 光丈平、監査渡邊亨、藤田 昆直

●資本金 五、〇〇〇、〇〇〇圓

●社債金 九、〇〇〇圓

●決算期 五月、十一月

●株數 舊株 三〇、〇〇〇株

●後期繰越 八、三三圓

●書替料 一通五錢、分割又 八新券交付料 一通廿錢

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●舊株 最高 最低 新株 最高 最低

●備考 當社は九年上半年に於て十六萬四千餘圓の利益を擧げ年一割配當を行ふたが、豫て工事中の船橋千

●當社は九年上半年に於て十六萬四千餘圓の利益を擧げ年一割配當を行ふたが、豫て工事中の船橋千

業間十一哩の延長線は十年三月頃迄に竣成の豫定であつて、其の竣成の曉には新式車十二臺を増し院線同様二臺又は三臺連結の運轉を爲し、大いに乗客を吸入するの計畫であるのみならず、例の成田線延長のために、現在資本金五百萬圓を一千萬圓に増資するの意圖で、夫々準備を進めて居るさうである。

東京灣汽船株式會社

東京市京橋區新船松町將監河岸

電話一八四番

●設立 明治廿二年十一月

●資本金 二,〇〇〇,〇〇〇圓

●諸積立金 二〇,〇〇〇圓

●後期繰越 五七,三三三圓

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株 數 舊株 三三,〇〇〇株

●重役 社長櫻井龜二、常務渡邊哲夫、稻木重俊、取締役邊六藏、渡邊治右衛門、池

●決算期 六月、十二月

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●書替料 十株券迄五錢、五十株券迄七錢、分割又ハ新券交付料十錢

●配當率 上 下

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株 數 舊株 三三,〇〇〇株

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株 數 舊株 三三,〇〇〇株

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株 數 舊株 三三,〇〇〇株

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

當社は九年上半年期の決算に二十四萬七千餘圓の利益金を計上し、年二割二分の配當を續行した、其の後一般事業界の不況よりして、海運事業も漸次閑散に陥り、利益金の減退を訴へざるものなけれど、當社の事業は海運業と云つても、或特種事情の下に海上運輸を爲すものにて、一般財界の不況より來る打撃は比較的輕微であるから、配當は矢張り年二割二分を續行し得らる、模様である。

内國通運株式會社

東京市日本橋區佐内町

電話本局 四〇五番

●設立 明治五年六月

●資本金 五,〇〇〇,〇〇〇圓

●諸積立金 四九〇,〇〇〇圓

●後期繰越 一八,三三三圓

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株 數 舊株 二五,〇〇〇株

●重役 社長三上豐夷、專務榎本謙七郎、取締役吉川惟一、村瀬謙次郎、緒方芳太郎、村上作藏、宮島正雄、監查矢野莊三郎

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿五錢

●配當率 上 下

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株 數 舊株 二五,〇〇〇株

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株 數 舊株 二五,〇〇〇株

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株 數 舊株 二五,〇〇〇株

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株 數 舊株 二五,〇〇〇株

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●設立 明治廿九年五月

●資本金 五、〇〇〇、〇〇〇圓
●諸積立金 二、〇〇〇圓
●後期繰越 三、〇〇〇圓

●重役 會長前山久吉、專務馬崎治、取締役津田興二、武智直道、稻茂登三郎、監査北川禮弼、下郷寅太郎

●株 數 舊株 三、〇〇〇株
●株額面 五〇圓拂込済 一、〇〇〇、〇〇〇圓
●新株 七〇、〇〇〇株

●配當率 上 一、〇〇〇
●株式相場 八年十二月 九、〇〇〇
●最高 五、六〇〇
●最低 五、二〇〇

●配當率 下 〇、八〇〇
●株式相場 八年十二月 九、〇〇〇
●最高 五、六〇〇
●最低 五、二〇〇

●株式相場 八年十二月 九、〇〇〇
●最高 五、六〇〇
●最低 五、二〇〇

●配當率 上 一、〇〇〇
●株式相場 八年十二月 九、〇〇〇
●最高 五、六〇〇
●最低 五、二〇〇

東京火災保險株式會社

東京市日本橋區北鞘町

電話本局 二五八番

●設立 明治二十年七月

●資本金 一〇、〇〇〇、〇〇〇圓
●株 數 一株額面五圓

●諸積立金 六、三〇四、一九二圓
●後期繰越 一、八八、三九五圓
●重役 社長安田善雄、副社長

長松篤斐、常務小松林藏、取締大谷嘉兵衛、武井守正、安田善助、安田善五郎、新

井智三郎、監査佐々田懋、大橋新太郎、志田鉦太郎

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率 四年 〇、八〇〇
●株式相場 八年十二月 九、〇〇〇
●最高 八、五〇〇
●最低 七、四〇〇

●配當率 五年 〇、八〇〇
●株式相場 八年十二月 九、〇〇〇
●最高 八、五〇〇
●最低 七、四〇〇

●配當率 六年 〇、八〇〇
●株式相場 八年十二月 九、〇〇〇
●最高 八、五〇〇
●最低 七、四〇〇

横濱火災海上保險株式會社

横濱市本町五丁目七一 電話 二二六番
支店 東京市日本橋區通四丁目 本局 二二〇番

●設立 明治三十年七月

●資本金 三、五〇〇、〇〇〇圓
●諸積立金 七、八九三、七九圓

●後期繰越 三、四九三、三三圓
●重役 專務井坂孝、專務錦戸右門、取締大演忠三郎、若尾幾造、原富太郎、濫澤義一、小野哲郎、監査石川徳次郎

●株 數 舊株 一〇〇、〇〇〇株
●株額面五圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
●新株 一、〇〇〇、〇〇〇株

●配當率 四年 〇、八〇〇
●株式相場 八年十二月 九、〇〇〇
●最高 八、五〇〇
●最低 七、四〇〇

●配當率 五年 〇、八〇〇
●株式相場 八年十二月 九、〇〇〇
●最高 八、五〇〇
●最低 七、四〇〇

●配當率 六年 〇、八〇〇
●株式相場 八年十二月 九、〇〇〇
●最高 八、五〇〇
●最低 七、四〇〇

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率

四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇	二・〇〇	二・〇〇	二・〇〇	二・〇〇	二・〇〇

●株式相場

八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
最高 二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇
最低 二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇

●設立 明治廿九年六月

●諸積立金 一、九三〇、〇〇〇圓

●後期繰越 七四、八〇〇圓

●重役 社長 田所美治、常務 廣瀬耕治、取締役 田邊貞吉、村井貞之助、渡邊千代三郎、廣海二三郎、鈴木梅四郎、山口玄洞、杉山喬、松方正雄、監査 浮田桂造、竹尾治

●決算期 十二月(年一回)

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通七錢

共同火災保險株式會社

大阪市北區曾根崎上町二丁目九六
關東營業部 東京市京橋區出雲町

●配當率

四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
一・五〇	一・八〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・三〇	一・五〇	一・五〇

●株式相場

八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
最高 一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇
最低 一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇

●設立 明治廿九年十月

●諸積立金 一、〇三二、七〇〇圓

●後期繰越 一六、一七〇圓

●重役 社長 安田善雄、副社長 藤田岩松、常務 永瀨久吉、取締役 安田善三郎、武井守正

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率

四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
一・七〇	一・七〇	一・八〇	一・八〇	一・九〇	一・九〇	一・九〇	一・九〇	一・九〇	一・九〇	一・九〇

●株式相場

八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
最高 一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇
最低 一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇

●設立 明治廿九年十月

●諸積立金 一、〇三二、七〇〇圓

●後期繰越 一六、一七〇圓

●重役 社長 安田善雄、副社長 藤田岩松、常務 永瀨久吉、取締役 安田善三郎、武井守正

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

東京建物株式會社

東京市日本橋區吳服町一
電話本局 二七九番

●配當率

四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
一・七〇	一・七〇	一・八〇	一・八〇	一・九〇	一・九〇	一・九〇	一・九〇	一・九〇	一・九〇	一・九〇

●株式相場

八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
最高 一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇	一五五〇
最低 一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇

●設立 明治廿九年十月

●諸積立金 一、〇三二、七〇〇圓

●後期繰越 一六、一七〇圓

●重役 社長 安田善雄、副社長 藤田岩松、常務 永瀨久吉、取締役 安田善三郎、武井守正

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●最高	一三五八〇	一四九〇〇	△九八二〇	九五九〇	六九五〇	六〇八〇	六〇〇〇	五五二〇	六二九〇	五九九〇	五四〇〇	六二〇〇
●最低	九二〇〇	一二五〇〇	八九〇〇	七二五〇	六二九〇	五六四〇	五〇七〇	五二六〇	五三〇〇	五三〇〇	五三〇〇	五三〇〇
●新株	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
●備考	△ハ新株落ナリ。											

當社は九年四月五百萬圓の資本金を倍額の一千萬圓と爲し、越えて六月末締切の決算にて四十八萬一千餘圓の利益を挙げ、一分増しの一割二分配當を行ふたが、其の後も事業状況は大體に於て順調を失はないから、一割二分配當は無論續行されるものと見て差支ない。

東洋拓殖株式會社

東京市麴町區有樂町一ノ一

電話丸ノ内(自一三六〇番至一三六四番)

●設立 明治四十一年十二月

●資本金 五〇,〇〇〇,〇〇〇圓

●株數 舊株 四〇〇,〇〇〇株
新株 六〇〇,〇〇〇株

●諸積立金 一三〇,〇〇〇圓
●後期繰越 三三〇,〇〇〇圓

●重役 總裁石塚英藏、理事松平直平、川上常郎、夏秋十郎、人見次郎、監查島德藏

●配當率 四年 〇・六〇 五年 〇・六五 六年 〇・七〇 七年 〇・七五 八年 〇・八〇 九年 〇・九〇

●決算期 三月(年一回)
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●最高	八八五〇	一〇五九〇	九〇〇〇	九三三〇	六七九〇	六三三〇	五五〇〇	五二八〇	五三六〇	五九〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇
●最低	七九五〇	八七〇〇	八七〇〇	六九七〇	五八六〇	五五五〇	四二一〇	五〇三〇	四七二〇	四九二〇	四九八〇	四九八〇
●新株	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低

當社は九年三月末締切の決算にて二百九十三萬餘圓の利益を挙げ、内九十四萬七千餘圓の諸償却金を控除し、差引百九十八萬三千餘圓の純益を以て一分増しの九分配當を行ふたが、其の後財界動搖の影響にて諸物價の低落したる爲め、拓殖事業の取得物たる靱及び雜穀等の収益は多少減少を免れ難き状態にあれども、近時朝鮮及び滿洲の發展に資すべく擴張したる金融部の收入増加、即ち貸付金利息等の増加著しきものがあるから、配當は無論年九分を續行し得らるべき見込である。

秋田木材株式會社

秋田縣能代港町御指南町二十三

●設立 明治四十三年

●資本金 一、〇〇〇,〇〇〇圓

●株數 舊株 一〇,〇〇〇株
新株 一三〇,〇〇〇株

●諸積立金 一三〇,〇〇〇圓
●後期繰越 三三三,〇〇〇圓

●重役 社長井坂直幹、常務菊池李吉、清水榮次郎、取締役竹村榮三郎、辻良之助、大

●決算期 十一月(年一回)
●書替料 一通十錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率 四年 一・〇〇 五年 一・〇〇 六年 一・八〇 七年 二・〇〇 八年 二・〇〇 九年 二・〇〇

倉喜七郎、松田吉信、監查相澤東十郎、鹽谷慶助、根本瑞男

當社は九年六月末締切の決算に二百十六萬四千餘圓の利益金を計上したるも、外に三十六萬四千餘圓の興業費償却をなしたるものにして、之れを加算する時は、二百五十二萬四千餘圓の利益に達する勘定であつた、然るに其の後財界不況の影響にて瓦斯需要高は漸次減退するに至りたる一方、豫て二百餘萬圓の豫算を以て建設中なる水性瓦斯製造所も竣成を告げ、ソレだけ資金を固定せしむる事となりたれば、將來は兎も角當分利益金の増加は望まれざるべく、随つて配當の如きも現在の年九分は最高限度と見て大過なかるべきである。

名古屋瓦斯株式會社

名古屋市南大津町二丁目

●設立 明治卅九年十一月
●諸積立金 (未拂込) 田實、三宅駿一、監查上遠野富之助、江口理三郎、今井清吉
●資本金 六〇〇,〇〇〇圓 一七〇,〇〇〇圓
●後期繰越 四、二五〇圓
●株 舊株 八〇,〇〇〇株 重役 社長井上茂兵衛、常務 岡本櫻、取締役鈴木惣兵衛、伊藤義平、後藤安太郎、坂
●株 一株額面五圓拂込済
●配當率(上) 四三、四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
●配當率(下) 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
當社は九年四月資本金四百萬圓に二百萬圓を増加して總額六百萬圓となし、五月末締切の決算にて十萬七千餘圓の利益を収めて、年八分五厘の配當を行ふたが、其の後の瓦斯供給高は財界不況の影響にて左程増加しないけれども、一方には石炭の下落により製造費を節約し得られるため、年八分五厘配當は優に續行し得らるべき模様である。

北海道瓦斯株式會社

北海道札幌區北四條東四丁目
東京出張所麴町區有樂町一ノ一 電話丸ノ内 二〇九番

●設立 明治四十四年六月
●諸積立金 五、一八〇圓
●資本金 三、〇〇〇,〇〇〇圓 後期繰越 三、八〇〇圓
●株 數 内拂込 一、九〇,〇〇〇圓 重役 常務太田半六、取締役 田義文、關谷兵助、鈴木寅彦、監查肥田景之、中島伊
●株 一株額面五圓内三圓拂込
●配當率(上) 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
●配當率(下) 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
●最高 一八三〇 二二〇〇 一八三〇 一八〇〇 一〇八〇 一八九〇 七五〇 七七〇 七九〇 八〇〇
●最低 一七〇〇 一七五〇 一七〇〇 一五〇〇 一〇〇〇 四〇〇 六九〇 六三〇 七二〇 六五〇 七四〇
當社は創立以來一回として株主を満足させる程の配當を爲したることなきのみか、八年下半年期の如きは遂に無配當を發表したのであるが、九年上半期の如きも僅々一萬九千餘圓の利益を擧げたるのみにて、コレに前期繰越金壹萬圓を加へて後期繰越となし、引續き無配當としたので、前途果して存續し得らるべきや否やは大なる疑問たるを免れない。

廣島瓦斯電軌株式會社

廣島市大手町三丁目

楊夫、堂原徳太郎

●設 立 明治三十一年十月八日 ●後期繰越 三、二五〇圓
 ●資本 六、〇〇〇、〇〇〇圓 ●重役 社長松浦泰次郎、專務 風間八左衛門、常務瀧勇、
 株 數 二〇、〇〇〇株 取締役藤田謙一、澤原亮吉、
 一株額面五圓内三圓拂込 三宅兼一、島本幸助、坂井
 ●諸積立金 三、二五〇圓 勝造 阿部朝田、監査富島

●配當率 上 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
 下 〇・八〇 〇・八二 〇・八三 〇・八五 〇・八〇 〇・八〇 〇・八〇 〇・九〇 〇・九〇 〇・九〇 〇・九〇

當社は九年一月の臨時總會にて資本金六百萬圓を壹千萬圓に増加し、廣島宮島間の電氣鐵道を敷設
 することに決定したけれども、其の後財界の形勢一變して、新株の拂込を阻害するに至りたるを
 以て、増資は暫らく見合せの事としたのであるが、シカシ事業状況は依然順調を辿りつゝありて、
 九月末決算の利益金は貳拾壹萬九千餘圓に上り、壹分増しの壹割壹分配當を行ふた程であるから、
 前途は尙も悲觀するに及ばない。

東京電燈株式會社

東京市豊町區有樂町三ノ三

電話新橋 自一〇〇番 至一〇三番

●設 立 明治二十年十一月 ●株 數 舊株一、〇〇〇、〇〇〇株 一株額面五圓内三・五圓拂込
 ●資本 二、〇〇〇、〇〇〇圓 一株額面五圓内三・五圓 三、六〇〇、〇〇〇圓
 内拂込六、五〇〇、〇〇〇圓 ●諸積立金 三、六〇〇、〇〇〇圓
 ●社債金 二、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越 二、二五〇、〇〇〇圓 ●決算期 五月、十一月
 ●重役 社長神戸學一、常務中 邊勝三郎、若尾謙之助、小 ●書替料 一通五錢、分割又
 原岩三郎、越山太刀三郎、 池國三、監査岡崎正也、伊 ●新券交付料 十五錢
 若尾璋八、取締大倉喜八郎 東三郎

配當率	上	四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
最高	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
最低	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇

當社は九年二月日本電燈を合併して資本金二千四百萬圓を増し、總額壹億二千四百萬圓としたので
 あるが、財界激變以來電燈電力の需要は各地共漸減状態となり、中には電力の過剰を訴ふるものな
 きに非ざれども、當社の事業には左程の影響もなく、大體に於て順調を維持し來りたるのみならず
 豫て工事中の山梨縣笛吹川發電所も九年末より十年春に掛けて順次竣工を見るべき豫定にて、其の
 竣工の上は鐵道省其他へ送電することに契約を締結しある爲め、一層有利の結果を収め得らるべき
 見込である、尙當社は九年末の總會にて利根發電會社を合併することに決定したが、其の實行期は十
 年三月末日の豫定にして、合併後の資本金は一億四千六百萬圓内拂込八千二百五十五萬圓、總株數
 二百九十二萬株となる筈である。

名古屋電燈株式會社

名古屋市中區新柳町六ノ四

●設立 明治二十年十二月
 ●資本金 三、七五〇、〇〇〇圓
 ●諸積立金 一、二五、八五〇圓
 ●社債金 五、〇〇〇、〇〇〇圓
 ●後期繰越 八五、五五〇圓
 ●重役 社長 福澤桃介、副社長 下出民義、常務角田正喬、神谷卓男、取締役 草野清四郎、後藤幸三、下郷傳平、竹原

友三郎、監査兼松澤、磯貝、浩、小山積三
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
 一〇・一〇 一〇・一〇 九・九二 九・九二 八・八〇 八・八〇 八・八〇 八・八〇 一〇・〇〇 一〇・〇〇 一〇・二〇

●配當率(下) 一〇・一〇 一〇・一〇 九・九二 九・九二 八・八〇 八・八〇 八・八〇 八・八〇 一〇・〇〇 一〇・〇〇 一〇・二〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
 最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低

當社は八年十二月千六百萬圓の資本金を三千三百萬圓に増加し、更に一宮電氣を合併して、總資本額を三千三百七拾五萬圓としたのであるが、其の後更に岐阜電氣を合併するの外、美濃電氣をして倍額の參百萬圓に増資せしめ、其の内百萬圓貳萬株を當社にて引受け、美濃電氣を自社の勢力圈内のものとする等、水電業の合同を畫策しつゝありて、行くくは名古屋附近の水電業を統一するの計畫なりと傳へられて居る。

横濱電氣株式會社

横濱市裏高島町二ノ三

●設立 明治二十三年十月
 ●資本金 一五、〇〇〇、〇〇〇圓
 ●諸積立金 二、〇七、五二圓
 ●後期繰越 二六、五二圓
 ●重役 社長 上野吉二郎、常務 駒井宇一郎、取締役 原富太郎、渡邊福三郎、若尾幾造、川

崎榮助、木村庫之助、白杉政愛、監査平沼久三郎、月塚吉太郎、佐藤博愛
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇

●配當率(下) 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇 一〇・一〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
 最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低

當社は従來水力電氣の外火力裝置を以て電力を發生せしめたるため、石炭の暴騰に依り利益を打消され、辛うじて一割一分配當を續行して來たけれども、財界激變以來石炭の低落したる爲め、著しく經費を節約し得るに至りたる一方、電燈及び電力料金も其筋の許可を得て相當の引上をなしたるを以て、先行き壹割壹分配當を續行する位は左程困難ならざるべき見込である。

九州電燈鐵道株式會社

福岡市天神町五八

●設立	明治二十九年五月	●社債金	五、〇〇〇、〇〇〇圓
●資本金	五〇、〇〇〇、〇〇〇圓	●後期繰越	三、一七〇圓
●株數	内拂込二六、二八、七五〇圓 舊株 三三、五〇〇株 一株額面五圓拂込済 新株 六七、五〇〇株	●重役	社長伊丹彌太郎、常務 松永安左衛門、田中徳次郎 取締役山口恒太郎、小林作五郎、野口忠太郎、大島小太郎、原厚次郎、中野實、櫻木亮三、古川與四吉、寶邊
●諸積立金	一、三五、八〇〇圓	●決算期	五月、十一月
●配當率	上 四〇年 四〇年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年 下 七〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇	●書替料	一通三錢、分割又 ハ新券交付料 一通廿錢
●株式相場	八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月		
●舊株	最高 一、〇〇〇 最低 一、〇〇〇		

當社は九年三月千八百六十二萬五千圓の資本金を一躍五千萬圓に増加し、五月末締切の決算にて百十七萬八千餘圓の利益を収めて、五分増しの一割六分配當を行ふたが、其の後宮崎縣佐賀縣に於ける大水力發電所、並に久留米博多間の電氣鐵道の新設により、發展の基礎を確實にすべく努力しつゝ、あれども、何分資本金の急激に膨脹せるため、壹割以上の配當は稍々困難なるべき模様である。

宇治川電氣株式會社

大阪市北區曾根崎上二丁目

●設立	明治卅九年十月	●諸積立金	二五圓拂込
●資本金	五、〇〇〇、〇〇〇圓	●社債金	一、八五、一五〇圓
●株數	内拂込二八、七五〇圓 舊株 二五、〇〇〇株 一株額面五圓拂込済 新株 二五、〇〇〇株	●後期繰越	二、五〇〇、〇〇〇圓
●配當率	上 四〇年 四〇年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年 下 五〇 五〇 五〇 五〇 五〇 五〇 五〇 五〇 五〇 五〇 五〇	●重役	社長中川淺之助、常務 林安繁、取締役野口遵、淺見
●株式相場	八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月	●決算期	三月、九月
●舊株	最高 八八〇 最低 八八〇	●書替料	一通五錢、分割又 ハ新券交付料 一通廿錢

當社は九年九月末締切の決算にて百廿壹萬九千餘圓の利益を擧げ、壹分増しの壹割配當を行ふたが例の大坂電燈に對する電力供給契約は十年十二月末で満期となる筈にして、満期後大坂電燈が引續き當社の電力を購入して料金の引上げに應ずるか、又は當社との契約を打切るこゝ、なるかは未だ不明であるが、モシ前者の場合には當社は著しく利益の増加を見るこゝ、なるけれども、後者の場合には現に建設中の火力設備より生ずる電力の販賣に就いて相當の努力を要する事となるから、該問題の成行如何は當社の利害に大關係のある事に注意しなければならぬ。

京城電氣株式會社

支社 東京市日本橋區新右衛門町
朝鮮京城鐘路

電話本局二九七番

●設立 明治卅一年十月十三日
●資本金 九,〇〇〇,〇〇〇圓
●諸積立金 五五,〇〇〇圓
●後期繰越 九,〇八二圓
●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●株數 舊株 二〇〇,〇〇〇株
●株數 新株 六〇,〇〇〇株
●株數 重役 社長大橋新太郎、專務木本倉一、取締役山口太兵衛、白寅基、伊藤幹一、下郷傳

●配當率(上) 〇・七〇
●配當率(下) 〇・八〇
●配當率(上) 〇・七〇
●配當率(下) 〇・八〇

株式相場		八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
●最高	●最低	七三〇	七〇〇	六二〇	六〇〇	四三〇	四三〇	三八五	三八五	四六〇	四六〇	四九〇	四九〇
●最高	●最低	五六一〇	六〇〇	五八〇	五六〇	四三〇	四三〇	三八五	三八五	四六〇	四六〇	四九〇	四九〇
●最高	●最低	二二〇	三四五	—	—	—	—	一八〇	一八〇	—	—	—	—
●最高	●最低	一九〇〇	三〇五〇	—	—	—	—	一八〇〇	一八〇〇	—	—	—	—

當社は九年上半年に於て五拾壹萬千餘圓の利益を擧げ年一割の配當を行ふた、其の後も電燈電力の需要は増加の一途を辿りつゝありて、火力裝置の發電を水力發電に變更すべく、北漢口清平里に堰堤を築造し、京城着壹萬基の發電所を建設する事に決定したけれども、其の完成には相當の日數を要するため、差當り京城に三千基、馬山五百基の火力裝置を増設する事としたから、先行き尙利益

増加を期待し得らるゝ譯である。

利根發電株式會社

前橋市堀川町

●設立 明治四十三年五月
●資本金 三,〇〇〇,〇〇〇圓
●諸積立金 三四,三三三圓
●借入金 二,五〇〇,〇〇〇圓
●後期繰越 六四,〇〇〇圓
●重役 社長葉住利藏、專務武政恭一郎、大島戸一、取締役竹内清次郎、須田宣、荻野萬太郎、大澤福太郎、羽尾

●株數 舊株 一三,〇〇〇株
●株數 新株 三八,〇〇〇株
●株數 株額面五圓拂込済 二五圓拂込

●決算期 三月、九月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 〇・七〇
●配當率(下) 〇・七〇

株式相場		八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
●最高	●最低	七五〇	七五〇	七三〇	七九〇	六五〇	六〇〇	五八〇	—	五三〇	五三〇	五六〇	五六〇
●最高	●最低	七二五〇	七二〇	七〇〇	六九〇	六五〇	五九〇	五〇〇	—	四八〇	四八〇	五〇〇	五〇〇
●最高	●最低	二八〇	三〇〇	四二〇	四八〇	三三〇	三三〇	二七五	—	二六〇	二六〇	—	—
●最高	●最低	二七〇	二七〇	四〇〇	三九〇	三二〇	二八〇	二五〇	—	二五〇	二五〇	—	—

備考 新株ハ二月迄十二圓五十錢、三月ヨリ二十五圓拂込トシテノ相場ナリ。
當社は五年九月末締切の決算にて八拾壹萬四千餘圓の利益を擧げ年壹割貳分配當を行ふた、而して

同月末に於ける電燈数は拾七萬三千餘個、動力七千四百參拾參馬力にして、此の外供給契約済にして未送電に屬するもの少からざりしも、此等は需要者側の受電設備完成次第送電を開始する事なるのである、シカシ當社は十年三月末日を以て東京電燈に合併するに決定して居る。

朝鮮瓦斯電氣株式會社

京都市麴町區内幸町一ノ四

電話一七九八番

●設立 明治三十三年十月九日

●後期繰越

●資本金 三、〇〇〇、〇〇〇圓

●重役社長 香椎源太郎、取締 伊藤徳三、金子謙吾、前島彌、大池忠助、追間房太郎

●決算期 一月、七月

●株數 六〇、〇〇〇株

●監査岡田松生、水野巖、西野守藏、竹田銀太郎、南江

●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿五錢

●諸積立金 八七、三六〇圓

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●配當率(下) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

備考 四月迄ハ三十五圓、五月ヨリ四十五圓拂込シテノ相場ナリ。

當社は九年下半年に於て事業整理を斷行し、電燈部及び瓦斯部に於ては從來料金不納の向少からざりしも、此等に對しては一時供給を停止して、收入の確實を期すると共に、諸經費にも大節約を加へ

殊に支出の大部分を占むる石炭價格の低落したるため、収益状態は著しく良好となりたるが、更に目下準備中の機械増設工事も十年三四月頃迄には完成する豫定にて、今後配當は少くとも年七分を續行し得らるべしとの事である。

鬼怒川水力電氣株式會社

京都市麴町區有樂町

電話(自三三番) 丸ノ内(至三八番)

●設立 明治四十三年十月

●諸積立金

●資本金 二七、〇〇〇、〇〇〇圓

●社債金 九、五〇〇、〇〇〇圓

●藤野正年、森久保善太郎、利光學一、伊藤英一、監査須田宣、中野寅次郎

●株數 舊株 二七〇、〇〇〇株

●後期繰越

●決算期 五月、十一月

●株數 新株 二七〇、〇〇〇株

●重役 社長利光鶴松、叔締藤井章夫、渡邊亨、川田鷹

●書替料 一通十錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

當社は九年十月姉妹會社として資本金壹千八百萬圓の鬼怒川興業會社を設立し、當社の所有に屬す

る火力發電事業及び營業に直接關係なき財産、第二期以後の新工事の施行並に關東水力に關する事項を其の所有に移し、而して當社は水電販賣を、又新會社は工事を分擔する事としたる一方、東京市に對して現在供給電力料金の引上、並に火力發電又は他社の電力を購入して供給したる場合には其の補償を受けんとするの提議を爲し、東京市に於ても或る條件の下にコレを許容する事となるべき形勢であるから、將來に於ける當社の収入状態は大いに改善さるゝであらうと推測される。

猪苗代水力電気株式會社

東京市總町區有樂町 電話丸ノ内(三三番)

●設	立	明治三十四年十月三日	●社債借金	五、五〇〇、〇〇〇圓
●資本金	三、〇〇〇、〇〇〇圓	●後期繰越	三、七、四四圓	
●株	數	四〇〇、〇〇〇株	●重役	社長仙石貢、取締近藤廉平、原六郎、莊清次郎、松方正作、馬越恭平、片岡直輝、鈴木登次郎、監査各
●諸積立金	三、四、〇〇〇圓	●株式相場	八年十二月	九、五八〇
●配當率	上	九年一月	九、七〇〇	一〇、〇〇〇
	下	二月	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
		三月	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
		四月	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
		五月	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
		六月	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
		七月	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
		八月	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
		九月	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
		十月	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
		十一月	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
		十二月	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
●株式相場	最高	九、五八〇	最低	九、九〇〇
●舊株	最高	九、七〇〇	最低	八、八〇〇

備考 二月迄ハ三十圓、三月ヨリ四十圓拂込トシテノ相場ナリ。

當社は九年九月末締切の決算に八十四萬二千餘圓の利益を計上して恒例の一割配當を行ふた、而して同期末に於ける電力供給量は東京方面四萬一千九百二十基、發電所方面一萬二千三百三十二基、合計五萬四千五百五拾二基なりし、其の内東京電燈へ供給せる參萬七千五百五拾二基に對し、七月より一基に付一厘宛の値上を爲したる上に、尙一基二錢宛の取極にて一千五百基を追加供給する事となりたる爲め、半期間彼れ此れ十四五萬圓位の収入増加となる勘定である、ケレども配當は當分年一割を續行する方針の如くである。

桂川電力株式會社

東京市京橋區銀座三丁目十九

電話京橋(三五〇番)

●設	立	明治三十四年九月三日	●諸積立金	六〇〇、〇〇〇圓
●資本金	一六、〇〇〇、〇〇〇圓	●後期繰越	三、〇〇〇圓	
●株	數	一六〇、〇〇〇株	●重役	會長池上伸三郎、專務廣瀨爲久、島甲子二、取締岩田作兵衛、原潜、兩宮豊次郎、河口善之助、安田善五郎、小野耕一、浦山助太
●株式相場	最高	九、四〇〇	●決算期	五月、十一月
	最低	八、八〇〇	●書替料	一通十錢、分割又ハ新券交付料 一通廿五錢
●舊株	最高	九、七〇〇		
	最低	八、八〇〇		

新株	最高	4000	4300	4100	4000	3900	3800	3700	3600	3500	3400	3300	3200	3100	3000
	最低	7500	7600	7700	7800	7900	8000	8100	8200	8300	8400	8500	8600	8700	8800

當社は九年上半年に於て恒例の一分の外十週年記念として二分合計一分三分の配當を行ひ、十一月の臨時總會にて資本金百萬圓の鐘淵水力會社を對等條件にて合併し、總資本額を一千七百萬圓に増加することに決定した、鐘淵水力は八年十一月創設されし新會社にして、桂川の上流に於て約二千五百基の水力起用權を有するものなれども、未だ工事にさへ着手して居ないのであるから、當社は此の合併の結果として直ちに利益を増加することは出来ないものである、ケレども前々年來工事中の第二期水電の完成するものある爲め、恒例の一分一分配當は裕に續行される見込である。

富士水電株式會社

東京市麴町區有樂町一ノ一

電話 自八九三番
丸ノ内 至八五三番

- 設立 明治四十年十一月
- 資本金 三、六〇〇、〇〇〇圓
- 株數 舊株 一、八〇〇株
第一新株 四〇、〇〇〇株
第二新株 一八、二〇〇株
- 諸積立金 一三〇、五錢拂込
- 社債金 三、三〇〇、〇〇〇圓
- 後期繰越 三〇、五八圓
- 重役 會長 小野金六、專務 白井新太郎、取締役 安田善之助、白井龍一郎、岡野喜太郎、後藤幸太郎、市川文藏、堀
- 決算期 五月、十一月
- 書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

配當率	上	四三年	四四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
株式相場	最高	八、四〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇
	最低	七、二〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇

當社は九年二月資本金千六百萬圓を二千二百萬圓に増加し、四月に至り更に厚木電氣會社を合併し總資本額を三千二百萬圓と爲したるものにて、増資合併後の五月末締切の決算にては恒例の年二割配當を續行する能はざる爲め、八分減の一割二分配當を行ふたが、其の後財界不況の影響にて電力の需要は可なり減じて居る模様であるから、又復た多少の配當減を餘儀なくされるではあるまいかと思はれる。

九州水力電氣株式會社

東京市日本橋區小網町四ノ一

電話 八三番

- 設立 明治四十四年四月
- 資本金 三、〇〇〇、〇〇〇圓
- 株數 内拂込 三、八〇〇、〇〇〇圓
株舊 三、八〇〇、〇〇〇株
一株額 面五圓拂込済
新株 三三、〇〇〇株
一、五〇錢拂込
七、七〇、〇〇圓
- 社債金 六、〇〇〇、〇〇〇圓
- 後期繰越 五、九六圓
- 重役 社長 日比谷平左衛門、專務 棚橋琢之助、常務 梅野清一、取締役 白杉政愛、久野昌一、森村開作、太田黒重五郎、今井三郎、麻生太吉、上野山重太夫、長野善五郎
- 決算期 五月、十一月
- 書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿五錢

●配當率(上)下

		三年	四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
●株式相場	八年十二月	九〇〇〇	一〇〇〇〇	八八〇〇	九二〇〇	六六〇〇	六六〇〇	六四〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇
●舊株	最高	九五〇〇	一〇〇〇〇	八八〇〇	九二〇〇	六六〇〇	六六〇〇	六四〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇
	最低	八九〇〇	八五〇〇	八五〇〇	八五〇〇	六六〇〇	六六〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇	六三〇〇
●新株	最高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	最低	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

當社は九州北部一帯を電力供給區域と爲せるものにて、財界激變以來該方面に於ける諸事業の不振よりして動力の需要は頓に減退したけれども、電燈の需要は依然増加の一途にして、五月末締切の決算にては百四十八萬餘圓の利益を擧げ、年一分二分配當を續行したのであるが、其の後と雖も過剰電力は電燈に振向ける方針を取つて居る爲めに、収入は却て増加して居る模様であるから、一割二分配當は無難續行される見込である。

揖斐川電化株式會社

東京市京橋區新富町二ノ三

電話七〇六番 京橋九三番

- 設立 大正元年十二月
- 資本金 一〇,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株數 舊株 五〇,〇〇〇株

- 諸積立金

- 一株額面五圓拂込済 新株 一五,〇〇〇株
- 後期繰込 二五圓拂込 一四,八〇〇圓

- 借入金 二,九八,〇〇〇圓
- 後期繰越 六,九八九圓
- 重役 社長立川勇次郎、常務 稻井初司、坂口拙三、取締

三浦良幹、棚橋寅五郎、笠井愛次郎、櫻内幸雄、宮口竹雄、日下部庄吉、牧野小

太郎、監査根岸鍊次郎、山口勘作、井島茂作、小寺源吾、渡部朔

●決算期 五月、十一月
●替替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上)下

		五年	六年	七年	八年	九年
●株式相場	八年十二月	一〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
●舊株	最高	七五〇〇	七五〇〇	七五〇〇	六四〇〇	四三〇〇
	最低	七二〇〇	六九〇〇	六五〇〇	六三〇〇	三九〇〇
●新株	最高	三三〇〇	三三〇〇	四八〇〇	三三〇〇	二二〇〇
	最低	三三〇〇	三三〇〇	四二〇〇	二七〇〇	一八〇〇

備考 新株ハ一月迄十二圓五十錢、二月ヨリ二十五圓拂込トテノ相場ナリ。

當社は近年電化事業の振はざるため、決算毎に配當減を餘儀なくされ、殊に九年上半年期の如きは財界激變の影響にて生産を縮小したる結果、利益金は廿八萬一千餘圓に減じ、辛うじて年一割配當を行ひたる程なりしも、其の後岐阜縣揖斐川筋に於ける第二水力發電所工事は進捗して、十年早春一萬二千基を送電し得る豫定となり、既に日本電力、大日本紡績へ出力全部を供給する事に協定せる由にて、愈よ其の送電を開始するに於ては、第一水電の三千九百基を合して、料金収入は百八十九萬圓に達すべく、經費を差引き百五六十萬圓の利益は確實なるを以て、一割二分の配當は優に決行し得らるべしとの事である。

郡山電氣株式會社

福島縣郡山町

- 設立 明治三十一年
- 資本金 五,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株數 舊株 一〇,〇〇〇株
全額拂込済 一〇,〇〇〇株
- 株數 一株額面五圓拂込済 三,二五〇株
- 諸積立金 六,〇三〇圓
後期繰越 (五月末)

- 重役 社長橋本萬右衛門、取
締林清六、安藤忠助、根本
祐太郎、門野重九郎、大島
要三、小口小四郎、西山龜
太郎、渡邊眞藏、佐藤傳兵
衛、白井博之、監査七島德
太郎、太田三郎、金成通、

- 梅浦健吉、山崎要太郎、野
口仁藏
- 決算期 五月、十一月
- 書替料 一通十錢、新券交
付卅錢

●配當率(上) 八年 九年
1.00 1.00

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低

當社は明治三十一年資本金五拾萬圓を以て創立され、福島縣猪苗代の水力を利用し、同地方に電燈電力の供給を開始したのであるが、漸次事業を擴張して、大正六年資本金を二百萬圓、更に八年八月五百萬圓に増資し、現に全額拂込済みである、而して當社は今後尙ほ資本金を一千五百萬圓に増加すると共に、資本金壹千萬圓の豊川水電會社を合併して埼玉栃木兩縣へ電力を供給しつゝ、兩三年中に東京送電するの計畫であると聲明して居る。

富士電氣株式會社

東京市京橋區三十間堀一丁目

- 設立 大正八年十月
- 資本金 一六,五〇〇,〇〇〇圓
- 株數 内拂込 八,二五〇,〇〇〇圓
三三〇,〇〇〇株
- 株數 一株額面五圓内五圓拂込 三三〇,〇〇〇株
- 諸積立金 三,七〇〇圓

●後期繰越

二六,〇八圓

連三

- 重役 社長穴水要七、常務穴
水熊雄、取締役大川平三郎、
田中榮八郎、高橋貞三郎、
栖原啓藏、小野耕一、監査
佐藤博愛、熊澤一衛、小野

- 決算期 五月、十一月
- 書替料 一通五錢、分割又
ハ新券交付料 一通卅錢

●配當率(上) 八年 九年
1.00 1.00

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低 最高 最低

當社は九年上半年に於て四拾五萬餘圓の利益を擧て年一割配當を爲し、下半年に入り資本金三百六拾五萬圓の北海道電氣會社、並に資本金百萬圓の北海水力會社を合併して總資本金を二千五百八萬五千圓に増加する事とし、其の後又復た資本金百萬圓の十勝電氣會社、並に其の姉妹會社たる資本金十萬圓の北日本電氣會社を合併することに決定した、而して當社は其の初め富士製紙會社へ電力を供給するを以て主たる營業となしたるものなれども、將來は一般需要者への電燈供給を以て主たる營業となし、傍ら富士製紙へ動力を供給する方針なりと傳へられて居る。

古河電気工業株式會社

東京市麴町區有樂町一丁目

●設立 明治廿九年
 ●資本金 10,000,000圓
 ●株 數 內拂込三,五〇〇,〇〇〇株
 ●株 數 舊株 二〇〇,〇〇〇株
 ●株 數 一株額面吾圓拂込濟 新株 二〇〇,〇〇〇株
 ●諸積立金 一三,〇〇〇圓
 ●後期繰越 一,一七,九二圓
 ●重役 社長中島久萬吉、專務(五月末) 山口喜三郎、取締役中川末吉、長谷川鐵太郎、利根川守三
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通十錢、新券交付料三十錢

●配當率(上) 八年 九年 二・〇〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月
 ●最高 一七四〇〇
 ●最低 一六二〇〇

當社は元横濱電線會社と古河鐵業會社日光電氣精銅所及同會社本所工場と合併して資本金を一千萬圓と爲したる上、更に倍額の増資を爲し、同時に社名を古河電気工業會社と改めたるものにして、電線、護膜品及電氣機械器具の製造、製煉伸銅及其他の金屬加工業、並に化學工業を營み居れども銅價低落の折にもあり、營業成績は餘り良好ならざる模様である。

函館水電株式會社

北海道函館區末廣町

●設立 明治廿九年十月
 ●資本金 三,一五〇,〇〇圓
 ●株 數 舊株 三,一五〇株
 ●株 數 一株額面吾圓拂込濟 新株 三,一五〇株
 ●諸積立金 同上
 ●後期繰越 九,七九二圓(五月末)
 ●重役 會長藤山雷太、專務平野萬四郎、取締役岡本忠藏、二木彦七、監査鳩山一郎、齋藤又右衛門、小熊幸一郎
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 四三年 四四年 元年 二年 三年 四四年 五年 六年 七年 八年 九年
 ●下 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
 ●最高 一
 ●最低 一
 ●新株 最高 一
 ●舊株 最高 一
 ●最低 一
 ●新株 最低 一
 ●舊株 最低 一

當社は電燈電力の供給と電車事業を經營し、年一割配當を續行して來たのであるが、財界動搖以來各地共電燈電力の需要は稍行詰り状態となりたれども、當社の營業の上には未だ斯かる徴候もなく電燈の如きは却て増加すべき傾向であるから、年一割配當は無論維持される見込である。

東京電気株式會社

神奈川縣川崎町堀ノ内

●設立 明治二十九年四月
●資本金 一〇,〇〇〇,〇〇〇圓
●株數 舊株 一三〇,〇〇〇株
一株額面五圓拂込済
新株 八〇,〇〇〇株

●後期繰越 二四、六〇〇圓
●重役 社長新莊吉生、專務
エー、アール、ギヤリー、取
締イーダブルユー、ライス
立川勇次郎、山口喜三郎、
ゼラード、スウオーブ、岩
垂邦彦、淺野應輔、大井才
太郎、オー、ブルマンス、

●決算期 五月、十一月
●書替料 一通五錢、分割又
ハ新券交付料 一通廿錢
監査川崎芳之助、シーイー
ランドル、渡邊修、大塚榮
吉

●諸積立金
一、五九〇,〇〇〇圓

●配當率 上 下
一・〇〇 一・〇〇
一・〇〇 一・〇〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

最高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
最低	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

當社は九年上半年に於て資本金六百萬圓を一千萬圓に増加し、新株一株に二十五圓合計貳百萬圓の拂込を徴収したけれども、同期の利益金は百八萬四千餘圓に上りたる爲め、依然年二割配當を行ふたが、下半年に入り更に新株第二回拂込一株拾貳圓五拾錢合計百萬圓を徴収したれど、同時に利益金も亦相當増加して居るのみならず、先行き尙ほ増加すべき状態であるから、年二割配當の續行は易々たるものであらうと稱せられて居る、殊は當社の事業は他の企及すべからざる獨占的のものなれば、前途大いに樂觀して差支へはない。

東京瓦斯電氣工業株式會社

東京市麴町區大手町一

電話二五七番
本局一三八番

●設立 明治四十三年八月

●資本金 二〇,〇〇〇,〇〇〇圓

●株數 舊株 二〇〇,〇〇〇株
一株額面五圓拂込済
新株 二〇〇,〇〇〇株

●諸積立金 三〇、〇〇〇圓
一、六九、九三圓

●決算期 五月、十一月
●書替料 一通十錢、分割又
ハ新券交付料 一通廿錢
渡邊甚吉、藤田謙一、松方
正熊、下郷傳平、監査山口
三郎、岡崎正也

●配當率 上 下
一・〇〇 一・〇〇
一・〇〇 一・〇〇

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

最高	七九〇	八八〇	九二〇	九五〇	七二〇	五六一〇	五五八〇	四六七〇	五〇三〇	四四三〇	四四九〇	四四三〇	四四三〇	四四三〇
最低	七四〇	八二〇	八二〇	七七〇	六四〇	五〇〇	三六九〇	四四三〇	四三〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇
新株	最高 三四八〇	五九〇	六八〇	六七〇	四九〇	四一〇	四〇五〇	三三八〇	三五三〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇
最低	二八〇	四九〇	五三〇	四三〇	三三〇	二九〇	二七〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇	二九〇

●備考 新株ハ一月迄十二圓五十錢、二月ヨリ二十五圓、五月ヨリ三十七圓五十錢拂込トシテノ相場ナリ。

當社は九年上半年に於て拂込資本金に對して三割一分に當る貳百拾七萬壹千餘圓の利益を收めて恒例の年二割配當を行ふた、シカモ同期は財界激變の爲め一般事業會社は既約品の取消に遭ひ、操縦又は作業休止を爲したるもの少からざりしも、當社は注文品全部を製作する能はざる爲め、其の内

約七百萬圓を下半期へ繰越すといふ盛況であつた、然るに下半期に入りても又復た各方面より注文輻輳して、作業方面に於ては殆んど不景氣知らずの盛況を呈して居る、併し乍らコレが爲めに設備の擴張をも必要とするれば、又運轉資金も相應に要するので、新株の拂込を徴收したる上、尙一時借入金を融通するの状態であるから、當分拵々しく利益金は増加しないけれども、一歩一歩社礎を固めて、株主を満足せしむるの日は、蓋し遠からざるものゝ如くである。

日本活動寫眞株式會社

東京市日本橋區上槇町一

電話(二六七九番) 本局(三五七三番)

●設立 明治四十五年

●資本金 六〇〇,〇〇〇圓

●諸積立金 二〇〇,〇〇〇圓

●後期繰越 五七,九九圓

●株數 舊株 五〇,〇〇〇株

●後期繰越 (七月末) 四三,七五圓

●株額面五圓拂込済 一株額面五圓拂込済

●重役 社長藤田謙一、専務鈴木要三郎、常務横田永之助、取締役高木清次郎、鈴木清美

●決算期 一月、七月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●株式相場	八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
●最高	一九一〇	一五〇〇	△一五〇〇	一六五〇	一四四〇	一〇〇〇	九五〇	八八〇	七六〇	七五〇	七四〇	八七〇
●最低	一七〇〇	一三〇〇	一四六〇	一三〇〇	一〇五〇	七〇〇	五七〇	七五〇	七二〇	六五〇	六六〇	七三〇

●新株	最高	最低
●最高	—	—
●最低	—	—

備考 △ハ新株落ナリ。

當社は九年三月二百五十萬圓の資本金を六百萬圓に増加したるものにて、其の後財界の激變により各種の事業は漸次凋落したけれども、當社の事業には左したる影響もなく、七月末締切の決算には百貳拾壹萬七千餘圓の利益金を計上して、其の内より六拾貳萬餘圓の寫眞代銷却と七萬圓の建物銷却を行ひ、差引五拾貳萬餘圓を純益として、年三割の配當を行ふた、惟ふに活動寫眞なるものは平民的娛樂機關として、今後都鄙を問はず尙ほ發展の餘地あるものゝ如くなれば、經營さへ宜しきを得ば、相當の利益を擧ぐるゝこと困難ならざるべき筈である。

富士製紙株式會社

東京市京橋區三十間堀一ノ一

電話(二三番) 京橋(三四番)

●設立 明治廿三年一月四日

●合併新株 七,〇〇〇株

●資本金 三三,一五〇,〇〇〇圓

●諸積立金 二〇,〇〇〇圓

●株數 内拂込三〇,〇〇〇圓

●社債 六,三五〇,一八圓

●株數 舊株 二九四,〇〇〇株

●後期繰越 二,五〇〇,〇〇〇圓

●株額面五圓拂込済 一株額面五圓拂込済

●後期繰越 (五月末) 五九一,六五圓

●新株 三三九,〇〇〇株

●重役 社長大川平三郎、専務穴水要七、常務高橋貞三郎

●決算期 五月、十一月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●取締原邦造、栖原啓藏、小野耕一、監査楊井清八、佐渡博愛

● 配當率 (上)

年	三年	四年	元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
率	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●

● 株式相場

年	八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
最高	一三六〇〇	一四〇〇〇	一四五〇〇	一五五〇〇	一三九〇〇	九八〇〇	九七〇〇	九五九〇	八九八〇	九〇五〇	七九九〇	八四四〇
最低	一三〇〇〇	一二四五〇	一三〇〇〇	一二四〇〇	一〇八〇〇	七九〇〇	七〇〇〇	八三〇〇	八〇〇〇	七九九〇	七五〇〇	八〇〇〇

● 新株

年	八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
最高	八二〇〇	九六〇〇	一〇七五〇	一二二九〇	九四四〇	七〇〇〇	六六〇〇	六二五〇	六三三〇	五九〇〇	五四四〇	四九九〇
最低	七九二〇	八七四〇	九二二〇	九二五〇	八二九〇	四九三〇	四四五〇	五二四〇	四八五〇	四四四〇	四三三〇	四九九〇

當社は九年上半年に於て五百參拾六萬五千餘圓の利益を擧げ、内八拾萬圓の機械建物銷却を行ひ、差引四百五拾六萬五千餘圓の純益金を以て、年三割の配當を行ふた、蓋し同期の決算は東京板紙及び四日市製紙合併後始めて施行したのであつて、本来ならば今少しく利益の多かりし筈の處、三月以來財界不況の爲め製紙賣行の減じたるを、又一には前途に備ふるため、利益の計上を控目にしたる事情もあつて、表面に現はれたる利益は上記の額に過ぎなかつたのである、ケレどもその後擴張工事は漸次竣成して、鳥取工場の如きは既に碎木パルプを製造して居るし、又江別工場の百八十六吋抄紙機も十一月より運轉を開始し、又江戸川工場の百八吋抄紙機三臺も十年三月より運轉を開始するの豫定であるから、今後紙價の低落しない限りは、製造能力の増加により利益金の激増を來すであらうと見込まれるのである、尙當社は今後成るべく製品を海外に輸出する方針にて、既に相當巨額の輸出契約を締結し居る模様であるから、内地に於ける洋紙の賣行きが振はないでも、製品の停滯に苦しむが如き事は斷じてなかるべしとの事である。

王子製紙株式會社

東京府北豐島郡王子町 電話小石川(三〇四番) 五五九番
 出張所 東京市芝區新幸町 電話新橋(兜六番) 三〇番

● 設立 明治六年二月

● 資本金 五〇,〇〇〇,〇〇〇圓

● 諸積立金 一〇,五五〇,二五〇圓

● 社債金 九,〇〇〇,〇〇〇圓

● 後期繰越 二四九,四三三圓

● 重役 社長 專務 藤原銀次郎

● 常務 高島菊次郎、高田直屹

● 小笠原菊次郎、取締 大橋新

● 太郎、林健、有賀長文、井

● 決算期 五月、十一月

● 書替料 一通五錢、分割又

● 新券交付料 一通廿錢

● 備考 △ハ新株落ナリ。

● 配當率 (上)

● 株式相場

● 舊株

● 最高

● 最低

● 備考

當社は九年上半年に於て五百九拾萬七千餘圓の純益を收め、普通特別年二割五分の外、増資記念として二割五分、合計年五割の配當をなし、同時に資本金貳千五百萬圓を倍額の五千萬圓と爲し、その第一回四分の一拂込金を十月一日を以て徴收したのである、而して此の増資は十條工場に於ける模造紙及び上等印刷紙抄造用八十六吋機械二臺の増設、尻別川第一水力發電所建設、樺太野田寒パル

工場建築費調達の爲めに決行されたるものにて、十條工場の抄紙機増設工事は十年六月迄に、又尻別川發電所工事は同年末迄に竣成すべく、次いで野田寒パルプ工場の竣成を見るの豫定であるから、コレに伴れて利益の増加すべきは言を俟つまでもなき事である。

日本紙器製造株式會社

東京市四谷區仲町

電話番町(二二四番) 二七四番

●設立 大正二年

●資本金 三三〇,〇〇〇圓

●株 數 舊株 二〇〇,〇〇〇株

●株 數 一株額面五圓拂込済

●株 數 新株 五〇,〇〇〇株

●諸積立金

●後期繰越

●重役 社長星野錫、專務田島

●志一、常務酒田啓次郎、取

●締森山草之丞、鳩山一郎

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通十錢、分割又

●新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 一〇〇

●配當率(下) 一〇〇

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●最高 一〇一九〇 一五五〇 一三四〇 一四八〇 八八六〇 五〇五〇 五八〇 四七〇 五五〇 五五〇 五五〇

●最低 九五二〇 九九〇 一二六 八七〇 七〇〇 三六〇 三三〇 三三〇 四二〇 四二〇 四七〇

●常社は九年四月及び七月の二回に未拂込金全部を徴收したる上、資本金一千萬圓を三千五百萬圓に

●増加するに決定して居たけれども、財界激變の爲め増資は暫らく見合せの事とし、その代りに安田

●銀行保證の下に興業銀行より六百萬圓の資金を借入れ、既設事業の擴張並に新事業計畫を遂行する

事としたのであつて 既に工事の完成したるものには、製紙部に於ける日産七噸及び五十噸の厚紙機の外、日産三噸及び八噸の薄紙機あり、又凝結紙器部の如きも諸設備完成の上作業を開始し、其他北滿に於ける製材工場の如きも設備一杯の伐木を爲す迄に、諸工事の進捗を見たのである、シカモ當事者は遅くも十年末迄には北滿に於けるパルプ工場及び製材設備を完成して、豫定の作業を開始するの意氣込であるから、前途必ずや大成功を見るであらう。

樺太工業株式會社

樺太泊居 東京市京橋區柳町

●設立 大正二年十二月

●資本金 二,〇〇〇,〇〇〇圓

●株 數 内拂込 八,〇〇〇,〇〇〇圓

●株 數 一株額面五圓内三圓拂込

●諸積立金 二,七〇〇,〇〇〇圓

●後期繰越

●重役 社長大川平三郎、專務

●田中榮八郎、常務藤田好三

●取締阿部房次郎、岡崎

●久次郎、新井要之助、小西

●喜兵衛、監査伊藤長次郎

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通十錢、新券交

●付料三十錢

●配當率(上) 二・五〇

●配當率(下) 二・五〇

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●最高 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇

●最低 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇

●長谷川太郎吉、熊澤一衛、

●下郷寅太郎

當社は樺太真岡及び泊居に工場を有し、洋紙及びバルブを製造する傍ら石炭採掘事業をも經營して居る、而して九年上半年期には百卅九萬餘圓の利益を収めて年四割配當を行ふたが、その後當社はバルブの世界的拂底なる狀況に鑑み、新たに一萬五千噸のサルファイトバルブ工場の建設に着手したけれども、其の竣成迄には二ヶ年を要する豫定である一方、洋紙やバルブも案外賣行きが不良なつたのであるから、今後四割配當を續行することは恐らく不可能であらうと推測される。

帝國製麻株式會社

東京市日本橋區裏河岸

電話本局 九三番
一五七五番

七兵衛、上野榮三郎、安田善之助

●設立 明治四十年七月
●資本金 三〇〇,〇〇〇圓

●諸積立金 二,五六一,七〇〇圓
●後期繰越 二〇三,八五四圓

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

●株 數 舊株 二五六,〇〇〇株
一株額面五圓拂込済
新株 三四〇,〇〇〇株
(拂込手續中)

●重役 社長安田善三郎、常務 土岐儀、雜賀良三郎、伊臣眞、取締大倉喜八郎、田中源太郎、大橋新太郎、坂本次郎、鈴木鈴馬、監査小澤

●配當率 上 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

最高	一五七〇〇	一八〇九〇	一八四九〇	二〇六〇〇	一五四五〇	一〇八〇〇	一〇九九〇	一三〇〇〇	八八〇〇	八〇〇〇	八二五〇
最低	一四四〇〇	一六八〇〇	一七五三〇	一六〇〇〇	一三六〇〇	八八〇〇	七九九〇	一〇二二〇	七二〇〇	七五二〇	七三七〇

備考 △ハ新株落ナリ。

當社は九年八月千二百八十萬圓の資本金を倍額の二千五百六十萬圓に増加するの計畫を立て、その新株は全部舊株に割當ることとし、株主總會の協賛を求めたるに、株主側より總資本金を三千萬圓と爲し、その新株三十四萬四千株の内三十三萬二千八百株は舊株一株に一株三分を割當て、残り壹萬千貳百株及び割當端數株は公賣し、端數株代金は各株主に現金にて交付し、殘餘代金は會社の所得と爲すべしとの修正案を提出し、ツヒにその通り決定して、十月下旬壹萬壹千貳百九拾株を壹株額面超過金十圓以上にて賣出し、兎も角も總會決定通りに増資を遂行したのである、ケレども此の増資による拂込金は、差當り舊設備の改造に充當して、新工場の建設は成るべく後廻はしと爲すの方針であるさうだから、當分増資の爲めに却て利益率の低落は免れまいと思はれる。

日本製麻株式會社

東京市麴町區有樂町

電話 自八七〇番
丸ノ内一至八三番

高橋善十郎、渡邊信海三、田中海一

●設立 大正三年二月
●資本金 一〇,〇〇〇,〇〇〇圓
●株 數 舊株 一〇〇,〇〇〇株
一株額面五圓拂込済
新株 一〇〇,〇〇〇株
一三〇五錢拂込

●諸積立金 一,九七五,九三三圓
●後期繰越 八五,七二〇圓
●重役 會長神戸舉一、取締宮内二朔、植竹三右衛門、大塚金兵衛、原邦造、渡邊四郎、若尾璋八、渡邊勝三郎、總支配人山星德太郎、監査

●決算期 五月、十一月
●書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

● 配當率	上	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
	下	● 五〇	● 五〇	● 五〇	● 五〇	● 五〇	● 五〇	● 五〇
● 株式相場	最高	八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月
	最低	二四〇〇	二二九〇	△三九〇	一三六〇	一五〇〇	九八〇	九〇〇
● 舊株	最高	二四〇〇	二二九〇	△三九〇	一三六〇	一五〇〇	九八〇	九〇〇
	最低	二〇〇〇	二〇〇〇	二五〇〇	二〇〇〇	九〇〇	七五〇	七五〇
● 新株	最高	—	—	—	—	—	—	—
	最低	—	—	—	—	—	—	—

備考 △ハ新株落ナリ。

當社は九年四月倍額の増資を行ひ、五百萬圓の資本金を一千万圓としたのである、而して此の増資は當社の主腦工場たる赤羽工場の第三期擴張工事を初め、埼玉縣浦和に新設の蚊帳工場、並に新宿漂白工場の建設費調達の爲めに決行したのであつて、その後赤羽工場の第三期擴張工事は部分的に竣成して、一萬五千錘の運轉可能となり、又浦和蚊帳工場も竣成の上作業を開始したけれども、新宿漂白工場の建設は財界の安定を見る迄中止する事としたのである、シカシ製麻事業は今後尙ほ發展の餘地多きものなれば、イヅレ漂白工場を建設して、亞麻の採收より製織漂白に至る迄、一切自社にて經營するの方針であるが、ソレにしても戦時中の如き大なる利益を擧げることには出來ないであらうと見られるのである。

大日本麥酒株式會社

東京府荏原郡目黒村

電話高輪 二五〇番

● 設立	明治九年三月二十六日	● 諸積立金	一・二五錢拂込
● 資本金	四〇,〇〇〇,〇〇〇圓	● 後期繰越	五,二九五,〇〇〇圓
● 株數	内拂込二〇,〇〇〇,〇〇〇圓 舊株 二八〇,〇〇〇株 一株額面五圓拂込済 新株 五二〇,〇〇〇株	● 重役	社長馬越恭平、常務植村澄三郎、高杉晋、武内常太郎、上野金太郎、取締大田慶三郎
● 配當率	上 四三年 四四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年 下 一・二〇 一・二〇 一・二〇 一・二〇 一・四〇 一・四〇 一・五〇 二・〇〇 二・二〇 三・〇〇 三・〇〇	● 決算期	六月、十二月
● 株式相場	八年二月 九月一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月	● 書替料	一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢
● 舊株	最高 二五〇〇 二五八〇 二四〇〇 一五三〇 一七四〇 一九四〇 九九〇 九五〇 九三〇 八八〇 八八〇		
● 新株	最高 一八七〇 二二五〇 一三四〇 一三四〇 一四〇〇 一四〇〇 九一〇 九〇〇 八七〇 八七〇 八七〇		

備考 △ハ新株落ナリ。

當社は九年一月資本金二千六百萬圓を増加して總額三千八百萬圓と爲し、その新株五十二萬株の内四十八萬株は三月末株主に舊一株に二株の割合を以て交付し、残り四萬株は功勞株として、株主に交付せる新株の第一回拂込金は、別途積立金より三百萬圓を支出して振替拂込み、更に四月に至り日本硝子工業會社を合併して、總資本金を四千萬圓としたのであるが、その後麥酒の賣行は財界不況の影響にて漸次減退するに至りたれど、當社は前記の日本硝子工業會社を合併したる爲め、使用

瓶の全部を自給する事となり、従前に比し著しく経費を節約し得らるれば、當分年二割五分位の配當は裕に續行し得らるべしとの事である。

加富登麥酒株式會社

東京市京橋區銀座三ノ九

電話京橋(三三番) 三四番

●設立 明治廿九年九月

●諸積立金

一三、五錢拂込
二四、六五圓

津寅吉、雨宮齊、近藤直一
監査村上定、佐竹源造、宮
島清次郎

●株 數 舊株 六〇,〇〇〇株

●後期繰越

三〇、八八圓

●決算期 六月、十二月

●株 數 新株 六〇,〇〇〇株

●重役 社長根津嘉一郎、常務
龜田寅吉、取締役中野良吉、
中根虎四郎、中澤芳朗、根

●書替料 一通五錢、分割又
ハ新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 〇・七〇

●配當率(下) 〇・七〇

●株式相場 八十二月 九〇・〇〇

●最高 八三・四〇

●最低 七九・〇〇

●最高 九四・九〇

●最低 六二・〇〇

●舊株 最高 八三・四〇

●最低 七九・〇〇

●最高 九四・九〇

●最低 六二・〇〇

●新株 最高 八三・四〇

●最低 七九・〇〇

●最高 九四・九〇

●最低 六二・〇〇

當社は九年上半年に於て五拾壹萬五千餘圓の利益を擧げ、創業以來の良成績を示したれども、その後財界不況の爲め内地に於ける麥酒の需要は不良となり、印度南洋方面への輸出も餘り振はざる様にて、下半年の利益は上半期に比し多少減少すべき見込である、シカシ當社が豫て施行中の半田工場附屬製麥工場の擴張、及び麥酒工場機械の改良工事は九年末迄には完成の豫定にて、完成の曉には原料麥芽を全然自給し、製品を改良するの計畫なれば、一割位の配當を續行することは左程困難ならざるべしと觀測される。

麒麟麥酒株式會社

横濱市山手町一三三

島像一、磯野長藏、監査水

●設立 明治四十年二月

●諸積立金

五八、〇〇圓

●決算期 六月、十二月

●株 數 舊株 五〇,〇〇〇株

●後期繰越

二七、三四圓

●書替料 一通十錢、分割又
ハ新券交付料 一通廿錢

●株 數 新株 五〇,〇〇〇株

●重役 會長近藤廉平、專務井
田清三、取締役田中常徳、桐

●配當率(上) 〇・七〇

●配當率(下) 〇・七〇

●株式相場 八年十二月 九〇・〇〇

●最高 八三・四〇

●最低 七九・〇〇

●最高 九四・九〇

●最低 六二・〇〇

●舊株 最高 八三・四〇

●最低 七九・〇〇

●最高 九四・九〇

●最低 六二・〇〇

●新株 最高 八三・四〇

●最低 七九・〇〇

●最高 九四・九〇

●最低 六二・〇〇

當社は九年上半年に於て五拾四萬三千餘圓の利益を擧げ、普通八分特別四分合計一割二分の配當を行ふたが、その後財界不況の爲めに麥酒の賣行は面白からざる振合あれども、當社の製品は一種獨特の風味を有し、加ふるにその販賣政策も他と異なるものがあるが爲め、賣行は一向減少しないのみか却て増加して居るさうであるから、當分年一割二分を續行することは、左程困難ではあるまいと見込まれる。

帝國麥酒株式會社

福岡縣企救郡大里町

●設 立	明治四十五年五月
●資本金	四、〇〇〇、〇〇〇圓
●株 數	内拂込 三、五〇〇、〇〇〇圓 舊株 四、〇〇〇株 一株額面五圓拂込濟 四〇、〇〇〇株
●配當率	上 四〇年 五〇年 六〇年 七〇年 八〇年 九〇年 下 〇・八〇 〇・八〇 〇・八〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇
●株式相場	八〇年十二月 九〇年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 最高 九四〇〇 最低 八七〇〇
●諸積立金	三〇、五〇〇圓 二〇三、二〇〇圓
●後期繰越	五、八三三圓
●重役	社長 隅田伊賀彦、取締役 宮本政次郎、平高寅太郎、關谷福太郎、岸耕三郎、酒
●決算期	五月、十一月
●書替料	一通五錢、分割又 新券交付料廿錢
●井丑松、監查	福永治郎、川合良男、石田龜一、平野宗三郎、西岡貞太郎

日東製氷株式會社

東京市本所區中之郷樂平町

電話本所 三三〇番

●設 立	大正八年
●資本金	九、三五〇、〇〇〇圓
●株 數	全額拂込濟 舊株 一三、七〇〇株 一株額面五圓拂込濟 新株 五、七〇〇株 拂込濟
●諸積立金	五七、七〇〇圓
●後期繰越	一五、二七〇圓
●重役	社長 和合英太郎、常務 高木藤次、榎谷米市、取締役 原眞一、橋本辰次郎、吉弘嘉助、漆昌巖、久米民之助、牧田富次郎、松田英三、青
●決算期	十月(年一回)
●書替料	一通五錢、分割又 新券交付料 一通廿錢
●木勝三郎、澤山精八郎、廣居藤作、監查	長谷川要之助、脇山啓次郎、榎谷音三、近藤伊作、古賀三千人

●配當率	八〇年 九〇年
●株式相場	八〇年十二月 九〇年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 最高 一四〇〇 一四八九〇 一四八五〇 一八〇〇〇 一三五〇〇 九三九〇 九三九〇 九二九〇 八六九〇 八二五〇 七七〇 七七九〇 最低 一七〇〇 一七〇〇 一三四五〇 一五五〇 一〇五〇 七五〇〇 八二〇〇 八二〇〇 七三〇〇 六二〇〇 六二〇〇 七四〇〇 新株 最高 八九〇〇 一〇〇〇〇 一三〇〇〇 九五〇〇 九五〇〇 五〇〇〇 五二九〇 六五六〇 七五〇〇

當社は九年十月末の決算にて二百二十五萬三千餘圓即ち拂込資本金に對して二割八分弱の利益を擧げ、年二割配當を續行し、同時に資本金九百參拾七萬五千圓を千五百萬圓に増加することに決定した、而して此の新株十一萬二千五百株の内九萬三千七百五十株は、十年三月一日現在株主に對し舊株一株に付一株を割當て、殘餘株は取締役に於て處分する筈であつて、此の増資により日産五百五

十噸の擴張工事を完成するの計畫である。

東洋捕鯨株式會社

大阪市西區川口町十四番乙地

●設 立 明治三十三年五月二日
 ●資本金 六、〇〇〇、〇〇〇圓
 ●諸積立金 一、三三、七四圓
 ●後期繰越 一〇四、〇一五圓
 ●株 數 舊株 六〇、〇〇〇株
 ●重役 社長岡十郎、取締役原眞一、横山一平、曾根忠兵衛
 ●株 數 新株 額面五圓拂込済 一株額面五圓拂込済 株 六〇、〇〇〇株
 ●重役 舟木鍊太郎、小曾根喜一郎、森脇新次郎、齋藤知一、神田清右衛門、吉田増太郎
 ●決算期 一月(年一回)
 ●書替料 一通十錢、分割又ハ新券交付料 一通五十錢

●配當率 四三年 四四年 元年 二年 三年 四四年 五五年 六六年 七七年 八八年 九九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●舊株	最高 七八〇〇	最低 七四〇〇	最高 八七〇〇	最低 七六〇〇	最高 八二〇〇	最低 七九〇〇	最高 五九〇〇	最低 五九〇〇	最高 五九〇〇	最低 五九〇〇	最高 五五〇〇	最低 五五〇〇	最高 五五〇〇	最低 五五〇〇	最高 五五〇〇	最低 五五〇〇	最高 五五〇〇	最低 五五〇〇
●新株	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇

當社は九年一月の決算にて百四拾六萬六千餘圓の利益を擧げ、内二十五萬圓の諸償却を行ひ、差引百二十一萬六千餘圓の純益金を以て、一割五分の配當を行ふた、而してその後當社は増資の目的た

る冷蔵庫を建設すべく、機械の引合を初め諸般の準備中の處、圖らずも財界の激變に遭遇したる爲め、冷蔵庫建設は一時見合せ、その代りに關東州に於て鹽田を兼營する事とし、且つ捕鯨場所も新たに四ヶ所を開始する等、著々事業發展の歩を進めつ、あつて、既に九年度の如きは相當の成績を収めて居る模様であるが、恐らく今後と雖も順調に進展するであらう。

日魯漁業株式會社

北海通函館區仲濱町

●設 立 大正三年
 ●資本金 一〇、〇〇〇、〇〇〇圓
 ●諸積立金 三、五〇〇、〇〇〇圓
 ●後期繰越 三六、六四圓
 ●株 數 舊株 六〇、〇〇〇株
 ●重役 專務日貫禮三、取締役野禮助、吉富磯一、堤清六
 ●監査東虎二郎
 ●書替料 一通十錢、分割又ハ新券交付料 一通卅錢

●配當率 五年 六年 七年 八年 九年

●株式相場 八年十二月 九年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月

●舊株	最高 七五三〇	最低 六四〇〇	最高 一一二〇〇	最低 七五〇〇	最高 九〇〇〇	最低 八二〇〇	最高 五七〇〇	最低 五七〇〇	最高 五〇〇〇	最低 五〇〇〇	最高 四〇〇〇	最低 四〇〇〇	最高 三九〇〇	最低 三九〇〇	最高 三九〇〇	最低 三九〇〇	最高 三九〇〇	最低 三九〇〇
●新株	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇	最高 一〇〇〇	最低 一〇〇〇

當社は九年九月末の決算に計上し得たる利益金は十九萬八千餘圓に過ぎざりし爲め、コレに前期繰越金三十二萬六千餘圓を加へたる五十二萬五千餘圓より、十三萬圓の償却積立をなし、残り三十九萬五千餘圓を後期繰越として、無配當を發表したのである、尤も當社は從來の年二回三月、九月の決算期を九年度より年一回十二月に改めたる結果、九年十二月末を以て更に決算をなす筈なれども漁獲物の賣行き不振の折柄なれば、又復た無配當を發表するであらうと推測される。

輸出食品株式會社

東京市日本橋區本町一ノ十三

電話 二七七番
本局 三三番

●設 立 明治四十五年
●諸積立金 九六、九四圓
●後期繰越 三、三〇圓
●重役 社長小野金六、取締役
谷傳兵衛、岡田小三郎、石垣隈太郎、高橋熊三、小野

●資本金 七、〇〇、〇〇〇圓
●全額拂込済
●株 數 一、五、〇〇〇株
●一株額面五圓拂込済

●配當率 三年 一・一〇 四年 一・八〇 五年 三・〇〇 六年 三・〇〇 七年 三・〇〇 八年 三・〇〇 九年 三・〇〇

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
最高 一〇六〇 一、九〇〇 一、六〇〇 一、三九〇 七九七〇 六四二〇 六〇九〇 六〇〇〇 五三三〇 四二〇〇
最低 八二〇 一、四三〇 一、四二〇 七九〇 六〇〇 四七〇 四二〇 四一〇 四〇〇 四〇〇 三五〇

當社は九年二月極東漁業會社を合併して、資本金三百十二萬圓を七百八十萬圓と爲し、四月に至り更に八百二十萬圓を増資して、總資本額を一千六百萬圓と爲すべく、新株十六萬四千株の内十五萬

六千株は舊株一株に付一株宛割當て、残り八千株を功勞株と爲す事に決定したけれども、財界激變の爲め増資遂行を暫らく見合せの事にしたのであるが、その後國館製鐵工場焼失の災厄に遇ひ、續いてバルチザンの爲めにオコツク方面に於ける漁撈設備を焼拂はれたる一方、對英爲替の變動により製品の輸出は甚だしき不利となりたる等、重れくの變災に遭遇したので、現に成績は餘り面白くないのみならず、將來までも經營の上に困難を感じる場合もあらうと見られるのである。

日本漁業株式會社

東京市京橋區本湊町二一

電話京橋 一五番
二四番

●設 立 明治卅九年六月
●諸積立金 二、五錢拂込
●後期繰越 六五〇、〇〇〇圓
●重役 監督内野五郎三、社長
村田任太郎、常務竹澤太一
取締役松尾鶴太郎、野口萬助

●資本金 五、〇〇、〇〇〇圓
●内拂込 二、七五、〇〇〇圓
●株 數 舊株 四、〇〇〇株
新株 六、〇〇〇株

●決算期 一月、六月
●書替料 一通五錢、新券交付料 一通二十錢

●配當率 上 七年 八年 九年
下 五・〇〇 三・〇〇 三・〇〇

●株式相場 八年十二月 九一年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月
最高 一、一〇〇 一、二〇〇 一、一〇〇 一、〇〇〇 九〇〇 九〇〇 七六〇 七四〇 七三〇 六七〇
最低 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇

新株	最高	1100	1150	1200	1250	1300	1350	1400	1450
新株	最低	1100	1150	1200	1250	1300	1350	1400	1450

備考 △ハ新株落ナリ。

當社は九年一月資本金二百萬圓を五百萬圓と爲すに決定し、その新株六萬株の内四萬株は舊株に割當て、六千株を功勞株とし、残り一萬四千株を一株額面二十圓以上の價格を以て公募し、而して從來年一回なりし決算期を六月、十二月の二回に改め、六月の決算にて三十六萬三千餘圓の利益を擧げ年三割配當を行ふた、シカシ當社は鯨漁を以て主たる營業と爲せるものにて、戦時より戦後に掛けて鯨製品の輸出が増加したる爲め、獨り當社のみならず、鯨漁業者一般に相當の利益を贏ち得たる次第なれども、近來鯨製品の輸出が甚だしく振はざる所を以て見れば、當社の如きも前途三割配當を續行し得らるべきかドウか一大疑問である。

日本製粉株式會社

東京市麴町區八重洲一ノ一

電話(自二三六番 丸ノ内一至二七九番)

- 設 立 明治廿九年十月
- 諸積立金 二、七三〇、〇〇〇圓
- 資本 立 二、五五〇、〇〇〇圓
- 後期繰越 一五、六三三圓
- 株 數 舊株 七三、〇〇〇株
- 重役 社長岩崎清七、副社長平野復男、專務高木武、常務竹村弟二、取締役神谷傳兵衛、伊藤欽亮、安部幸之助、原田鎮治、谷治之助、窪田
- 株 數 一株額面五圓拂込済 新株 一五、〇〇〇株
- 株 數 二、五〇錢拂込
- 決算期 五月、十一月
- 書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢

日清製粉株式會社

東京市日本橋區末廣河岸一六

電話浪花(八四番 二八三番)

- 設 立 明治四十年三月
- 諸積立金 一、六二四、七〇〇圓
- 資本 立 四、五〇〇、〇〇〇圓
- 後期繰越 五九、三七八圓
- 株 數 舊株 三四、〇〇〇株
- 株 數 一株額面五圓拂込済 新株 五、〇〇〇株

配當率	上	四三年	四四年	元平	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
株式相場	八年十二月	九年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
最高	一八〇〇	二二〇〇	二四〇〇	二六〇〇	二八〇〇	三〇〇〇	三二〇〇	三四〇〇	三六〇〇	三八〇〇	四〇〇〇	四二〇〇
最低	一一〇〇	一二〇〇	一三〇〇	一四〇〇	一五〇〇	一六〇〇	一七〇〇	一八〇〇	一九〇〇	二〇〇〇	二一〇〇	二二〇〇
新株	最高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新株	最低	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

當社は八年十二月大里札幌の兩製粉を合併し、九年三月更に東洋製粉と合同して、三百萬圓の資本金より一躍壹千五百拾萬圓の大會社となつたのである、然るに此の合同と相前後して財界に激變を來し、製粉の如きは殆ど停止する所なき暴落を演じたる爲め、合同後始めて施行したる九年上半年期の決算にては、豫期の利益を擧げることには出来なかつたが、ソレにしても尙ほ年二割配當を執行したのであつた、トコロがその後製粉界は益々不振閑散となり、製品は停滯する一方であつて、爲めに生産を制限して滞荷の増加を阻止するに云ふ境遇に立ち到つたのであるから、當分株主を満足させる程の配當は恐らく出来まいと思はれる。

橫濱倉庫株式會社

橫濱市千若町一ノ一

●設立

明治廿九年九月

●資本

三、八〇〇、〇〇〇圓

●株數

內拂込 一、七四、〇〇〇株
六、〇〇〇株
一株額面五圓

●配當率

上

●株式相場

八年十二月

●最高

二九〇〇

●最低

二二〇〇

●諸積立金

五二、三三圓

●後期繰越

三、五〇圓

●重役 社長村野常右衛門、常務久良知重治、取締若尾幾造、末廣良三郎、松下久次郎、平野甚助、監查青木正

●決算期 五月、十一月

●書替料 一株券五錢、分割又、新券交付料 一通廿錢

●配當率

下

●株式相場

八年十二月

●最高

二九〇〇

●最低

二二〇〇

日本銀行

東京市日本橋區兩替町

電話本局 一元番

●設立

明治十五年十月

●資本

六、〇〇〇、〇〇〇圓

●株數

內拂込 三、五〇〇、〇〇〇株
一、五〇〇、〇〇〇株
一株額面三圓

●配當率

上

●諸積立金

三、三〇、〇〇〇圓

●後期繰越

二、五九、六三圓

●重役 總裁井上準之助、副總裁木村清四郎、理事深井英五、麻生二郎、結城豊太郎

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通五錢、分割又、新券交付料 一通廿錢

●配當率

上

株式會社 日本勸業銀行

東京市麴町區山下町

電話新橋 三五番

●設立

明治三十年六月

●資本

四、〇〇〇、〇〇〇圓

●株數

內拂込 三、五〇〇、〇〇〇株
一、五〇〇、〇〇〇株
一株額面三圓

●配當率

上

●諸積立金

一〇、二〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越

四三、九四圓

●重役 總裁志村源太郎、副總裁柳谷卯三郎、理事川上直之助、川村純藏、佃一誠

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通五錢、分割又、新券交付料 一通廿錢

株式會社 北海道拓殖銀行

支店 札幌大通西三丁目

電話 八七番

●設立

明治卅二年十二月

●資本

二〇、〇〇〇、〇〇〇圓

●株數

內拂込 三、五〇〇、〇〇〇株
一、五〇〇、〇〇〇株
一株額面五圓

●諸積立金

二、六五、四〇圓

●後期繰越

一三、〇〇圓

●重役 頭取水越理庸、取締乙

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通五錢、分割又、新券交付料 一通廿錢

●配當率

上	四三年	●●●
下	四四年	●●●
	元年	●●●
	二年	●●●
	三年	●●●
	四四年	●●●
	五年	●●●
	六年	●●●
	七年	●●●
	八年	●●●
	九年	●●●

株式會社 臺灣銀行

支店 臺灣臺北大加納堡
東京市麴町區永樂町

電話(自四番)
丸ノ内一至四番

●設立 明治三十二年六月

●諸積立金 九、六〇、〇〇〇圓

●後期繰越 一、四二五、一三〇圓

●重役 頭取中川小十郎、副頭
取森俊六郎、理事南新吾、
池田常吉、川崎軍治、守永
久米松、江崎眞澄、久宗董
監查大倉喜八郎、大谷嘉兵

●資本金 六〇、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越 一、四二五、一三〇圓

●重役 頭取中川小十郎、副頭
取森俊六郎、理事南新吾、
池田常吉、川崎軍治、守永
久米松、江崎眞澄、久宗董
監查大倉喜八郎、大谷嘉兵

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、分割又
●新券交付料 一通廿錢

●株數 舊株 三〇〇、〇〇〇株
一株額面二〇〇圓拂込濟
新株 三〇〇、〇〇〇株
五圓拂込

●後期繰越 一、四二五、一三〇圓

●重役 頭取中川小十郎、副頭
取森俊六郎、理事南新吾、
池田常吉、川崎軍治、守永
久米松、江崎眞澄、久宗董
監查大倉喜八郎、大谷嘉兵

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、分割又
●新券交付料 一通廿錢

●配當率

上	四三年	●●●
下	四四年	●●●
	元年	●●●
	二年	●●●
	三年	●●●
	四四年	●●●
	五年	●●●
	六年	●●●
	七年	●●●
	八年	●●●
	九年	●●●

●設立 明治四十三年十一月
●資本金 八〇、〇〇〇、〇〇〇圓
●株數 舊株 四〇〇、〇〇〇株
一株額面五〇圓拂込濟
新株 四〇〇、〇〇〇株

朝鮮銀行

支店 朝鮮京城南大門通二丁目
東京市麴町區永樂町二丁目

電話(自七〇番)
丸ノ内一至七番

●諸積立金 七、六〇、〇〇〇圓

●後期繰越 五八、三八圓

●重役 總裁美濃部俊吉、副總裁
嘉納德三郎、理事太田三
郎、片山繁雄、監事伊藤長

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、分割又
●新券交付料 一通廿錢

●資本金 八〇、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越 五八、三八圓

●重役 總裁美濃部俊吉、副總裁
嘉納德三郎、理事太田三
郎、片山繁雄、監事伊藤長

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、分割又
●新券交付料 一通廿錢

●株數 舊株 四〇〇、〇〇〇株
一株額面五〇圓拂込濟
新株 四〇〇、〇〇〇株

●後期繰越 五八、三八圓

●重役 總裁美濃部俊吉、副總裁
嘉納德三郎、理事太田三
郎、片山繁雄、監事伊藤長

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、分割又
●新券交付料 一通廿錢

●配當率

上	四三年	●●●
下	四四年	●●●
	元年	●●●
	二年	●●●
	三年	●●●
	四四年	●●●
	五年	●●●
	六年	●●●
	七年	●●●
	八年	●●●
	九年	●●●

●設立 大正六年
●資本金 壹千萬圓
●株數 舊株 二〇〇、〇〇〇株
一株額面五〇圓拂込濟

株式會社 朝鮮殖産銀行

支店 朝鮮京城南大門通

●諸積立金 二、五〇、〇〇〇圓

●後期繰越 二、四六圓

●重役 頭取有賀光豐、理事中
村光吉、櫻井小一、朴泳孝
監事廣瀨滿正、尹德榮

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、新券交
付料廿錢

●資本金 三〇、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越 二、四六圓

●重役 頭取有賀光豐、理事中
村光吉、櫻井小一、朴泳孝
監事廣瀨滿正、尹德榮

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、新券交
付料廿錢

●株數 舊株 二〇〇、〇〇〇株
一株額面五〇圓拂込濟

●後期繰越 二、四六圓

●重役 頭取有賀光豐、理事中
村光吉、櫻井小一、朴泳孝
監事廣瀨滿正、尹德榮

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、新券交
付料廿錢

●配當率

上	七年	●●●
下	八年	●●●
	九年	●●●

●設立 大正七年十月

●諸積立金 二、五〇、〇〇〇圓

●後期繰越 二、四六圓

●重役 頭取有賀光豐、理事中
村光吉、櫻井小一、朴泳孝
監事廣瀨滿正、尹德榮

●資本金 三〇、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越 二、四六圓

●重役 頭取有賀光豐、理事中
村光吉、櫻井小一、朴泳孝
監事廣瀨滿正、尹德榮

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、新券交
付料廿錢

●株數 舊株 二〇〇、〇〇〇株
一株額面五〇圓拂込濟

●後期繰越 二、四六圓

●重役 頭取有賀光豐、理事中
村光吉、櫻井小一、朴泳孝
監事廣瀨滿正、尹德榮

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通五錢、新券交
付料廿錢

株式會社 十五銀行 東京市京橋區木挽町七丁目

電話(三三番) 新橋(二五元番)

●諸積立金

一七、四一、五〇〇圓

●後期繰越

一、五三、三三〇圓

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通十錢、分割又

●新券交付料 一通五十錢

●重役

頭取松方慶、副頭取成瀨正恭、取締園田孝吉、青山幸宣、清水宜輝、徳川頼倫、淺野長之、佐藤五百麿

監查久野昌一、山本直良、

●株數

舊株 三〇〇,〇〇〇株

新株 三〇〇,〇〇〇株

株數 一、〇〇〇,〇〇〇株

●資本金

一〇〇,〇〇〇,〇〇〇圓

●設立

明治十五年

●諸積立金

一七、四一、五〇〇圓

●後期繰越

一、五三、三三〇圓

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通十錢、分割又

●新券交付料 一通五十錢

●重役

頭取池田謙三、取締長

鐘郎、安藤浩、山中祥曹、

監查塚本與三次、小倉清男

●株數

舊株 一〇〇,〇〇〇株

新株 一〇〇,〇〇〇株

株數 二〇〇,〇〇〇株

●資本金

二〇〇,〇〇〇,〇〇〇圓

●設立

明治十一年八月

●諸積立金

七、〇五、九〇〇圓

●後期繰越

一、〇〇、〇〇〇圓

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通十錢、分割又

●新券交付料 一通廿錢

●重役

會長高山長幸、取締郷

誠之助、富岡俊次郎、藤山

雷太、長崎竹十郎、監查小

野金六、石崎丈太郎、竹村

欽次郎

●株數

一、〇〇〇,〇〇〇株

●資本金

一〇〇,〇〇〇,〇〇〇圓

●設立

明治廿九年九月

●諸積立金

一、〇三、〇〇〇圓

●後期繰越

〇圓

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通十錢、分割又

●新券交付料 一通廿錢

●重役

會長高山長幸、取締郷

誠之助、富岡俊次郎、藤山

雷太、長崎竹十郎、監查小

野金六、石崎丈太郎、竹村

欽次郎

●株數

一、〇〇〇,〇〇〇株

●資本金

一〇〇,〇〇〇,〇〇〇圓

●設立

明治廿九年九月

●諸積立金

一、〇三、〇〇〇圓

●後期繰越

〇圓

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通十錢、分割又

●新券交付料 一通廿錢

●重役

會長高山長幸、取締郷

誠之助、富岡俊次郎、藤山

雷太、長崎竹十郎、監查小

野金六、石崎丈太郎、竹村

欽次郎

●株數

株式會社 帝國商業銀行 東京市日本橋區兜町五

電話(一六五番) 浪花(三三六番)

●諸積立金

一、〇三、〇〇〇圓

●後期繰越

〇圓

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通十錢、分割又

●新券交付料 一通廿錢

●重役

會長高山長幸、取締郷

誠之助、富岡俊次郎、藤山

雷太、長崎竹十郎、監查小

野金六、石崎丈太郎、竹村

欽次郎

●株數

一、〇〇〇,〇〇〇株

●資本金

一〇〇,〇〇〇,〇〇〇圓

●設立

明治廿九年九月

●諸積立金

一、〇三、〇〇〇圓

●後期繰越

〇圓

●決算期 六月、十二月

●書替料 一通十錢、分割又

●配當率(上)

四三年 〇・〇〇

四四年 〇・〇〇

元年 〇・〇〇

二年 〇・〇〇

三年 〇・〇〇

四年 〇・〇〇

五年 〇・〇〇

六年 〇・〇〇

七年 〇・〇〇

八年 〇・〇〇

九年 〇・〇〇

●配當率(下)

四三年 〇・〇〇

四四年 〇・〇〇

元年 〇・〇〇

二年 〇・〇〇

三年 〇・〇〇

四年 〇・〇〇

五年 〇・〇〇

●配當率(上)

四三年 〇・〇〇

四四年 〇・〇〇

元年 〇・〇〇

二年 〇・〇〇

三年 〇・〇〇

四年 〇・〇〇

五年 〇・〇〇

六年 〇・〇〇

七年 〇・〇〇

八年 〇・〇〇

九年 〇・〇〇

●配當率(下)

四三年 〇・〇〇

四四年 〇・〇〇

元年 〇・〇〇

二年 〇・〇〇

三年 〇・〇〇

四年 〇・〇〇

五年 〇・〇〇

●決算期 六月、十二月
●書替料 一通十錢、分割又
●配當率(上) 四三年 〇・〇〇 四四年 〇・〇〇 元年 〇・〇〇 二年 〇・〇〇 三年 〇・〇〇 四年 〇・〇〇 五年 〇・〇〇 六年 〇・〇〇 七年 〇・〇〇 八年 〇・〇〇 九年 〇・〇〇
●配當率(下) 四三年 〇・〇〇 四四年 〇・〇〇 元年 〇・〇〇 二年 〇・〇〇 三年 〇・〇〇 四年 〇・〇〇 五年 〇・〇〇 六年 〇・〇〇 七年 〇・〇〇 八年 〇・〇〇 九年 〇・〇〇
當行は大正九年一月貳千萬圓を増資して、總資本額を貳千五百萬圓と爲し、同五月其の新株第一回拂込を徴収す。

●配當率(上) 四三年 〇・〇〇 四四年 〇・〇〇 元年 〇・〇〇 二年 〇・〇〇 三年 〇・〇〇 四年 〇・〇〇 五年 〇・〇〇 六年 〇・〇〇 七年 〇・〇〇 八年 〇・〇〇 九年 〇・〇〇
●配當率(下) 四三年 〇・〇〇 四四年 〇・〇〇 元年 〇・〇〇 二年 〇・〇〇 三年 〇・〇〇 四年 〇・〇〇 五年 〇・〇〇 六年 〇・〇〇 七年 〇・〇〇 八年 〇・〇〇 九年 〇・〇〇
當行は大正八年浪花銀行、神戸川崎銀行及び丁酉銀行を合併して、從來四千萬圓なりし資本金を一躍一億圓に増加す。

株式會社 明治商業銀行 東京市日本橋區本船町

電話本局(四七〇番) 八七四番

帝國生命保險株式會社

東京市日本橋區吳服町

電話本局(一)九五番
(一)七七番

- 設 立 明治廿一年三月
- 資本 金 一,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株 數 內拂込七五,〇〇〇圓
三〇,〇〇〇株
- 株 數 一株額面五圓
內三〇錢拂込
- 諸積立金 三〇,〇七二圓
- 後期繰越 九,〇〇〇圓
- 重役 社長福原有信、取締小西安兵衛、志賀直溫、北里製婆男、井上公二、監查木村長七、矢野義三
- 決算期 十二月(年一回)
- 書替料 一株券五錢、五株券十錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢
- 配當率 四三年 四四年 元年 二年 三年 四四年 五五年 六六年 七七年 八八年 九九年
一・六〇 一・六〇 一・六〇 一・六〇 一・六〇 一・六〇 一・六〇 一・六〇 一・六〇 一・六〇

萬歲生命保險株式會社

東京市日本橋區本材木町一ノ二二

電話(三三)番
本局(三三)番

- 設 立 明治廿九年八月
- 資本 金 一,五〇〇,〇〇〇圓
- 株 數 內拂込七五,〇〇〇圓
一五,〇〇〇株
- 株 數 一株額面二〇圓內五圓拂込
- 諸積立金 五,一三三,四四圓
- 後期繰越 三,七四圓
- 重役 社長藤村義苗、常務田秀一、中越正彰、取締柳谷謙太郎、渡邊亨、川崎肇
- 重役 專務池田龍一、取締田英太郎、田中唯一、增田中島久萬吉、中越正彰、監查上原鹿造、石井政吉、小林慈、伊藤鼎
- 決算期 十二月(年一回)
- 書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢
- 配當率 四三年 四四年 元年 二年 三年 四四年 五五年 六六年 七七年 八八年 九九年
一・五〇 一・五〇 一・五〇 一・五〇 一・五〇 一・五〇 一・五〇 一・五〇 一・五〇 一・五〇

日清生命保險株式會社

東京市麹町區永樂町二丁目

電話(自一七〇番
丸ノ内)至一七三番

- 設 立 明治四十年一月
- 資本 金 二,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株 數 內拂込五〇,〇〇〇圓
二〇,〇〇〇株
- 株 數 一株額面五圓
內三〇錢拂込
- 諸積立金 六,三三〇,九八圓
- 後期繰越 二,六四七,七四圓
- 重役 專務池田龍一、取締田英太郎、田中唯一、增田
- 重役 專務池田龍一、取締田英太郎、田中唯一、增田
- 決算期 十二月(年一回)
- 書替料 一通五錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢
- 配當率 四三年 四四年 元年 二年 三年 四四年 五五年 六六年 七七年 八八年 九九年
一・五〇 一・六〇 一・七〇 一・八〇 一・九〇 一・〇〇 一・一〇 一・二〇 一・三〇 一・四〇

東洋生命保險株式會社

東京市日本橋區本町一丁目

電話(四二)番
本局(四二)番

- 設 立 明治卅三年十月
- 資本 金 一,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株 數 內拂込二五,〇〇〇圓
三〇,〇〇〇株
- 株 數 一株額面五圓
內三〇錢拂込
- 諸積立金 六,三三七,九八圓
- 後期繰越 九,五三圓
- 重役 社長尾高次郎、常務福島宜三、取締佐々木清磨、日下義雄、西谷金藏、古城菅堂、監查鎌田勝太郎、井
- 決算期 十二月(年一回)
- 書替料 一通十錢、分割又ハ新券交付料 一通廿錢
- 配當率 四三年 四四年 元年 二年 三年 四四年 五五年 六六年 七七年 八八年 九九年
一・七〇 一・八〇 一・九〇 一・〇〇 一・一〇 一・二〇 一・三〇 一・四〇 一・五〇 一・六〇

日本生命保險株式會社

大阪市東區今橋四丁目
東京支店日本橋區瀨戶物町

電話本局 二九七番

●設立

明治廿二年七月

●諸積立金

五、九六、〇五圓

●資本金

三、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越

四〇九、七二八圓

●株數

全額拂込済 一三〇、〇〇〇株

●重役

會長 山口吉郎兵衛、專務 務弘世助太郎、橋本重幸、岸田奎、取締 阿部彦太郎、

●株數

一株額面五圓拂込済

●決議期

十二月(年一回)

●配當率

三年 一・五〇 四年 一・五〇 五年 二・五〇 六年 二・五〇 七年 七・五〇 八年 二・五〇 九年 二・五〇

●書替料

一通五錢、新券交付廿錢

仁壽生命保險株式會社

東京市麴町區內幸町一丁目

電話新橋 二六三番

●設立

明治廿八年

●諸積立金

二、七五、二九圓

●資本金

一、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越

六、四五圓

●株數

全額拂込済 三〇、〇〇〇株

●重役

社長 下鄉傳平、專務 下鄉寅太郎、取締 吉澤錦三郎、玉水爲三郎、大川平三郎、

●株數

一株額面五圓拂込済

●決議期

十二月(年一回)

●配當率

三年 一・五〇 四年 二・五〇 五年 二・五〇 六年 二・五〇 七年 二・五〇 八年 七・〇〇 九年 七・〇〇

●書替料

一通十錢、新券交付料廿錢

明治火災保險株式會社

東京市麴町區永樂町一ノ一

電話(自七五番) 丸ノ内(至七五番)

●設立

明治廿四年一月

●諸積立金

八、七三、〇二圓

●資本金

一、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越

三九八、七四圓

●株數

全額拂込済 五、〇〇〇株

●重役

會長 末延道成、專務 務鎌吉、取締 阿部泰藏、莊田平五郎、三村君平、監查

●株數

一株額面二〇圓拂込済

●決議期

十二月(年一回)

●配當率

三年 一・〇〇 四年 一・〇〇 五年 二・〇〇 六年 二・〇〇 七年 二・〇〇 八年 三・〇〇 九年 三・〇〇

●書替料

一通十錢、新券交付料廿錢

帝國火災保險株式會社

東京市麴町區內幸町一丁目

電話(二三六番) 新橋(二三九番)

●設立

明治四十五年四月

●諸積立金

二、三〇、錢拂込

●資本金

一〇、〇〇〇、〇〇〇圓

●後期繰越

七〇、七六圓

●株數

內拂込 二、五〇〇、〇〇〇圓

●重役

社長 小原達明、專務 茂登三郎、取締 伊藤義平、折田兼至、字佐美敬三郎、大谷吟右衛門、弘世正二郎

●株數

一株額面五圓

●決議期

十二月(年一回)

●株數

內三・五錢拂込 新株 一〇、〇〇〇株

●書替料

一通五錢、分割又新券交付料 一通卅錢

●配當率

七年 一・〇〇 八年 一・五〇 九年 一・五〇

千代田火災保險株式會社

東京市日本橋區箱物町

電話(三三〇番) 本局(見宅番)

●設 立 明治廿五年四月
 ●資本 金 二,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株 數 內拂込 二,五〇〇,〇〇〇圓
 一株額面五圓
 內二.五錢拂込
 ●諸積立金 二,三〇〇,四二五圓
 ●後期繰越 七,一〇三圓
 ●重役 社長門野幾之進、專務
 新井由三郎、取締役瀨正恭
 北川禮彌、樺山愛輔、松原
 重榮、益田太郎、監査赤星
 ●決算期 六月(年一回)
 ●書替料 一通五錢、分割又
 八新券交付料 一通廿錢
 ●配當率 五年 〇.八〇 六年 一.〇〇 七年 一.二〇 八年 九年

日本火災保險株式會社

東京市京橋區銀座一丁目

電話京橋(四三番) 六八番

●設 立 明治廿五年四月
 ●資本 金 一〇,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株 數 內拂込 二,五〇〇,〇〇〇圓
 一株額面五圓
 內二.五錢拂込
 ●諸積立金 二〇,九二,七三三圓
 ●後期繰越 一三九,九六三圓
 ●重役 會長川崎肇、常務飯村
 丈三郎、取締役藤山雷太、志
 方勢七、佐久間心一郎、山
 崎清、河合鐵二、監査薄井
 ●決算期 三月(年一回)
 ●書替料 一通五錢、分割又
 八新券交付料 一通廿錢
 ●配當率 四年 〇.六〇 五年 〇.七〇 六年 〇.八〇 七年 〇.九〇 八年 一.〇〇 九年

帝國海上運送火災保險株式會社

東京市日本橋區北箱町

電話(二九三番) 本局(二〇二七番)

●設 立 明治廿六年十一月
 ●資本 金 一〇,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株 數 內拂込 二,五〇〇,〇〇〇圓
 一株額面五圓
 內二.五錢拂込
 ●諸積立金 四,七六〇,〇〇〇圓
 ●後期繰越 一五,〇〇〇圓
 ●重役 社長安田善五郎、副社
 長村瀨春雄、常務古岡林太
 郎、取締武井守正、宮島信
 ●決算期 三月(年一回)
 ●書替料 一通五錢、分割又
 八新券交付料 一通廿錢
 ●配當率 四年 一.一〇 五年 一.二〇 六年 一.三〇 七年 一.四〇 八年 一.五〇 九年

東洋海上保險株式會社

東京市麴町區永樂町一丁目

電話(九三番) 丸ノ内(九三番)

●設 立 明治四十一年五月
 ●資本 金 三,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株 數 內拂込 七五〇,〇〇〇圓
 一株額面五圓
 ●諸積立金 一,八二五,一〇〇圓
 ●後期繰越 三,三三三圓
 ●重役 社長下坂藤太郎、常務
 日向利兵衛、取締土屋豐吉
 ●決算期 十二月(年一回)
 ●書替料 一通五錢、分割又
 八新券交付料 一通廿錢
 ●配當率 四年 一.〇〇 五年 一.〇〇 六年 一.〇〇 七年 一.〇〇 八年 一.〇〇 九年

日米信託株式會社

東京市京橋區中橋和泉町六

電話京橋(四二番) 二九五番

●配當率 四年 一.〇〇 五年 一.〇〇 六年 一.〇〇 七年 一.〇〇 八年 一.〇〇 九年

●設立 大正七年
 ●資本金 吾、〇〇〇、〇〇〇圓
 内拂込三、五〇〇、〇〇〇圓
 ●株數 一、〇〇〇、〇〇〇株
 一株額面五圓内三、五錢拂込
 ●諸積立金 三五、〇〇〇圓
 ●後期繰越 二八〇、二〇〇圓
 六月迄

●重役 會長菅原通敬、常務今西兼二、執行委員荒井泰治、三上豐夷、取締役岩崎清七、大三輪奈良太郎、吳鼎昌、エフ、エス、シエア、廣澤金次郎、藤崎三郎助、那波齊二、監査松尾寛三、星野錫、金子元三郎、久喜豐彦、近藤孝義

●決算期 六月、十二月
 ●書替料 一通十錢、分割又
 ●新券交付料 廿錢

●配當率(上) 〇・八〇
 (下) 一・〇〇
 七年 八年 九年 〇・六〇

帝國證券信託株式會社

東京市日本橋區兜町五

電話 浪花 (二四七番) (二六八番)

●設立 大正六年
 ●資本金 三、〇〇〇、〇〇〇圓
 内拂込七五、〇〇〇圓
 ●株數 六〇、〇〇〇株
 一株額面五圓内三、五錢拂込
 ●諸積立金 一〇、二五〇圓

●後期繰越 二、五六九圓
 ●重役 社長南波禮吉、專務土屋寛、取締役大井誠之助、高井治兵衛、原虎太郎、楠紫吉川正夫、監査小布施新三郎、安藤竹次郎、町澤政治

●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢、分割又
 ●新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 〇・八〇
 (下) 一・〇〇
 六年 七年 八年 九年 〇・八〇

●設立 大正七年
 ●資本金 二、〇〇〇、〇〇〇圓
 内拂込 五〇〇、〇〇〇圓
 ●株數 四〇、〇〇〇株
 一株額面五圓内三、五錢拂込
 ●諸積立金 一八、五〇〇圓

●後期繰越 一〇、〇〇〇圓
 ●重役 會長田中四郎左衛門、專務田中小太郎、取締役田駿、西尾謙吉、森盛一郎、小原元美、田島一義、酒井醇一、監査山邑太三郎、南

●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢、分割又
 ●新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 〇・七〇
 (下) 一・〇〇
 八年 九年

日本證券株式會社

東京市日本橋區南茅場町四〇

電話 浪花 (二六八番)

●設立 大正五年
 ●資本金 一、〇〇〇、〇〇〇圓
 内拂込三五、〇〇〇圓
 ●株數 二、〇〇〇株
 一株額面五圓拂込
 ●諸積立金 一五、〇〇〇圓
 ●後期繰越 一七、一〇〇圓
 ●重役 社長丸山名政、常務今井秀吉、取締役神崎三郎兵衛、萩原繁太郎、森田五三郎、

●決算期 六月、十二月
 ●書替料 一通十錢、分割又
 ●新券交付料 一通廿錢

●配當率(上) 一・一〇
 (下) 一・二〇
 六年 七年 八年 九年 一・一〇

株式會社 上海取引所

大阪市東區高麗橋五丁目

- 設立 大正七年
- 資本金 一〇,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株數 內拂込 五,〇〇〇,〇〇〇圓
二〇〇,〇〇〇株
- 株 一株額面五圓內五圓拂込
- 諸積立金 四六,八九圓
- 配當率 八年 九年
上 一〇〇
下 二〇〇

- 後期繰越 二五,六〇圓
- 重役 社長島德藏、常務吳大五郎、取締役繁三郎、志方勢七、宮崎敬介、江原吉之助、王一亭、山本桑太郎、監查藤山雷太、吳耀庭、堀

- 田正忠
- 決算期 五月、十一月
- 書替料 一通十錢、新交付二十錢

株式會社 大連株式商品取引所

大連市大山路 出張所 東京市京橋區山城町三

- 設立 大正九年二月
- 資本金 一〇,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株數 內拂込 二,五〇〇,〇〇〇圓
二〇〇,〇〇〇株
- 株 一株額面五圓內三圓錢拂込
- 諸積立金 二,二七三,一九圓
- 配當率 九年
上 一〇〇
下 一〇〇

- 後期繰越 一,三〇圓
- 重役 理事長小泉策太郎、常務理事門田新松、森美文、吉田豐次郎、理事郭學純、森上卯平、中村敏雄、松野鶴平、白井熊吉、監查降旗

- 元太郎、池田裕二、牛作周
- 雄本爲四郎、古財治八
- 決算期 三月、九月
- 書替料 一通十錢、新券交付料廿錢

大日本紡織株式會社

東京市麴町區丸ノ内仲通り

- 設立 大正七年
- 資本金 一〇,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株數 內拂込 二,五〇〇,〇〇〇圓
二〇〇,〇〇〇株
- 株 一株額面五圓內三圓錢拂込
- 配當率 八年 九年
上 二〇〇
下 三〇〇

- 諸積立金 三,八〇圓
- 後期繰越 七,五七圓
- 重役 會長藤山雷太、常務上野壽、小倉敬止、取締若尾謹之助、守谷吾平、中野武

- 二、藤山愛一、望月怡治
- 監查內藤文治郎、伊澤良立
- 赤司初太郎、矢野莊三郎
- 決算期 五月、十一月
- 書替料 一通十錢

小田原紡織株式會社

出張所 神奈川縣足柄下郡足柄村 東京市京橋區日吉町

- 設立 大正五年
- 資本金 六,〇〇〇,〇〇〇圓
- 株數 內拂込 三,七五〇,〇〇〇圓
舊株 三〇,〇〇〇株
一株額面五圓拂込
新株 三〇,〇〇〇株
- 配當率 八年 九年
上 一〇〇
下 一〇〇

- 諸積立金 九四,五〇圓
- 後期繰越 六,九四圓
- 重役 會長飯田義一、常務益田信世、取締森格、荒川喜代次、監查武智直道、小柴

- 英一
- 決算期 五月、十一月
- 書替料 一通五錢、分割又新券交付料 一通三十錢

配當率

- 上 一〇〇
- 下 一〇〇

東京麻糸紡績株式會社

東京市京橋區八丁堀二ノ一 電話京橋 二〇〇番

- 設立 大正六年
- 資本金 四、五〇〇、〇〇〇圓
- 株數 內拂込 二、二五〇、〇〇〇圓
- 株數 舊株 三〇、〇〇〇株
- 株數 一株額面五圓拂込済
- 株數 新株 六〇、〇〇〇株
- 諸積立金 一三、五錢拂込
- 後期繰越 四、三〇〇圓
- 重役 社長星野錫、專務中川知一、常務湯淺徳次郎、取締役今泉知三郎、荒川勇男
- 決算期 五月、十一月
- 書替料 一通十錢、分割又新券交付料 一通廿錢
- 配當率(上) 大正六年 七年 八年 九年 一・五〇 一・五〇 一・五〇
- 配當率(下) 一・五〇 二・〇〇

東京紡績株式會社

東京市日本橋區浪花町二四

電話 一四六番 濱町 一四七番

- 設立 大正六年四月
- 資本金 三、〇〇〇、〇〇〇圓
- 株數 內拂込 一、〇〇〇、〇〇〇圓
- 株數 一株額面五圓內二・五錢拂込 六〇、〇〇〇株
- 諸積立金 八、三〇〇圓
- 後期繰越 三、三〇〇圓
- 重役 會長根津嘉一郎、常務岡田壯四郎、取締役村田由藏、川崎友之介、山本元三郎
- 決算期 六月、十二月
- 書替料 一通五錢、新券交付二十錢
- 配當率(上) 七年 八年 九年 〇・〇 〇・〇 〇・〇
- 配當率(下) 〇・〇 〇・〇

朝鮮紡織株式會社

朝鮮京城永樂町 出張所 東京市麴町區丸ノ内

- 設立 大正六年十一月
- 資本金 五、〇〇〇、〇〇〇圓
- 株數 內拂込 二、五〇〇、〇〇〇圓
- 株數 一株額面五圓內三圓拂込 一〇〇、〇〇〇株
- 後期繰越 七、七〇〇圓
- 重役 社長馬越恭平、常務藤吉十郎、取締役安部幸之助、山本悌二郎、棚瀬軍之佐、山本桑太郎、監査松方正熊
- 決算期 一月、七月
- 書替料 一通五錢、新券交付二十錢
- 配當率(上) 七年 八年 九年 〇・〇 〇・〇 〇・〇
- 配當率(下) 〇・〇 〇・〇

滿蒙毛織株式會社

東京市麴町區八重洲町

- 設立 大正七年十二月
 - 資本金 一〇、〇〇〇、〇〇〇圓
 - 株數 內拂込 二、五〇〇、〇〇〇圓
 - 株數 一株額面五圓內二・五錢拂込 二〇〇、〇〇〇株
 - 諸積立金 一五、七〇〇圓
 - 後期繰越 二、七三〇圓
 - 重役 專務前川通、江藤豐二、取締役荒井泰治、高橋虎太、枅内壬五郎、中谷庄兵衛
 - 決算期 四月、十月
 - 書替料 一通十錢、新券交付五十錢
 - 配當率(上) 七年 八年 九年 〇・〇 〇・〇 〇・〇
 - 配當率(下) 〇・〇 〇・〇
- 當社は豫て東京毛織と合併すべく假契約を締結し居たるも、相互の都合により假契約を取消し、合併せざる事に決定す。

足利紡織株式會社

東京市麴町區永樂町一ノ一

●設 立 大正八年十二月
 ●資本金 一〇,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株 數 內拂込 二,五〇〇,〇〇〇圓
 一 株額面五圓內三・五錢拂込 二〇〇,〇〇〇株

●諸積立金
 ●後期繰越 五,五八圓
 ●重役 社長岩原謙三、常務內田清藏、取締役津嘉一郎、芳川寛治、大橋新太郎、監

查坂井隆藏、鈴木紋次郎
 ●決算期 六月、十二月
 ●書替料 一通十錢、新券交付三十錢

旭紡織株式會社

東京市日本橋區吳服町二一

●設 立 大正八年十一月
 ●資本金 一五,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株 數 內拂込 三,五〇〇,〇〇〇圓
 一 株額面五圓內三・五錢拂込 三〇〇,〇〇〇株
 ●諸積立金 四,〇〇〇圓
 ●後期繰越 七,六〇〇圓
 (五月末)

●重役 會長菅原通敬、專務渡邊周、常務山本豐次、取締池田善四郎、賀田金三郎、川村鐵太郎、高條、田口義三郎、倉地鐵吉、藤崎三郎、助、藤田秀雄、荒井泰治、下田申二、石川慎一、武田

吉平、八木久兵衛、松原銳藏
 ●決算期 五月、十二月
 ●書替料 一通十錢、新券交付三十錢

内外紡績株式會社

東京市麴町區有樂町二丁目

電話 二五七番
丸ノ内

●設 立 大正八年十二月
 ●資本金 五,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株 數 內拂込 一,二五〇,〇〇〇圓
 一 株額面五圓內三・五錢拂込 一〇〇,〇〇〇株
 ●諸積立金

●後期繰越 五,三三圓
 ●重役 社長久米良作、常務江口彌一郎、伊井熊次郎、取締太田半六、若尾鐵之助、千賀康治、山崎文次、杉山金之助、村瀬竹次郎、監查

渡邊勝三郎、窪田四郎、清水貞雄
 ●決算期 六月、十二月
 ●書替料 一通十錢、新券交付料五十錢

日華紡織株式會社

本社 支那上海四川路
出張所 大阪市中之島二丁目

●設 立 大正七年七月
 ●資本金 一〇,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株 數 內拂込 六,〇〇〇,〇〇〇圓
 一 株額面五圓內三圓拂込 二〇〇,〇〇〇株
 ●諸積立金 四六,五〇〇圓

●後期繰越 六三,〇八圓
 ●重役 社長和田豊治、常務田邊輝雄、取締喜多又藏、河崎助太郎、伊藤竹之助、日比谷新次郎、矢野慶太郎、越智喜三郎、大島寛治、監

查野村德七、戶田榮藏、中村房次郎
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通十錢、新券交付料四十錢

●配當率(上) 八年 三〇〇
 (下) 九年 四〇〇
 二〇〇

羊毛整製株式會社

東京市京橋區五郎兵衛町一ノ二

●設立 大正八年十一月
 ●資本金 三,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 內拂込一,三〇〇,〇〇〇圓
 六〇,〇〇〇株
 一株額面五圓內三・五錢拂込
 ●配當率(上) 八年 九年
 一・〇〇 一・〇〇
 ●配當率(下) 一・〇〇

●諸積立金 三,三三〇圓
 ●後期繰越 六四,五五〇圓
 ●重役 社長久保勇、取締松尾久男、中谷庄兵衛、愛甲達岡田尙德、監查河合廉一、

●森川鹿藏
 ●決算期 三月、九月
 ●書替料 一通十錢、新券交付料五十錢

日本麻絲株式會社

東京市京橋區新看町

●設立 大正三年
 ●資本金 三,五〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 全額拂込濟 七〇,〇〇〇株
 一株額面五圓拂込濟
 ●諸積立金 三〇〇,〇〇〇圓
 ●配當率(上) 七年 八年 九年
 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇
 ●配當率(下) 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇

●社債金 一,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●後期繰越 七,〇〇〇圓
 ●重役 社長伊藤忠三、取締古橋銚太郎、河路重平、村山源助、藤井善助、中居篤次郎、西川甚五郎、監查石

●塚孝太郎、淺見又藏、柴林宗太郎
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢、新券交付料二十錢

臺灣製麻株式會社

電話臺中州豐原

●設立 大正元年
 ●資本金 二,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 五〇〇,〇〇〇圓
 四〇,〇〇〇株
 一株額面五圓內三・五錢拂込
 ●配當率(上) 七年 八年 九年
 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇
 ●配當率(下) 二・五〇 二・五〇 一・〇〇

●諸積立金 二四八,〇〇〇圓
 ●後期繰越 八,二七〇圓
 ●重役 社長林獻堂、取締小倉鎮之助、坂本素魯哉、永瀧久吉、松岡富雄、坂本治郎

●榑瀨軍之佐、監查山口誠太郎、林汝言、土岐儀
 ●決算期 三月、九月
 ●書替料 一通五錢、新券交付料二十錢

東京製線株式會社

橫濱市神奈川町百四十四

●設立 明治四十五年七月
 ●資本金 一,〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 全額拂込濟 三〇,〇〇〇株
 一株額面五圓拂込濟
 ●配當率(上) 八年 九年
 二・〇〇 一・〇〇
 ●配當率(下) 二・〇〇

●諸積立金 六〇,〇〇〇圓
 ●後期繰越 三〇,九〇〇圓
 ●重役 社長八塚平治、取締葉山太七、岡野利兵衛、田邊幸七、安部幸之助、監查川

●本多吉、鈴木丈司、深川鐘吉
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢、新券交付料二十錢

東海鋼業株式會社

東京市京橋區尾張町新地八

電話銀座二六〇八番

●設立 大正六年
 ●資本金 三、〇〇〇、〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 二、五〇〇、〇〇〇圓
 六〇、〇〇〇株
 ●株額面吾圓內毛。吾錢拂込 八〇、〇〇〇圓
 ●諸積立金
 ●配當率 上 六年 七年 八年 九年
 下 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇

●後期繰越
 ●重役 社長大川平三郎、取締 白石元次郎、田中榮八郎、片山謹一郎、下郷傳平、岡崎久次郎、鈴木杣藏、監査 大西良輔、長谷川太郎吉、
 下村齊次郎、熊澤一衛、藤田好三郎
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通廿錢、新券交 付料三十錢

株式會社 大島製鋼所

東京府南葛飾郡大島町

電話本所三三三八番

●設立 大正六年
 ●資本金 六、〇〇〇、〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 三、六〇〇、〇〇〇圓
 二〇〇、〇〇〇株
 ●株額面吾圓內毛圓拂込 一三五、〇〇〇圓
 ●諸積立金
 ●配當率 上 六年 七年 八年 九年
 下 二・〇〇 二・〇〇 一・二〇 一・二〇

●後期繰越
 ●重役 社長大川平三郎、專務 松野千勝、取締田中榮八郎、白石元次郎、大倉發身、黑板傳作、原正幹、中島統一、監査 藤澤武之助、山田馬次
 田直行、綾井忠彦、小野友次郎
 ●決算期 四月、十月
 ●書替料 一通十錢、新券交 付料 一通卅錢

株式會社 富士製鋼株式會社

東京市京橋區日吉町一五

電話銀座 自九五〇番 至九五二番

查松岡虎吉、谷川源次郎

●設立 明治三十七年七月
 ●資本金 二〇、〇〇〇、〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 八、七五〇、〇〇〇圓
 一〇〇、〇〇〇株
 ●株額面吾圓拂込濟 新株 三〇〇、〇〇〇株
 一、二五〇錢拂込
 ●配當率 上 四年 四年 元年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年
 下 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇

●諸積立金 六、九六五、三〇〇圓
 ●後期繰越 二、一〇四、三三三圓
 ●重役 社長岩原謙三、常務 敬二郎、小林作太郎、取締 シエー、アール、ギヤリ一團 琢磨、藤澤政次郎、納富馨 一、ブルースマン、監査前
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢、分割又 新券交付料 一通廿錢

●設立 大正六年十二月
 ●資本金 六、〇〇〇、〇〇〇圓
 ●株數 舊株 六〇、〇〇〇株
 一株額面吾圓拂込濟 六〇、〇〇〇株
 ●優先新株
 ●諸積立金 七九、〇〇〇圓
 ●繰越損金
 ●重役 會長淺野總一郎、常務 吉川雄輔、取締久保田權四郎、兒玉靜治皆川芳三、監
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通十錢 新券交 付三十錢

當社は九年七月資本金五百萬圓を二千萬圓に増加す。

●配當率(上) 六年 二〇〇〇
 ●配當率(下) 七年 二〇〇〇
 八年 二〇〇〇
 九年 一〇〇〇

月島機械株式會社

東京市京橋區月島通り五丁目 電話京橋 〇三四番

●設立 大正六年
 ●資本金 一、五〇〇、〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 五三、〇〇〇圓
 一株額面五圓內七、五錢拂込 三〇、〇〇〇株

●諸積立金 元、〇〇〇圓
 ●後期繰越 三〇、〇〇〇圓
 ●重役 會長大倉發身、專務黒板傳作、取締役田川新吉、大倉兼馬、宮崎好文、監査今

●決算期 四月、十月
 ●書替料 一通五錢、新券交付料二十錢
 ●井喜八郎

亞鉛電解鑛業株式會社

東京市京橋區銀座四ノ一

●設立 大正六年
 ●資本金 二、五〇〇、〇〇〇圓
 ●株數 全額拂込済 五〇、〇〇〇株
 一株額面五圓拂込済 二、九二〇圓

●後期繰越
 ●重役 社長山下秀實、專務小森立一郎、取締役安部幸之助、加島安治郎、小出淳太、久我金三郎、山口誠太郎、牧山熊二郎、監査西田信吉、

●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通十錢、新券交付料一通卅錢
 ●古賀三千人

●配當率(上) 六年 二〇〇
 ●配當率(下) 七年 二〇〇
 八年 二〇〇
 九年 二〇〇

大日本電球株式會社

東京府北豐島郡巢鴨町 電話小石川三一一番

●設立 大正四年
 ●資本金 二、〇〇〇、〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 一、五〇〇、〇〇〇圓
 一株額面五圓內三、五錢拂込 九五、四〇〇圓

●後期繰越
 ●重役 社長吉村鐵之助、取締役大橋新太郎、進經太、新莊吉生、シエー、アール、ギアリ、立川勇次郎、シー、イー、ランドル、監査大橋

●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢、新券交付料一通二十錢
 ●光吉、江藤甚三郎、田村貫一、若尾鴻太郎

日本電線株式會社

東京市南葛飾郡寺島村 電話本所二五〇番

●設立 明治四十年
 ●資本金 一、〇〇〇、〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 七〇〇、〇〇〇圓
 舊株 八、〇〇〇株
 一株額面五圓拂込済

●諸積立金 三五圓拂込 一五、三五〇圓
 ●後期繰越 一三、五〇〇圓
 ●重役 專務崎山刀太郎、取締

●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢、新券交付料一通廿錢
 ●鈴木市之助、小島周、監査長谷川榮太郎、稻茂登三郎

●配當率(上) 二年 一〇〇〇
 ●配當率(下) 三年 一〇〇〇
 ●配當率(上) 四年 一〇〇〇
 ●配當率(下) 五年 一〇〇〇
 ●配當率(上) 六年 一〇〇〇
 ●配當率(下) 七年 一〇〇〇
 ●配當率(上) 八年 一〇〇〇
 ●配當率(下) 九年 一〇〇〇

東京硫酸株式會社

東京府南葛飾郡太田町

●設立 明治三十八年
 ●資本金 一、五〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 一、〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 舊株 一〇,〇〇〇株
 ●株數 一株額面五圓拂込濟
 ●株數 新株 二〇,〇〇〇株
 ●諸積立金 三〇圓拂込
 ●後期繰越 五三、九三〇圓
 ●重役 會長大井卜新、專務柴田清之助、常務鈴木錠藏、取締平野幾三郎、秋田太郎
 ●兵衛、監查植田小太郎 藤井榮三郎
 ●決算期 六月、十二月
 ●書替料 一通五錢、新券交付料 一通廿錢

北海曹達株式會社

東京市日本橋區本町二ノ六

●設立 大正七年四月
 ●資本金 三、〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 一、五〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 一株額面五圓內五圓拂込
 ●諸積立金 六、〇〇〇圓
 ●後期繰越 二、〇〇〇圓
 ●重役 社長吉富磯一、專務小泉米藏、取締北島七兵衛、金岡又左衛門、淺野長七
 ●橋林太郎、石原正太郎、監查島田林太郎、廣田善八、堀内明三郎
 ●決算期 四月、十月
 ●書替料 一通五錢、新券交付料五十錢

●配當率(上) 八年 九〇
 ●配當率(下) 九〇

日本埧塙株式會社

東京府豊多摩郡澁谷町下澁谷

●設立 明治十六年四月
 ●資本金 一、〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 四七、五〇〇圓
 ●株數 舊株 五、〇〇〇株
 ●株數 一株額面五圓拂込濟
 ●株數 新株 一五、〇〇〇株
 ●諸積立金 一三、五錢拂込
 ●後期繰越 二九三、三四圓
 ●重役 會長岩崎清七、取締田口興淳、三枝守富、貴島勇介、山崎信一、監查八卷知
 ●道、竹田錠三郎、相談茂木七郎右衛門
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通五錢

帝國石油株式會社

東京市麴町區有樂町一ノ一

●設立 大正六年
 ●資本金 七、〇〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 內拂込 二、八〇〇,〇〇〇圓
 ●株數 一株額面五圓內五圓拂込
 ●諸積立金 一五、〇〇〇圓
 ●後期繰越 四、八九三圓
 ●重役 社長藤田謙一、專務岡和、取締長崎英造、石橋爲之助、宮尾麟、大井卜新、生野惠太郎、監查宇佐美薰次、金光庸夫、山下秀實
 ●瀨島猪之丞、風間八左衛門
 ●決算期 五月、十一月
 ●書替料 一通十錢、分割及新券交付料 一通廿錢